

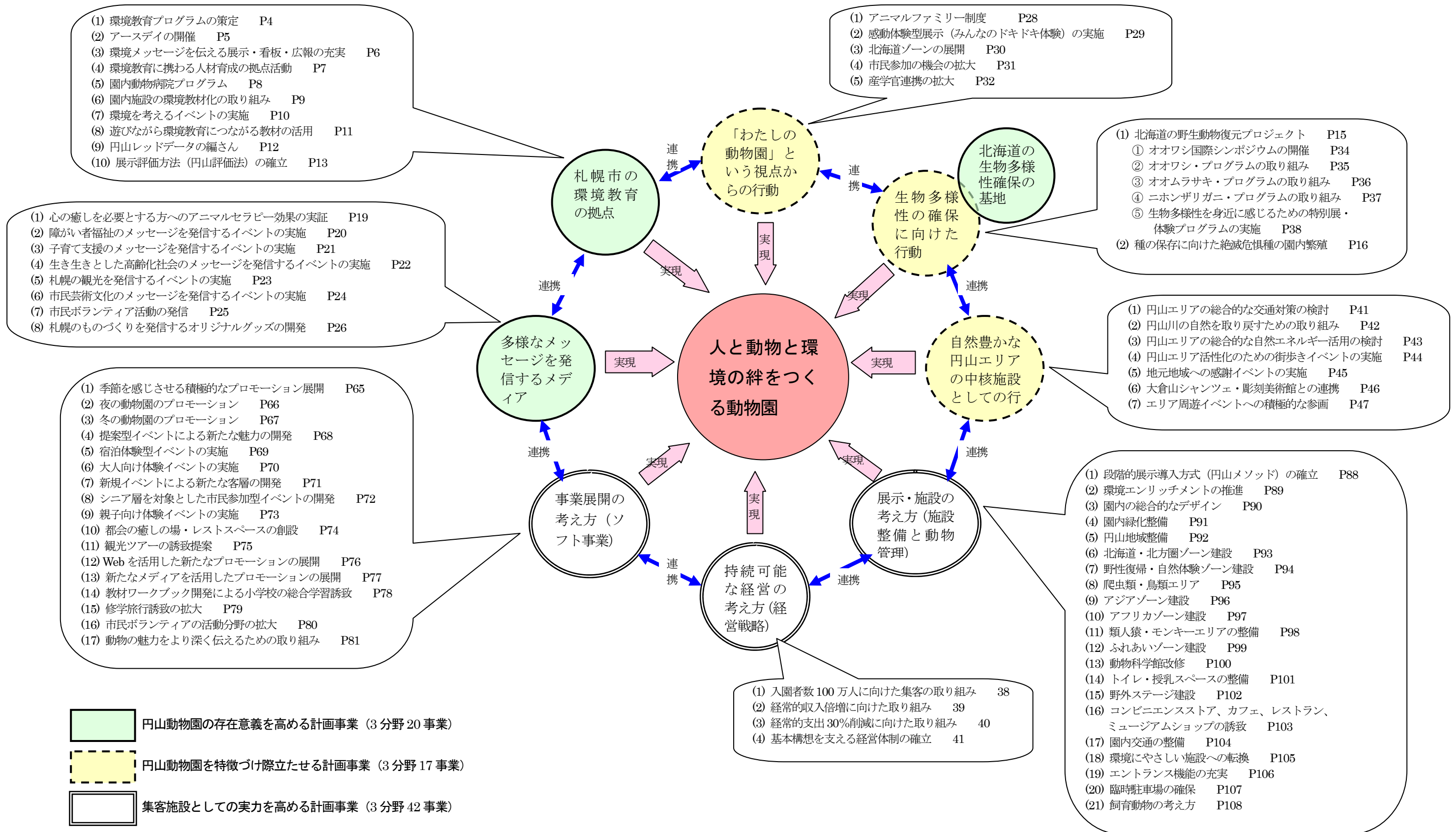
札幌市円山動物園 基本計画

Sapporo Maruyama Zoo master plan

平成 20 年 8 月

札幌市円山動物園

札幌市円山動物園 基本計画 計画事業の全体像



基本計画の策定にあたって

円山動物園では、2006年度(平成18年度)に円山動物園の利用者である市民が魅力を感じ、市民から愛され、そして「わたしの動物園」と市民に自慢してもらえる動物園をめざして、幅広い分野から斬新な意見を聞くため、市民、経済界、学識者、動物園運営、教育界などの分野の13名で構成する「札幌市円山動物園リスタート委員会」を設置。数々の議論を経て作成した基本構想(案)を市民に公表してその意見を反映し、2007年(平成19年)3月に「札幌市円山動物園基本構想」(以下「基本構想」という。)を策定しました。

これまで円山動物園は、札幌市民のレジャー、レクリエーション施設としての機能を強調し発展してきましたが、環境の世紀といわれる21世紀を迎え、生物の多様性が失われつつある今こそ、都市と自然、動物園と環境、市民生活と地球環境という視点から、公立動物園としての社会的役割を明確にし、動物園が抱える課題を整理し、解決の方向性を示すとともに、円山動物園の将来像を定めたところです。

そこで、2008年度(平成20年度)に、基本構想を実現するための「札幌市円山動物園基本計画」(以下「基本計画」という。)を策定することといたしました。

平成20年8月10日
札幌市円山動物園 園長 金澤 信治

1. 基本計画の位置づけ

この基本計画は、基本構想に基づくマスタープランの位置づけであり、特に施設整備に関しては、施設の老朽化に伴う長期の整備計画が必要なため、概ね10年間の施設整備上の課題を掲げた長期計画となっている。

ただし、開園60周年となる2011年度(平成23年度)までについては、集中取組期間と位置づけ、第2次札幌新まちづくり計画(2007～2010年度)との整合性を保ちながら、実施計画(アクションプラン)を兼ねて、より詳細に記載している。

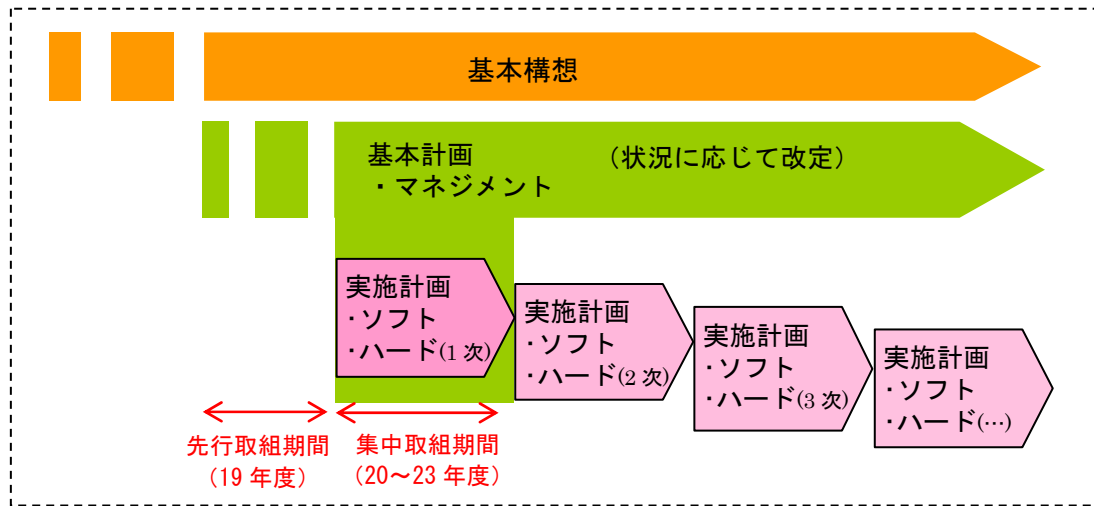
なお、2011年度(平成23年度)以降についても、札幌市の次期中期計画と整合性を持ちながら進める。

2. 経営環境の変化に伴う計画の修正について

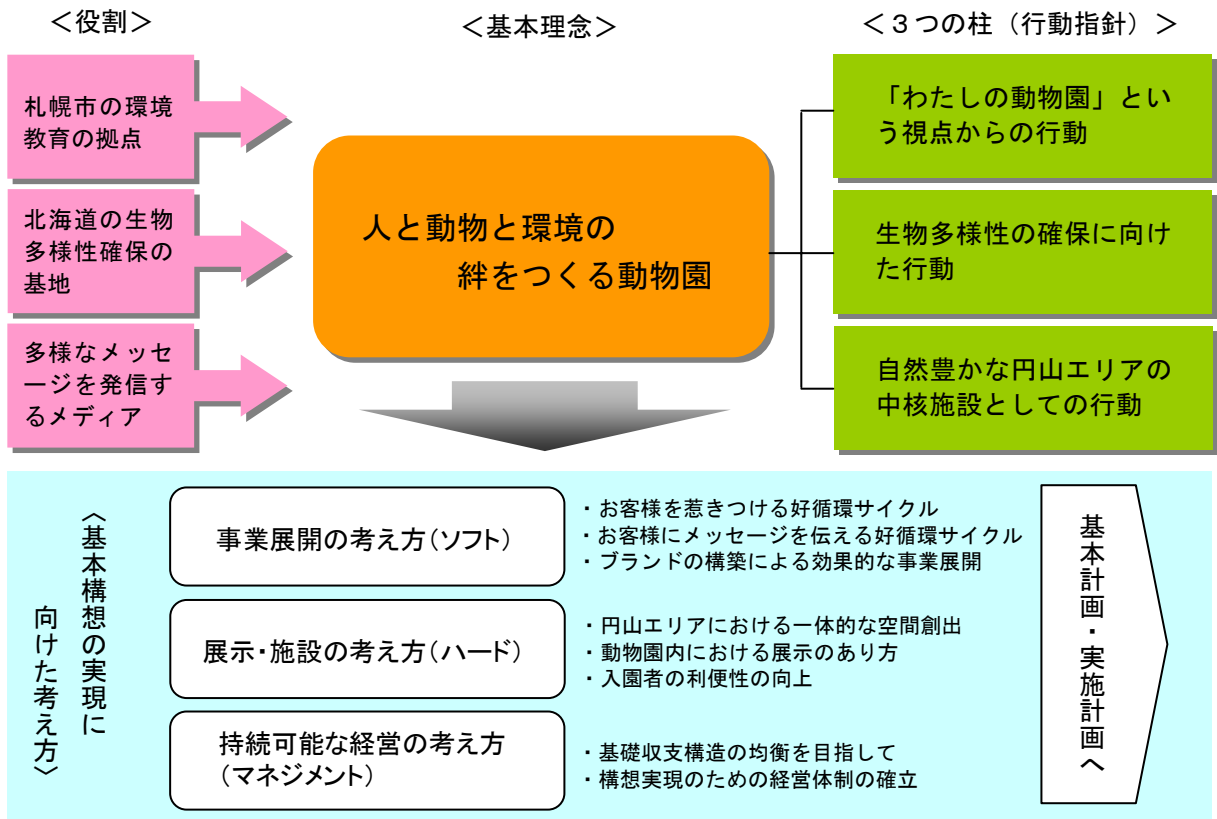
この基本計画は、2007年(平成19年)時点の経営環境をベースに策定したものであるが、札幌市の財政状況や原油価格・飼料価格の高騰、地球温暖化の影響など様々な外的要因によって常に実現可能性の検証が必要である。また、時代の流れに応じて動物園のあり方や動物園に対する市民ニーズにも変化が生じることや、国内外の動物園における飼育状況あるいは野生での生息状況によっては新たな動物の導入が難しくなることも視野に入れる必要がある。

よって、毎年度の札幌市の財政状況や園の収支状況に応じて、柔軟に計画年次等を変更することが想定されるが、あくまでも基本構想の理念の達成に向かって取組を継続するものである。

○ 基本構想と基本計画の流れ



○ 基本構想の構造図



3. 基本計画の考え方と構成について

本来、動物園が持つ機能としては、これまで重視してきたレクリエーション機能の他、環境教育、種の保存及び調査研究があり、これらの機能も充実していく必要があることを基本構想では強調してきた。

また、基本構想が示す3つの円山動物園の役割、3つの柱（行動指針）、さらに持続可能な経営の考え方（マネジメント）などの施策が連携して相乗効果をあげ、基本理念の「人と動物の環境をつくる動物園」を目指している。

これを受けた基本計画の構成も、基本構想の理念を実現するための概ね10年間の長期計画と短期の実施計画を兼ねたもので、「円山動物園の役割と行動指針」、「経営戦略とソフト事業」及び「施設整備と動物管理」の3部で構成している。

円山動物園では、絶滅の危機に瀕した動物たちも数多く飼育・展示しており、その本来の生息域で起こっている地球環境問題を市民に伝え、環境を守ろうというメッセージを発信している。野生動物の多様な生態や魅力ある行動は、恵み豊かな自然環境を大切に思う心をはぐくみ、自発的に環境行動をとる動機付けの機能を果たしている。

さらに、単に動物を見せるだけではなく、その生息域の環境や天候・気象、餌となる動植物との関係、食物連鎖、排泄物等の分解を担う微生物に至るまで、総合的な自然環境まるごと、あるいはそこで本来成立しているべき自然な物質と命の循環について、分かりやすく学ぶことができる。また、円山動物園内の施設でも自然エネルギーを活用したり省エネルギーを実践し、その成果を展示したりすることで、施設そのものも環境教育の教材として機能する総合的な環境教育の拠点を目指していく。

このため、動物が持つメッセージを活用した環境教育プログラムの開発拡充、種の保存や動物に関する調査研究等を行う体制を確立し、ソフトとハードが連携した総合的な学びの場を市民に提供することが重要との認識を持ち、ソフト重視の計画としている。

第1章の「円山動物園の役割と行動指針」では、基本構想に定めた「円山動物園の役割」、「3つの柱（行動指針）」に基づき計画事業を整理している。一般的に動物園が持つ機能の中から、札幌市民にとってどのような役割を持つことが望ましいかを考え、円山動物園の存在意義を高めるための計画事業を掲載した。また、どのような行動をとれば円山動物園らしさを強調できるかといった視点から、他園との差別化を図るための計画事業を掲載した。

第2章の「経営戦略とソフト事業」では、円山動物園を将来に向かって持続していくための長期の経営戦略と、集客施設としての魅力を向上させるためのソフト事業を整理している。

第3章の「施設整備と動物管理」では、第1・2章で打ち出している施策をハード面から支えるという構造をとっており、動物舎をはじめ来園者サービスや動線を考えた施設づくり全般について計画事業を掲載している。

飼育展示方法や動物舎の整備については、短期間に大規模な投資を行い整備することは、財政上の観点からも困難であることから、当面の全体の配置計画を示し、今後、動物舎ごとに詳細の設計を行っていくが、ここでは動物の飼育環境をこれまでの人間（管理）中心の考え方から、動物を中心とする動物福祉（環境エンリッチメント）の考え方に大きくシフトさせているのが特徴である。また、園外に広がる円山エリアにおける一体的な空間を創出する考え方も盛り込むとともに、来園者の利便性を向上する便益施設の整備、案内（サイン）の充実を図る計画事業を掲載している。

<各計画事業の個票の凡例>

「役割」の欄

- 1：札幌市の環境教育の拠点
- 2：北海道の生物多様性確保の基地
- 3：多様なメッセージを発信するメディア

「行動指針」の欄

- 1：「わたしの動物園」という視点からの行動
- 2：生物多様性の確保に向けた行動
- 3：自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動

目 次

I. 「円山動物園の役割と行動指針」編

1. 札幌市における円山動物園の役割(1) 札幌市の環境教育の拠点	1-3
(1) 環境教育プログラムの策定	4
(2) アースデイの開催	5
(3) 環境メッセージを伝える展示・看板・広報の充実	6
(4) 環境教育に携わる人材育成の拠点活動	7
(5) 園内動物病院プログラム	8
(6) 園内施設の環境教材化の取り組み	9
(7) 環境を考えるイベントの実施	10
(8) 遊びながら環境教育につながる教材の活用	11
(9) 円山レッドデータの編さん	12
(10) 展示評価方法(円山評価法)の確立	13
2. 札幌市における円山動物園の役割(2) 北海道の生物多様性確保の基地	14
(1) 北海道の野生動物復元プロジェクト	15
(2) 種の保存に向けた絶滅危惧種の園内繁殖	16
3. 札幌市における円山動物園の役割(3) 多様なメッセージを発信するメディア	17-18
(1) 心の癒しを必要とする方へのアニマルセラピー効果の実証	19
(2) 障がい者福祉のメッセージを発信するイベントの実施	20
(3) 子育て支援のメッセージを発信するイベントの実施	21
(4) 生き生きとした高齢化社会のメッセージを発信するイベントの実施	22
(5) 札幌の観光を発信するイベントの実施	23
(6) 市民芸術文化のメッセージを発信するイベントの実施	24
(7) 市民ボランティア活動の発信	25
(8) 札幌のものづくりを発信するオリジナルグッズの開発	26
4. 3つの柱(行動指針1)「わたしの動物園」という視点からの行動	27
(1) アニマルファミリー制度	28
(2) 感動体験型展示(みんなのドキドキ体験)の実施	29
(3) 北海道ゾーンの展開	30
(4) 市民参加の機会の拡大	31
(5) 産学官連携の拡大	32
5. 3つの柱(行動指針2) 生物多様性の確保に向けた行動	33
(1) オオワシ国際シンポジウムの開催	34
(2) オオワシ・プログラムの取り組み	35
(3) オオムラサキ・プログラムの取り組み	36
(4) ニホンザリガニ・プログラムの取り組み	37
(5) 生物多様性を身近に感じるための特別展・体験プログラムの実施	38
6. 3つの柱(行動指針3) 自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動	39-40
(1) 円山エリアの総合的な交通対策の検討	41
(2) 円山川の自然を取り戻すための取り組み	42
(3) 円山エリアの総合的な自然エネルギー活用への検討	43
(4) 円山エリア活性化のための街歩きイベントの実施	44
(5) 地元地域への感謝イベントの実施	45
(6) 大倉山シャンツェ・彫刻美術館との連携	46
(7) エリア周遊イベントへの積極的な参画	47

Ⅱ.「経営戦略とソフト事業」編

7. 持続可能な経営の考え方(経営戦略)	49-57
(1) 入園者数100万人に向けた集客の取り組み	58
(2) 経常的収入倍増に向けた取り組み	59
(3) 経常的支出30%削減に向けた取り組み	60
(4) 基本構想を支える経営体制の確立	61
8. 事業展開の考え方(ソフト事業)	62-65
(1) 季節を感じさせる積極的なプロモーション展開	66
(2) 夜の動物園のプロモーション	67
(3) 冬の動物園のプロモーション	68
(4) 提案型イベントによる新たな魅力の開発	69
(5) 宿泊体験型イベントの実施	70
(6) 大人向け体験イベントの実施	71
(7) 新規イベントによる新たな客層の開発	72
(8) シニア層を対象とした市民参加型イベントの開発	73
(9) 親子向け体験イベントの実施	74
(10) 都会の癒しの場・レストスペースの創設	75
(11) 観光ツアーの誘致提案	76
(12) Webを活用した新たなプロモーションの展開	77
(13) 新たなメディアを活用したプロモーションの展開	78
(14) 教材ワークブック開発による小学校の総合学習誘致	79
(15) 修学旅行誘致の拡大	80
(16) 市民ボランティアの活動分野の拡大	81
(17) 動物の魅力をより深く伝えるための取り組み	82

Ⅲ.「施設整備と動物管理」編

9. 展示・施設の考え方(施設整備と動物管理)	83-88
(1) 段階的展示導入方式(円山メソッド)の確立	89
(2) 環境エンリッチメントの推進	90
(3) 園内の総合的なデザイン	91
(4) 園内緑化整備	92
(5) 円山地域整備	93
(6) 北海道・北方圏ゾーン建設	94
(7) 野性復帰・自然体験ゾーン建設	95
(8) 爬虫類・鳥類エリア	96
(9) アジアゾーン建設	97
(10) アフリカゾーン建設	98
(11) 類人猿・モンキーエリアの整備	99
(12) ふれあいゾーン建設	100
(13) 動物科学館改修	101
(14) トイレ・授乳スペースの整備	102
(15) 野外ステージ建設	103
(16) コンビニエンスストア、カフェ、レストラン、ミュージアムショップの誘致	104
(17) 園内交通の整備	105
(18) 環境にやさしい施設への転換	106
(19) エントランス機能の充実	107
(20) 臨時駐車場の確保	108
(21) 飼育動物の考え方	109
●資料 施設整備関係図面等	110-126

I . 「円山動物園の役割と行動指針」 編



1. 札幌市における円山動物園の役割(1) 札幌市の環境教育の拠点

円山動物園は、市民一人ひとりが身近な場所で環境問題と自らの日常生活とのつながりに気づき、地球環境を守るための具体的な行動を起こしていけるよう、環境教育の拠点としての役割を果たす。

絶滅の危機に瀕した動物たちの飼育・展示を通じて、その動物たちの生息域における地球環境問題を訪れた市民にメッセージとして伝える。

また、円山動物園内における自然エネルギーの活用や資源の循環により、環境負荷軽減を図り、その成果を分かりやすく伝える解説や展示を行う。

このようにして、動物と施設の両面において環境に対するメッセージを発信する総合的な環境教育の拠点となる。

<計画概要>

(1) 環境教育プログラムの策定

円山動物園において実施する環境教育の様々な取組を体系的に整理し、より効果的に環境教育を推進していくためのプログラムを策定する。(20年度)

(2) アースデイの開催

世界的な環境イベントであるアースデイ（地球のことを考え行動する日）を、市民・企業・NPOなどと共同で開催し、地球環境を考えるきっかけづくりとする。(19年度～)

(3) 環境メッセージを伝える展示・看板・広報の充実

動物達が抱える地球規模での環境問題を各動物舎の説明看板、体験メニューにおける解説、動物園だより等の広報物などでより充実を図る。(19年度～)

(4) 環境教育に携わる人材育成の拠点活動

環境教育が普及するには指導者となる人材を育成することが重要であるため、環境教育の指導者講習会など、動物園を拠点とした支援活動を行う。(19年度～)

(5) 園内動物病院プログラム

日本初の公開型動物病院を活用した体験プログラムを実施する。獣医体験を通じて動物の生命から地球環境まで幅広いテーマで環境教育を行う。(18年度～)

(6) 園内施設の環境教材化の取り組み

自然環境教育の教材として、園内の植栽を体系的に紹介した樹木マップを制作する。
(19年度)

自然エネルギーや資源循環型設備を導入し、園内の環境負荷の軽減を図り、その成果をわかりやすく解説し展示することで、動物舎だけでなく施設そのものを環境教材化する。(21年度～)

(7) 環境を考えるイベントの実施

北国ならではの雪を活用した自然エネルギーの PR を地球温暖化により絶滅に瀕している動物たちと絡めたイベントとして園内で展開する。(19年度～)

(8) 遊びながら環境教育につながる教材の活用

環境 NPO が開発した環境教材を用いた遊びの実践や環境教育プログラムの一環として国際的なプログラムである「プロジェクト WILD・WET」、「ネイチャーゲーム」などの積極的活用を図る。(18年度～)

(9) 円山レッドデータの編さん

円山動物園が飼育・展示する希少動物（絶滅危惧種）をその生息域で起こっている地球環境の変化や絶滅危惧種に指定された理由とともに紹介する。(19年度～)

(10) 展示評価方法（円山評価法）の確立

展示や体験イベントにおいて環境メッセージやいのちの大切さを伝える際に、メッセージが入園者に正しく伝わっているかを検証する展示評価方法を確立する。(19年度)

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境教育プログラムの策定	1	2	20年度

概要

円山動物園において実施する環境教育の様々な取組を体系的に整理し、より効果的に環境教育を推進していくためのプログラムを策定する。
基本構想の基本理念「人と動物と環境の絆をつくる動物園」に基づき、「札幌の環境教育の拠点」としての役割を担う。

<これまでの展開事例>

- ・園内各イベント、動物病院における解説(動物の生息地の環境問題、地球温暖化の影響など)
- ・説明看板の設置(環境問題に併せ外来生物、飼育放棄、密猟、密輸など)
- ・総合学習の受入れ、動物園だよりの全校配布、飼育員の出前講座

<今後の展開事例>

- ・オオワシ、ニホンザリガニなどの「北海道の野生動物復元プロジェクト」における環境教育の実施
- ・施設リニューアルに伴い、自然エネルギーの活用や資源の循環など省エネルギーを実施し、動物、施設、メッセージをセットにした総合的な環境教育の実施

スケジュール

2007年度(平成19年度) 内部検討
2008年度(平成20年度) 策定、運用開始

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
アースデイの開催	1	1	19年度

概要

世界的な環境イベントであるアースデイ(地球のことを考え行動する日)イベントを、市民・企業・NPOなどと共同で開催し、地球環境を動物園から考えるきっかけづくりとする。

イベント名「Earthday Ezo 2007 in 円山動物園」

2007年(平成19年)に初めて、大通公園1丁目会場と円山動物園会場をオフィシャル会場として開催。地球は共にそこに暮らすみんなのものであり、動物と同じ目線で地球を考えようと円山動物園に集結。動物や自然、自然エネルギー、食べ物などをテーマにNPOや企業、学校など34団体が参加し、おもちゃ・子供服のフリーマーケットやクイズラリー、自然クラフト体験などを行う。本来の生息域での環境問題のために絶滅の危機に瀕している園内の動物たちから、人間への環境メッセージを伝える。

スケジュール

2007年度(平成19年度)実施済

- <第1回> 2007年(平成19年)4月22日(日) 9時30分～16時30分
- <第2回> 2008年(平成20年)5月25日(日) 9時30分～16時30分

参考図表等



正門付近



エゾシカの角を使った
クラフト体験



野外ステージでの
環境プログラム

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境メッセージを伝える展示・看板・広報の充実	1	1	19年度

概要

動物達が抱える地球規模での環境問題については、これまでも各イベントや説明看板などで積極的に周知・啓発しているが、今後は各動物舎の説明看板、ドキドキ体験メニューにおける解説、動物園だより等の広報物のほか、これまでの取組をさらに拡充し、環境メッセージとして伝える。

スケジュール

2007年度(平成19年度) 内部検討、一部試行実施
 2008年度(平成20年度) 随時、本格実施及び再検討

参考図表等



オオワシの環境メッセージ



ライオンの環境メッセージ



ドキドキ体験での解説
(ニホンザル)

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境教育に携わる人材育成の拠点活動	1	1	19年度

概要

環境教育がめざす「自ら考え環境に配慮した行動をできる人づくり」を行うためには、リーダーとなる人材を育成することが鍵となることから、環境教育の意義への理解、資質の向上を図るために支援(拠点活動)を行う。

＜展開事例＞

- ・プロジェクトWILD、プロジェクトWET指導者講習会(研修場所の提供)
- ・ネイチャーゲーム指導者講習会(研修場所の提供)
- ・学生等の研修受け入れ(研修場所の提供、環境メッセージを伝える)
- ・環境教育教材の共同開発(環境教育の意義への理解)

スケジュール

2007年度(平成19年度)実施済

＜主な開催日＞

- ・プロジェクトWILD、プロジェクトWET指導者講習会/2007年(平成19年)9月29日(土)・30日(日)
- ・ネイチャーゲーム指導者講習会/2007年(平成19年)11月9日(金)～11日(日)

参考図表等

「プロジェクトWILD」

私たちひとりひとりが、野生生物と自然資源に対し、責任ある行動をとれるようになることを目標とした環境教育プログラムです。プログラムは幼稚園から高校まで、さまざまな教育現場で活用することができます。

アメリカで開発されたプロジェクト・ワイルドは、日本での普及にともない、日本の野生生物や生態系に則した改訂がされました。

ホームページ

<http://www.projectwild.jp/>

「ネイチャーゲーム」

1979年、米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により発表された自然体験プログラムです。いろいろなゲームを通して、自然の不思議や仕組みを学び、自然と自分が一体であることに気づくことを目的としています。

自然に関する特別な知識がなくても、豊かな自然の持つさまざまな表情を楽しめるのが、ネイチャーゲームです。

ホームページ

<http://www.naturegame.or.jp/>

項目名	役割	行動指針	実施時期
園内動物病院プログラム	1	1	18年度

概要

日本初の公開型動物病院を活用した体験プログラムを実施する。
動物園で仕事をする獣医師の模擬体験を通して、動物の生命から地球環境まで幅広いテーマで環境教育を行う。

＜体験内容＞

1. 解説(20分)

動物病院・獣医師の役割/動物園の役割/機器類、薬品等の説明/治療中、入院中の動物の説明

2. 診察・治療体験(30分)

診察・検査体験(心電図検査/超音波検査/X線検査/糞便検査/採血/検卵/心臓音の聴診)

治療体験(対象動物に実際に必要な治療/マイクロチップ埋め込み/ぬいぐるみを使用した縫合術)

3. 吹き矢体験(15分)

ぬいぐるみに向かって麻酔用吹き矢体験を実施

4. 骨格標本の比較解説(10分)

骨格標本の解説/草食獣、肉食獣等の頭骨比較、食性、生態、進化について説明

スケジュール

2006年度(平成18年度) 小中高校生を対象に実施済

2007年度(平成19年度) 大人も対象に加え毎週土曜日に実施

参考図表等



園内動物病院



ぬいぐるみで吹き矢体験

項目名	役割	行動指針	実施時期
園内施設の環境教材化の取り組み	1	2	19年度

概要

動物舎だけでなく、園内施設の環境教材化の取り組みとして、以下の取組を行う。

- ・自然環境教育の教材として、園内の植栽を体系的に紹介した樹木マップを制作
- ・園内に自然エネルギーや資源循環型設備を導入し、園内で使用しているエネルギー利用方法を見直すことにより、環境負荷の軽減を図ることや、その成果をわかりやすく解説を加えて展示することで施設そのものを環境教材化することを目指す。

スケジュール

2007年度(平成19年度)
 9月 園内の主な樹木に樹名板を設置
 10月 樹木マップ(高木)を制作、ホームページ公開、動物園入口、動物園センターで配布
 2008年度(平成20年度)～
 低木についても、樹名板の設置と低木マップの作成を行う
 2009年度(平成21年度)～
 園内の自然エネルギー設備や資源循環型設備の設置に合わせて、環境負荷の軽減などの成果について解説などを整備し環境教材化を順次進める。

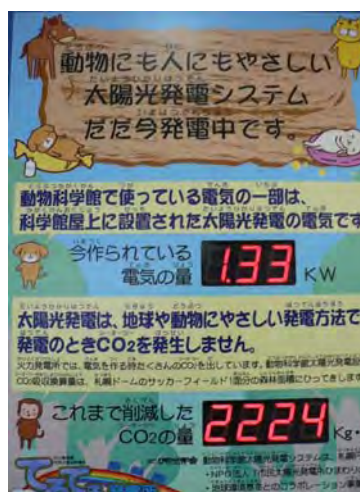
参考図表等



樹名板の設置



樹木マップ



動物科学館の太陽光発電

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境を考えるイベントの実施	1	1	19年度

概要

北国ならではの雪を活用した自然エネルギーのPRを地球温暖化により絶滅に瀕している動物たちと絡めたイベントとして園内で展開する。

イベント名「真夏の雪まつり ～美唄から30トンの雪がやってくる！～」

道内の企業や大学・行政らによる「美唄自然エネルギー研究会」が保管している雪を園内に運び込み、ホッキョクグマやアザランの飼育スペースに展示するとともに、雪を活用した冷風機など自然エネルギー機器を展示する。あわせて札幌市の雪対策の取り組みを紹介することで、来園者に環境と自然エネルギーを考えるきっかけづくりを行う。

当日は美唄市の物産展やボランティア制作によるスノーキャンドル等でイベント自体を盛り上げる。

【主催】 美唄自然エネルギー研究会、美唄市、円山動物園

【共催】 美唄観光物産協会

【協力】 社団法人札幌青年会議所

スケジュール

2007年度(平成19年度)実施済

<日時> 2007年(平成19年)8月11日(土) 9時～21時(夜の動物園開催日)

その他の環境イベント例

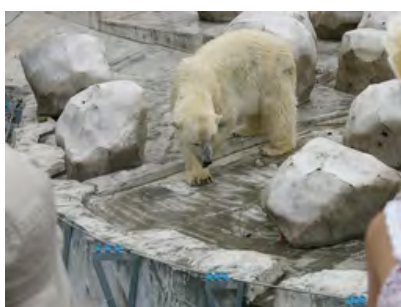
・アースデイ(2007年4月22日開催)

・環境省チーム・マイナス6%こども地球温暖化影響展(2008年2月2日開催)

参考図表等



地元中学生によるボランティア



雪に囲まれるホッキョクグマ



スノーキャンドルづくり

項目名	役割	行動指針	実施時期
遊びながら環境教育につながる教材の活用	1	2	18年度

概要

園内のイベントにおいては、環境NPOが開発した環境教材を用いた環境教育遊びの実践や環境教育プログラムの一環としてプロジェクトWILD、プロジェクトWET、ネイチャーゲームなどの積極的活用を図る。

イベント名「サンデーセミナー ヒグマカルタ」(NPOが開発した教材の活用)
親子でヒグマカルタで遊び、クイズや実際にヒグマを観察しながら解説を聞きヒグマの生態、習性について知るとともに、野生動物との係わりについて理解を深めてもらう。

イベント名「環境教育ワークショップ」(公式環境プログラムの活用)
プロジェクトWILD、プロジェクトWETのエducator(指導者)資格のある職員のもと、環境教育プログラムを園内で実践する。

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

・ヒグマカルタ:2007年1月

2007年度(平成19年度)実施済

・プロジェクトWILD、プロジェクトWETエデュケイター養成講習会:2007年9月

・ネイチャーゲームリーダー養成講習会:2007年11月

・プロジェクトWILDを活用した環境教育プログラムの実施(こども動物園):2007年11月～

・ヒグマカルタ:2008年1月

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
円山レッドデータの編さん	1	2	19年度

概要

円山動物園が飼育・展示する希少動物(絶滅危惧種)のうち、現在、絶滅の危機に陥っている動物に関してリストアップし、その生息域で起こっている地球環境の変化や絶滅危惧種に指定された理由、一人ひとりが行動すべき環境のための取組をメッセージとして伝える。
提供方法としては、レッドデータのWeb掲載、各種媒体への情報提供・データ活用を行う。

スケジュール

2007年度(平成19年度) データ作成
2008年度(平成20年度) 看板の製作、レッドデータのWeb掲載、各種媒体への情報提供・データ活用

参考図表等



ホッキョクグマ(ピリカとララ)

＜レッドデータの一例(ホッキョクグマ)＞

地球温暖化の影響で、北極圏の平均気温は20世紀(100年間)で5度も上昇し、北極の海水は約40%も減少したといわれています。

北極圏の気温が上がると、氷の溶ける時期が早まるため、氷上でアザラシを捕らえているホッキョクグマにとって、主食のアザラシを食べる機会が少なくなります。

そのため、北極圏の暮らしに適したホッキョクグマは温暖化が進むと生きていけません。

項目名	役割	行動指針	実施時期
展示評価方法(円山評価法)の確立	1	2	19年度

概要

円山動物園では「何らかのメッセージを伝えるために動物を飼育・展示する」という考えのもと、展示方法や体験イベントにおいて環境メッセージやいのちの大切さを伝えている。その際に、動物園が伝えたいメッセージがお客様に正しく伝わっているかを検証する展示評価方法が必要なためこれを確立する。また、常に評価に基づいて展示の改善をするために「企画→実施→評価→改善」のマネジメント・サイクルを導入する。これらを国内の動物園に先駆け「円山評価法」として確立する。

<具体的な取組方法>

「みんなのドキドキ体験」実施時に参加者に簡単なアンケートを実施、本来伝えたいメッセージが伝わっているかを検証する。

スケジュール

2007年度(平成19年度) 内部検討、一部試行実施

2008年度(平成20年度) 本格運用開始

参考図表等

--

2. 札幌市における円山動物園の役割(2) 北海道の生物多様性確保の基地

生物多様性の確保にあたっては、動物園を取巻く自然の生態系と調和し、失われつつある地元の自然を修復し再生する、より能動的な行動に移行することが重要である。

北海道に固有の野生動物にあっても絶滅危惧種が少なくないことから、この繁殖と自然への復元に力点を置くことが北海道にある動物園の使命であり、高い飼育技術を持つ円山動物園がその指導的立場を担っていくことが求められている。

北海道の中でも開発が進んだ札幌市は、特に野生動物の減少が著しい状況にあり、これらの自然への復元作業を市民・企業・大学等の研究機関とともに横断的な連携で実行し、市民参加による環境保全活動を行う。

<計画概要>

(1) 北海道の野生動物復元プロジェクト

北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の動物園や研究・活動機関と連携しながら円山動物園の繁殖技術で復元し、鷹匠技術により飛行訓練を行い、自然界に放鳥・野生復帰させることに挑戦する。

動物園敷地に隣接する円山原始林や円山川、円山公園との連続性の中で、札幌の原風景を取り戻すためにエゾリスやエゾモモンガ、オオムラサキ、オニヤンマ、ニホンザリガニなど身近な動物の繁殖や自然への復元作業を市民とともに取り組む。(18年度～)

(2) 種の保存に向けた絶滅危惧種の園内繁殖

国内外の動物園や研究機関と連携しながら、絶滅が危惧される動物を積極的に繁殖し、飼育下において個体数の維持、増加を図る。「ペア飼い」又は「群れ飼い」を原則とし、エンリッチメントにも十分配慮しながら、繁殖に適した飼育環境の確保に努める。

また、個々の動物種が絶滅の危機に陥った生息域での状況を明確に説明し、環境保全に対する意識を喚起していく。(18年度～)

項目名	役割	行動指針	実施時期
北海道の野生動物復元プロジェクト	2	2	18年度

概要

北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の動物園や研究・活動機関と連携しながら円山動物園の繁殖技術で復元し、鷹匠技術により飛行訓練を行い、自然界に放鳥・野生復帰させることに挑戦する。

また、北海道の中でも開発が進んだ札幌市においては特に野生動物の減少が著しい状況にあり、動物園敷地に隣接する円山原始林や円山川、円山公園との連続性の中で、札幌の原風景を取り戻すためにエゾリスやエゾモモンガ、オオムラサキ、オニヤンマ、ニホンザリガニなど身近な動物の繁殖や自然への復元を市民とともに取り組んでいく。

自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関とともに横断的な連携で実行していくとともに、環境教育プログラムとして観察会などを行い、自然の生態系との調和の必要性や復元作業自体を市民に普及することを促進する。

スケジュール

オオワシ、シマフクロウ等

2007年度（平成19年度～） 環境省、ロシア政府、研究者等との調整
 2008年度（平成20年度） 繁殖用ケージ、トレーニングケージの建設
 放鳥計画の策定

2009年度以降（平成21年度～） 保護個体での放鳥試行

オオムラサキ

2007年度（平成19年度～） 園内での生息環境調査、観察会、特別公開
 2008年度（平成20年度～） エゾエノキの苗育成、展示用エゾエノキの鉢整備

オニヤンマ、ニホンザリガニ等

2007年度（平成19年度） ビオトープ協議会設立、ビオトープ基本設計、ザリガニ展示
 2008年度（平成20年度） ザリガニ繁殖計画策定、ビオトープ造成
 2009年度（平成21年度～） ビオトープ運営管理

参考図表等

			
オオワシ	シマフクロウ	オオムラサキ	ニホンザリガニ

項目名	役割	行動指針	実施時期
種の保存に向けた絶滅危惧種の園内繁殖	2	2	18年度

概要

現在、地球上では1年に数万種のペースで生物が絶滅していると考えられている。円山動物園では、日本で初めて繁殖に成功した園に贈られる日本動物園水族館協会の繁殖賞をこれまで23種の動物について受賞しており、高い繁殖技術を有しているとともに、ホッキョクグマなど希少動物34種(2007年10月末現在)を飼育している。今後も、種の保存に向けた取組として国内外の動物園や研究機関と連携しながら、絶滅が危惧される動物を積極的に繁殖し、飼育下において個体数の維持、増加を図る。このため、従来からのいわゆる「一頭飼い」から「ペア飼い」又は「群れ飼い」を原則とし、エンリッチメントにも十分配慮しながら、繁殖に適した飼育環境の確保に努めていく。また、個々の動物種が絶滅の危機に陥った生息域での状況を明確に説明し、環境保全に対する意識を喚起していく。

<取組事例>

ホッキョクグマ(雄1、雌2飼育)

地球温暖化の影響により国際自然保護連合(IUCN)レッドリスト2006年版から絶滅危惧種に指定された。

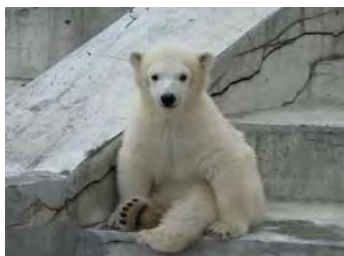
2000年以降、国内では唯一、円山動物園だけで自然繁殖・生育に成功している。

【実績】 ツヨシ(2003年,雄)、ピリカ(2005年,雄)

スケジュール

随時

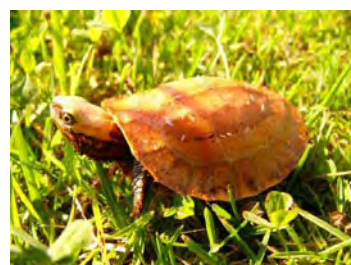
参考図表等



ホッキョクグマ ピリカ



ユキヒョウ リーベ(雌)



カンボジアモエギハコガメ
繁殖個体

3. 札幌市における円山動物園の役割(3) 多様なメッセージを発信するメディア

円山動物園を通じて札幌市の施策と連携した様々なメッセージを発信していく。

動物をとおして「いのちの大切さ」を、子どもを育てる動物の行動からは「親子の愛」を、動物園を取り巻く円山の自然環境を守る行動からは札幌ひいては北海道の「地元の自然環境を思う気持ち」などのメッセージを伝える。

また、観光資源として「さっぽろ観光」を、イベントを通じて「地産地消」「芸術」「市民との協働」「子育て支援」「福祉」といった様々な発信を行う。

<計画概要>

(1) 心の癒しを必要とする方へのアニマルセラピー効果の実証

札幌市立大学との共同研究により、動物とのふれあいや体験を通じたアニマルセラピー効果の検証を行い、円山動物園がもつ癒し効果を実証し提供していく。(19年度～)

(2) 障がい者福祉のメッセージを発信するイベントの実施

円山動物園を舞台に、障がいのある方の外出機会の確保や社会活動の促進につながるイベントを行う。あわせて園内のバリアフリー化を進める参考意見を収集する。(18年度～)

(3) 子育て支援のメッセージを発信するイベントの実施

円山動物園を舞台に、子育て支援のためのイベントを行う。その中で子育て中の親への相談指導を行うほか、高齢者ボランティアの「昔あそび」などによる三世代交流や道産食材を使ったメニューで地産地消の啓発を行う。(19年度～)

(4) 生き生きとした高齢化社会のメッセージを発信するイベントの実施

敬老の日に、高齢動物の健康と長寿を祝うためのイベントを開催し、親子三世代での来園を呼びかける。あわせて円山動物園の高い飼育技術と快適な飼育環境をアピールする。(19年度～)

(5) 札幌の観光を発信するイベントの実施

多くの観光客を迎える「さっぽろ雪まつり」の開催時期に合わせ、冬の動物園を観光資源化するイベントを行う。あわせて園内に札幌のものづくりとブランド化を進める「札幌スタイル」認証商品を展示し、観光客へのPRを行う。(18年度～)

(6) 市民芸術文化のメッセージを発信するイベントの実施

円山動物園を舞台に市民による芸術作品を紹介するイベントを行う。市民参加により動物にちなんだ芸術作品を多数展示するとともに、動物を観察することの楽しさを広め人と動物の関係性を深める。(18年度～)

(7) 市民ボランティア活動の発信

札幌市における市民ボランティア活動の代表事例として動物園ガイドボランティアをより充実させるとともに、イベント、ふれあい指導、園芸・修繕、清掃等の活動全般に市民ボランティアを浸透させていく。(18年度～)

(8) 札幌のものづくりを発信するオリジナルグッズの開発

円山動物園オリジナルグッズを開発するにあたって、道産素材や地元企業の技術力をアピールできるようパートナーを選定し、円山動物園とともに札幌のものづくりを広く発信し産業振興に役立てていく。(18年度～)

項目名	役割	行動指針	実施時期
心の癒しを必要とする方へのアニマルセラピー効果の実証	3	1	19年度

概要

札幌市立大学との共同研究により、動物とのふれあいや体験を通じたアニマルセラピー効果の検証を行い、医学的にセラピー効果を必要とする方から不登校児やストレス社会で癒しを求める方までを対象に、円山動物園がもつ癒し効果を実証し提供していく。

＜動物とのふれあいや体験の実践＞

カンガルーの散歩体験、猛禽類のフライト・鷹匠体験、ウサギ・モルモットとのふれあい、動物病院入院動物観察、園内動物観察

スケジュール

2007年度(平成19年度) 実証実験(6・7・8月) ふれあい体験や動物観察によるセラピー効果の検証
 2008年度(平成20年度) 検証に基づき対象を一般来園者や不登校児に拡大し検証

参考図表等



セラピー効果をもつふれあい体験

項目名	役割	行動指針	実施時期
障がい者福祉のメッセージを発信するイベントの実施	3	1	18年度

概要

円山動物園を舞台に、障がいのある方の外出機会の確保や社会活動の促進につながるイベントを行う。
あわせて園内のバリアフリー化を進める参考意見を収集するとともに、障がい者福祉への理解が広がるためのきっかけとする。

イベント名「障がい者夜の動物園特別招待日 ハーティナイト」
障がい者団体、養護学校などに呼びかけ、障がいのある方とそのご家族、介護者を閉園後の動物園に無料招待し、ゆったりと夜の動物園を楽しんでいただけるよう「ハーティナイト」を開催する。

【共催】 札幌市円山動物園、札幌市保健福祉局保健福祉部

【協力】 社団法人札幌市身体障害者福祉協会、社団法人札幌市手をつなぐ育成会、特定非営利活動法人札幌市精神障害者家族連合会、札幌市社会福祉協議会、企業ボランティア

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

<第1回> 2006年(平成18年)8月10日(木) 17時～20時30分

<第2回> 2007年(平成19年)7月27日(金) 17時～20時30分

<第3回> 2008年(平成20年)7月19日(土) 17時30分～20時

※2008年(平成20年)4月には、社会福祉協議会ボランティア研修センターの主催により、園内で視覚障がい者ガイドヘルパー研修及び車イスガイドヘルパー研修が行われた。

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
子育て支援のメッセージを発信するイベントの実施	3	1	19年度

概要

円山動物園を舞台に子育て支援のためのイベントを行う。
あわせて子育て中の親への相談指導を行うほか、ボランティアによる三世代交流や地産地消フードメニューの啓発を行う。

イベント名「kids zoo(キッズ・ズー)」

子育て世代の親子を対象に、動物園を子育てサロンに見立て、子どもたちには絵本の読み聞かせや昔遊び(お手玉等)のメニューを用意。

親には子育ての不安やストレスを解消すべく、子育てコーチングやアロマセラピー、マッサージなどのレスパイト(息抜き)サービスを提供。

フードメニューは地産地消にこだわり、食育の機会とする。

【主催】 札幌市子育て支援部、札幌市円山動物園、NPO

【協力】 市内飲食店、昔遊びボランティア、企業ボランティア等

スケジュール

2007年度(平成19年度)実施済

- <第1回> kids zoo 2007年(平成19年)5月19～20日
- <第2回> kids zoo夏祭り 2007年(平成19年)8月29～30日
- <第3回> kids zooクリスマス 2007年(平成19年)12月21～22日
- <第4回> 春待ちkids zoo 2008年(平成20年)3月20～21日
- <第5回> kids zoo母の日 2008年(平成20年)5月11～12日

※2008年度から「子育てサロンin円山ZOO」として実施する。

参考図表等



ボランティアと子どもの遊び場



ハンドマッサージのサービス



地産地消の移動販売車

項目名	役割	行動指針	実施時期
生き生きとした高齢化社会のメッセージを発信するイベントの実施	3	1	19年度

概要

円山動物園では、高い飼育技術と快適な飼育環境の整備により、マサイキリンやコンドルなど国内最高齢の長寿動物を数多く飼育している。
 こうした長年飼育動物、高齢動物の健康と長寿を祝うためのイベントを開催し、高齢者がいつまでも元気に生活を楽しんでいただくため、お孫さんと一緒に来園を呼びかける。

イベント名「どうぶつ敬老の日」

長年飼育動物、高齢動物の看板設置、特別メニューのエサ提供し長寿を祝う

イベント名「カバの誕生会」

長年飼育動物のカバの誕生会を開催し、オカラのケーキをプレゼント

イベント名「カバの歯みがき」

虫歯の日(6月4日)といい歯の日(11月8日)に合わせて、カバの歯みがきを公開し、歯の大切さを啓発

イベント名「突撃パチリサービス」

園内に記念撮影サービスと臨時郵便局を開設、お孫さんからの写真付き敬老祝いハガキを送る

スケジュール

2007年度(平成19年度)実施済

2007年(平成19年)7月15・16日 カバの誕生会

2007年(平成19年)9月15日 どうぶつの敬老の日

2007年(平成19年)9月15日 突撃パチリサービス

2007年(平成19年)6月3日・11月4日 カバの歯みがき

参考図表等



どうぶつ敬老の日
チンパンジ ガチャ(雌)



カバの歯みがき



カバの誕生会

項目名	役割	行動指針	実施時期
札幌の観光を発信するイベントの実施	3	1	18年度

概要

札幌市の代表的なイベントである雪まつりに合わせ、冬の動物園を観光資源化するイベントを行う。あわせて園内に札幌のものづくりとブランド化を進める「札幌スタイル」認証商品を展示し、観光客へのPRを行う。

イベント名「円山動物園スノーフェスティバル」

来園者の激減する冬季間のイベントとして、園内で町内会、企業ボランティア、青年会議所ボランティア等の協力により氷のすべり台3基、チューブスライダー1基を設置し、来園者に楽しんでもらうとともに冬の動物たちへの関心を喚起する。

日本山岳会北海道支部によるイグルー制作や動物園ガイドボランティアによる雪だるま制作なども行う。

すべり台会場となる第一レストハウスでは、温かい飲み物などを提供するとともに、札幌スタイル認証商品の展示や体験コーナーを設けPRを行う。

【主催】スノーフェスティバル実行委員会

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

<第1回>2007年(平成19年)2月4～12日

<第2回>2008年(平成20年)2月3～11日

参考図表等



冬遊びを楽しむ子どもたち

項目名	役割	行動指針	実施時期
市民芸術文化のメッセージを発信するイベントの実施	3	1	18年度

概要

円山動物園を舞台に市民による芸術作品を紹介するイベントを行う。
市民参加により動物にちなんだ芸術作品を多数展示するとともに、動物を観察することの楽しさを広め人と動物の関係性を深める。

イベント名「円山動物園芸術祭」

動物をモチーフにした芸術作品は多く存在するため、札幌市及び近郊で活動するプロからアマチュアまでの作品(彫刻、絵画、写真等)を園内に展示するとともに、作品づくりを体験できるワークショップを行い、市民が気軽に芸術に触れる機会をつくとともに、これまで少なかったシニア層の来園者増につなげる。

作品には飼育員による動物彫刻や札幌盲学校の児童による手作り作品などが含まれるほか、オランウータン弟路郎の絵画も展示。

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

<第1回>2006年(平成18年)10月21~29日

<第2回>2007年(平成19年)10月6~28日

19年度の期間中は、動物園ボランティアによるハロウィンも行われ来園者を盛り上げたほか、日本氷彫刻会の氷彫刻大会予選が行われた。

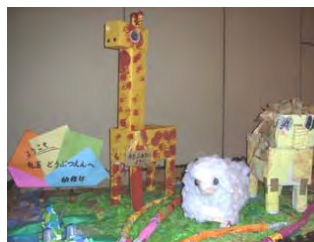
参考図表等



動物の彫刻作品



オランウータンによる絵画



盲学校の児童作品



氷彫刻大会

項目名	役割	行動指針	実施時期
市民ボランティア活動の発信	3	1	18年度

概要

札幌市における市民ボランティア活動の代表事例として「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」を目指し、これまでも行ってきた動物園ガイドボランティアをより充実させるとともに、イベント、ふれあい指導、園芸・修繕、清掃等の活動全般に市民ボランティアを浸透させていく。

- ・ガイドボランティア
ポイントガイド、ガイドツアー、ニュースレター発行(19年10月時点 登録者数120名)
- ・イベントにおけるボランティア
園内で行われる様々なイベントに実行委員会もしくは個人として参加・協力を行う。
- ・ふれあい指導におけるボランティア
大学生を中心にこども動物園でのふれあい指導や環境教育の手伝いを行う。
- ・園芸・修繕におけるボランティア
錆びた手すりの塗装ボランティアや植樹・植生調査などを行う。
- ・清掃等におけるボランティア
園内のごみ拾いや雑草抜きなどの手伝い、園内のデザインや来園者のための改善箇所の調査など。

スケジュール

- ・動物園ガイドボランティア制度(平成10年4月～継続実施)
- ・イベントボランティア(随時実施済)
- ・ふれあい指導(酪農学園大学学生により19年度実施済)
- ・園芸(小学生と塗装組合により例年実施済)
- ・修繕(植生調査は札幌科学技術専門学校生徒により19年度実施済)
- ・清掃(中学生、高校生等により随時実施済)
- ・園内調査(札幌市立大学生により18年度実施済)

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
札幌のものづくりを発信するオリジナルグッズの開発	3	1	18年度

概要

これまでほとんど開発してこなかった円山動物園オリジナルグッズを開発するにあたって、道産素材や地元企業の技術力をアピールできるようパートナーを選定し、円山動物園とともに札幌のものづくりを広く発信し産業振興に役立てていく。

売上げの一部は動物たちのエサ代として寄付されるため、購買者が動物とのつながりを感じることができる。今後は園外での販路拡大を目指す。

<展開事例>

- ・木のZOO(札幌スタイル認証商品)
社会福祉法人草の実会による道産木材の間伐材を加工したデザイン性の高い安全な動物型積み木
- ・GEL-COOま(札幌スタイル認証商品)
札幌のベンチャー企業による保冷材にGEL素材を使ったホッキョクグマデザイン弁当箱
- ・バターサブレ、飴、豆菓子
道産食材にこだわった札幌のお菓子メーカーの独自技術によるコラーゲン入り高機能食品

スケジュール

随時商品開発を実施

- ・木のZOOストラップ(2007年度/平成19年度実施済)
- ・GEL-COOま(2007年度/平成19年度実施済・完売)
- ・バターサブレ等(2007年度/平成19年度実施済)

参考図表等



手づくりの木のZOOシリーズ



コラーゲンお菓子シリーズ

異例のヒットとなった
GEL-COOま

4. 3つの柱（行動指針1） 「わたしの動物園」という視点からの行動

札幌市民をはじめ円山動物園を訪れる入園者が、誇りをもって「わたしの動物園」と自慢してもらえるような動物園づくりを行う。

感動体験型の展示（みんなのドキドキ体験）や地元の動物たちの飼育展示を通じて、親しみを持ってもらうとともに、市民・企業・研究機関などの参加機会を増やし「市民がつくる、市民の動物園」として定着させる。

また、「動物園にいる動物を見に行く」から「動物園に預けている私の動物に会いに行く」という入園者との関係性の変化を引き出すためアニマルファミリー制度を導入する。

<計画概要>

(1) アニマルファミリー制度

市民が動物との絆をむすび動物への理解を深めるため、個別の動物毎の情報をきめ細かく発信する「アニマルファミリー制度」を構築する。市民が選択した動物について、あたかも家族のように深く知り学べる仕組みづくりを行い、資金面においてもエサ代などをファミリーに一部負担していただく体制を構築する。（20年度）

(2) 感動体験型展示（みんなのドキドキ体験）の実施

体験や感動を通じて「いのちの大切さ」や「動物たちの生息域における環境問題」を学べる独自の展示法である段階的展示導入方式（円山メソッド）に基づき、「みんなのドキドキ体験」を実施し、動物たちの行動を間近で見たり、エサやりなど直接ふれあうことで、感動とともに高い学習効果を狙う。（18年度～）

(3) 北海道ゾーンの展開

地元に生息する動物にスポットをあて、身近なところから環境問題を考えるきっかけにするため、「北海道（北方圏）ゾーン」を設ける。地元重視の展示により、人と野生動物との関係や歴史を解説するとともに、地元の自然を守ることを啓発し、故郷への愛着を涵養する。（19年度～）

(4) 市民参加の機会の拡大

「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」を実現するため、ボランティアやワークショップ、寄付など市民一人ひとりが楽しみながら様々なかたちで自分なりに動物園に関われる機会をつくることによって、より動物や円山動物園に対する親近感が醸成され、「市民に愛され、自慢してもらえる動物園」となることを目指す。（18年度～）

(5) 産学官連携の拡大

共同研究や共催イベントなど事業の展開にあたっては、企業・大学等研究機関との連携により相乗効果やメリットを創出できるよう産学官連携を進めていく。（18年度～）

項目名	役割	行動指針	実施時期
アニマルファミリー制度	-	1	20年度

概要

これまでの「動物園で飼育されている動物を見に行く」という考えから「わたしの動物を動物園に預かってもらっている」「わたしの動物がいる動物園に会いに行く」という動物園と入園者の関係性の転換を行うことを目的とし、市民が動物との絆をむすび動物への理解を深めるため、個別の動物毎の情報をきめ細かく発信する「アニマルファミリー制度」を構築する。

市民が個々に選択した特定の動物について、あたかも家族のように深く知り学べる仕組みづくりを行い、資金面においてもエサ代などをファミリーに一部負担していただく体制を構築する。また、ファミリーが対象動物のプロデュースを飼育員と一緒に考えたり、PRと一緒にするなど参加型の展開に発展させていく。

＜サービスの内容＞

- ・定期的なニュースレターの送信(情報発信)
- ・誕生日イベントなどへの招待
- ・園内にファミリーのお名前を掲示
- ・その他 動画の配信など新サービス順次拡大

スケジュール

2008年(平成20年)2月 試行実施 募集開始
2008年(平成20年)4月 運用開始、対象動物を順次拡大

参考図表等

- ・対象動物
最終的に愛称のついている動物全てに拡大する。
- ・アニマルファミリーの資格
個人もしくは法人単位とする。
- ・アニマルファミリー料金の使途
ファミリーが負担した金額は全額動物たちのエサ代として寄付の扱いとする。
通信費・イベント経費は動物園の負担とする。
- ・料金設定(一口あたり/年間)
個人 大人5,000円、小人2,000円
法人 10,000円

項目名	役割	行動指針	実施時期
感動体験型展示(みんなのドキドキ体験)の実施	1	2	18年度

概要

円山動物園では、ただ通り過ぎる動物園ではなく、お客様がゆっくりとくつろぎ、体験や感動を通じて「いのちの大切さ」や「動物たちの生息域における環境問題」を学んでいただく独自の展示法として段階的展示導入方式(円山メソッド)を採用している。
これに基づき、単なる動物展示ではなく、定期的に「みんなのドキドキ体験」と称して各種体験プログラムを提供する。
動物たちの行動を間近で見たり、エサやりなど直接ふれあうことで、感動とともに高い学習効果を狙う。

＜みんなのドキドキ体験メニュー例＞

○ニホンザルの主食タイム

ニホンザルの生態を説明しながら野生動物と人間の共存を考える

○猛禽類のフリーフライトと鷹匠体験

トビやシロフクロウが手にとまる鷹匠体験と生態系保護のメッセージを伝える

○チンパンジー「レディ」のミルクタイム

人工哺育中「レディ」の群れ復帰訓練の経過報告といのちの大切さを伝える

スケジュール

2006年度(平成18年度) 31種類実施

2007年度(平成19年度) 32種類実施

2008年度(平成20年度) 45種類実施 ※体験メニュー数日本最多

体験メニューは、園内看板、園内放送、携帯サイト、ホームページで毎日告知

参考図表等



飼育員による解説が人気
「ニホンザルの主食タイム」



生態系の頂点にある猛禽類の
「フリーフライトと鷹匠体験」



事故で母親を亡くしたチンパンジー
「レディのミルクタイム」

項目名	役割	行動指針	実施時期
北海道ゾーンの展開	2	1	19年度

概要

地元である札幌、北海道の動物、円山の自然に生息する動物にもスポットをあて、私たちにとって身近なところから環境問題を考えるきっかけにするため、「北海道(北方圏)ゾーン」を設ける。同時に、観光に訪れる方々にも北海道の自然の素晴らしさを体験してもらえる場にする。
地元重視の展示により、人と野生動物との関係や歴史を解説するとともに、地元の自然を守ることを啓発し、故郷への愛着を涵養する。

スケジュール

2007年度(19年度) オオカミ解体、シカ・トナカイ解体、オオカミ・シカ舎新設(絶滅したエゾオオカミの歴史的事実、北海道のエゾシカの保護管理計画と現状についてのメッセージ発信)

2009年度(21年度)

エゾヒグマ館新設(ヒグマと人間の生活との共存についてのメッセージ発信)

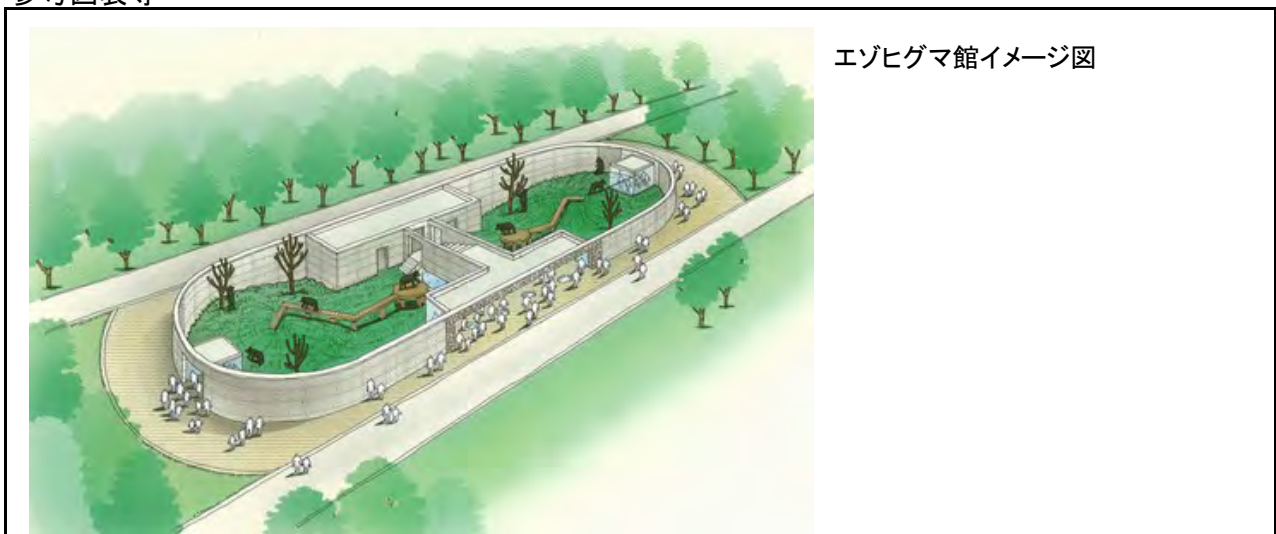
2011年度(23年度)以降

世界の熊館改修

第2ホッキョクグマ舎建設(地球温暖化への警鐘)

海獣ペンギン館建設、旧海獣舎解体

参考図表等



エゾヒグマ館イメージ図

項目名	役割	行動指針	実施時期
市民参加の機会の拡大	-	1	18年度

概要

「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」を実現するため、市民一人ひとりが楽しみながら様々なかたちで自分なりに動物園に関われる機会をつくる。
 このことを通じて、より動物や円山動物園に対する親近感が醸成され、「市民に愛され、自慢していただける円山動物園」となることを目指す。

<具体的な参画機会>

- ・寄付(2007年/平成19年10月～寄付募集のホームページを掲載)
- ・ボランティア(ガイドボランティアを随時募集)
- ・市民動物園会議の委員を市民公募(3名、2007年/平成19年8月委嘱、任期2年)
- ・子どもワークショップ(「子ども調査隊」2006年/平成18年12月実施)
- ・看板制作(札幌市立幌南小学校6年生制作、27枚設置)
- ・オオムラサキ越冬幼虫生息調査(2006年/平成18年11月～、専門高校生等)
- ・スノーフェスティバル氷のすべり台等制作ボランティア(2007年/平成19年2月～、町内会、青年会議所等)

スケジュール

随時実施

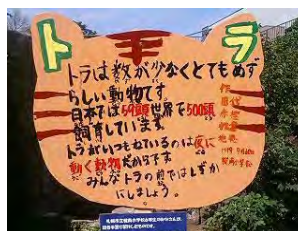
参考図表等



ボランティアの日



子ども調査隊



小学生の手づくり看板



オオムラサキ調査

項目名	役割	行動指針	実施時期
産学官連携の拡大	-	1	18年度

概要

事業の展開にあたっては、企業・大学等研究機関との連携により相乗効果やメリットを創出するよう産学官連携を進めていく。

＜具体的な連携機会＞

- ・企業広告、寄付の導入
ホームページバナー広告及び寄付ページ(2007年/平成19年10月実施済)
- ・イベントにおける連携
イベント用マイク設備の寄贈、実物大タペストリー制作費の寄付(2006年/平成18年度実施済)
ふれあいイベントへの酪農学園大学ボランティア(2007年/平成19年度実施済)
- ・オリジナルグッズの開発
木のZOO(動物積み木)における札幌市立高等専門学校と民間企業の共同開発
その他公認グッズにおける民間企業との共同開発(随時)
- ・共同研究
アニマルセラピーに関する札幌市立大学看護学部との共同研究(2007年/平成19年度～)
- ・園内の総合デザイン
サイン、動線、動物舎デザインにおける札幌市立大学デザイン学部との連携

スケジュール

随時実施

参考図表等



感性工学に基づく類人猿館の改修

アニマルセラピーに関する共同研究(声明)

<http://www.city.sapporo.jp/zoo/others/animaltherapy.html>

5. 3つの柱（行動指針2） 生物多様性の確保に向けた行動

地球温暖化や開発、乱獲などの影響により野生動物はかつてない絶滅の危機に瀕している。人間の生活も多種多様な動植物の存在の上に成り立っていることを再認識し、地元の生態系から保全・回復させていくための取り組みを行い、その過程を通じて啓発を行う。

<計画概要>

(1) オオワシ国際シンポジウムの開催

2008年7月の主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）に合せ、オオワシ国際シンポジウムを開催し円山動物園のオオワシ・プログラムの取り組みを世界に発信する。また、オオワシ放鳥に向けてオオワシの営巣地であるロシア政府（サハリン州）や環境省、研究活動団体、道内動物園等との協力体制を構築する。（20年度）

(2) オオワシ・プログラムの取り組み（北海道野生動物復元プロジェクト）

北海道に生息する希少猛禽類のオオワシやシマフクロウを、円山動物園の持つ繁殖技術で繁殖させ、鷹匠技術で飛行訓練等を行い、自然界に放鳥・野生復帰させる取り組みを進める。（19年度～）

(3) オオムラサキ・プログラムの取り組み（北海道野生動物復元プロジェクト）

札幌の原風景にあったオオムラサキやオニヤンマ、トノサマバッタなどの昆虫類の自然への復元作業を市民・企業・大学等の研究機関と連携して実行するとともに、自然の生態系との調和や復元作業自体を市民に普及する。（19年度～）

(4) ニホンザリガニ・プログラムの取り組み（北海道野生動物復元プロジェクト）

札幌の原風景にあったニホンザリガニの自然への復元作業を市民・企業・大学等の研究機関と連携して行い、自然河川の生態系の調和や復元作業自体を市民に普及する。

また、ウチダザリガニやアメリカザリガニといった外来性ザリガニの増殖の問題を市民に訴えていく。（18年度～）

(5) 生物多様性を身近に感じるための特別展・体験プログラムの実施

円山原始林、円山川と動物園の有機的連携を図り、園内で動物の生態を学んだあと、原始林で自然の動植物を観察したり、園内を流れる円山川で自然の昆虫やザリガニなどに触れたりなど、自然を生かした体験プログラムを実施する。また、園内各所にビオトープを設置して「自然体験ゾーン」として自然体験学習の拠点とする。（18年度～）

項目名	役割	行動指針	実施時期
オオワシ国際シンポジウムの開催	2	2	20年度

概要

2008年7月の洞爺湖サミットに合わせ、オオワシ国際シンポジウムを開催し、円山動物園のオオワシプログラムの取り組みを世界に発信する。この取り組みを通じて地元の生態系を守るための取組みの紹介と啓発を行う。また、オオワシ放鳥に向けて関係国間での協力体制を構築する。オオワシの繁殖地であるロシア政府(サハリン州)や環境省、研究活動団体、道内動物園等との協力により、広く取り組みをアピールし、「北海道の野生動物復元プロジェクト」の成功に資する。

スケジュール

2008年(平成20年)6月23日(月) 13時~16時30分(札幌コンベンションセンター特別会議場)

【プログラム】

■コンセプト説明 齊藤慶輔氏(猛禽類医学研究所代表・獣医師)

■キーノートスピーチ

「円山動物園におけるオオワシの現状と取り組み」金澤信治(札幌市円山動物園園長)

「スコットランドと西ヨーロッパにおけるオジロワシの再移入一進捗状況と手法」

ロイ・H・デニス氏(ハイランド・ファウンデーション・フォー・ワイルドライフ理事 英国オジロワシプロジェクトチームメンバー)

「ロシアにおけるオオワシの生息現況とそれを脅かす要因。ヨーロッパ・アジア地域動物園協会による飼育下での個体数安定のための計画の実績」

ウラジミール・マステロフ氏(オオワシ研究者 モスクワ大学教授)

■パネルディスカッション

ファシリテーター 齊藤慶輔氏(猛禽類医学研究所代表・獣医師)

ロイ・H・デニス氏(ハイランド・ファウンデーション・フォー・ワイルドライフ理事 英国オジロワシプロジェクトチームメンバー)

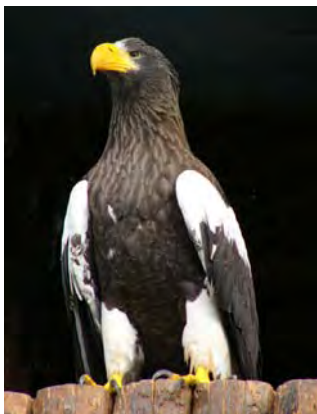
ウラジミール・マステロフ氏(オオワシ研究者 モスクワ大学教授)

北村健一氏(元札幌市円山動物園園長)

坂本真一氏(環境省 北海道地方環境事務所 統括自然保護企画官)

金澤信治(札幌市円山動物園園長)

参考図表等



円山動物園が国内初の繁殖実績をもつ希少種オオワシ



200人以上の市民が集まり、熱心に専門家らの報告に耳を傾けた

項目名	役割	行動指針	実施時期
オオワシ・プログラムの取り組み	2	2	19年度

概要

■北海道野生動物復元プロジェクト(オオワシプログラム)

北海道に生息する希少猛禽類のオオワシやシマフクロウを、円山動物園の持つ繁殖技術で繁殖させ、鷹匠技術で飛行訓練等を行い、自然界に放鳥・野生復帰させる取り組み。

毎年一定数のオオワシやシマフクロウを繁殖させるための繁殖用ケージと飛行や狩の訓練をするためのトレーニングケージを建設。これに並行して放鳥に必要な協力体制の構築、手続き等の準備を進め数年後の放鳥を目指す。

なお、オオワシはサハリン北部やアムール川河口地域で繁殖し、北海道に飛来する渡り鳥である。このため、円山動物園生まれのオオワシはサハリンで放鳥する必要があり、環境省だけではなくロシア政府との調整が必要となる。シマフクロウともども、環境省の「希少猛禽類増殖計画」と調整のうえ実行していく。また、野生下で保護された傷病個体の自然復帰も並行して行う。

スケジュール

<国内繁殖個体>

2007年度(平成19年度) 環境省、ロシア政府、研究者との意見交換、調整

2008年度(平成20年度) 繁殖用・訓練用ケージの建設、サハリン協力体制の構築、放鳥計画の策定

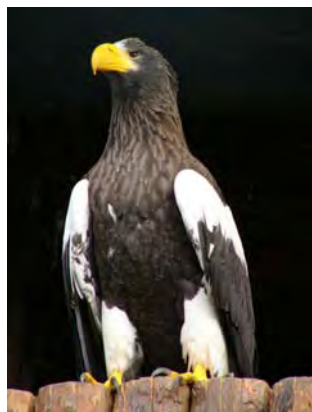
2009年度(平成21年度)以降 条件が整い次第、放鳥の許可申請、繁殖開始、放鳥

<保護個体>

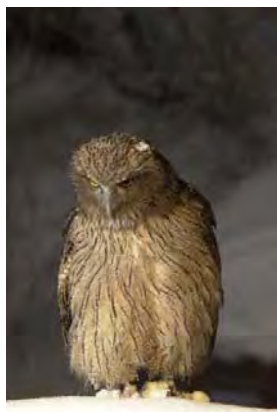
2007年度(平成19年度) 保護個体の治療、飛行訓練

2008年度(平成20年度)～ 放鳥

参考図表等



オオワシ



シマフクロウ

項目名	役割	行動指針	実施時期
オオムラサキ・プログラムの取り組み	2	2	19年度

概要

■北海道の野生動物復元プロジェクト(オオムラサキ・プログラム)

北海道の中でも開発が進んだ札幌市においては特に野生動物の減少が著しい状況にある。札幌の原風景にあったオオムラサキやオニヤンマ、トノサマバッタなどの昆虫類を復元。親子でこれらを観察する体験イベントなどを企画し、動物園を世代間の絆づくりの場としてもさらに活用していく。自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関と連携して実行するとともに、自然の生態系との調和や復元作業自体を市民に普及する。事業の展開にあたっては、すでに活動している市民だけではなく、新たに行動しようとしている市民の参加を促すとともに、企業等の参画も含め、まさに市民ぐるみの運動へと発展させる。

<具体的な活動内容>

国蝶オオムラサキの園内自然繁殖支援(エゾエノキ植樹、越冬幼虫観察・保護)

乾性ビオトープにおけるトノサマバッタ、キリギリスの繁殖

樹林ビオトープにおけるミヤマクワガタの繁殖

湿性ビオトープにおけるオオルリボシヤンマの繁殖

スケジュール

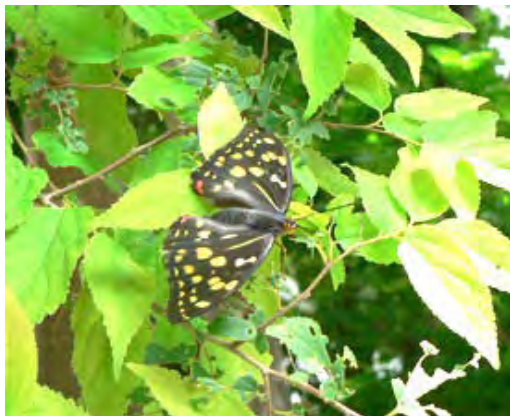
2007年度(平成19年度) ビオトープ協議会設立、基本設計、オオムラサキ園内生息調査、観察会

2008年度(平成20年度) 幼虫の食樹エゾエノキの苗育成、展示用エゾエノキの鉢整備、ビオトープ造成

2009年度(平成21年度) エゾリス等小型哺乳類の繁殖調査、ビオトープの管理運営

2010年度(平成22年度)以降 エゾエノキの植樹、小型ほ乳類の繁殖

参考図表等



20数年前に当時の職員が植樹したエゾエノキに2006年になって初めて発見された園内自然繁殖個体(準希少種オオムラサキ)

項目名	役割	行動指針	実施時期
ニホンザリガニ・プログラムの取り組み	2	2	19年度

概要

■北海道の野生動物復元プロジェクト(ニホンザリガニ・プログラム)

札幌の原風景にあったニホンザリガニを市民参加により復元。親子でこれらを観察する体験イベントなどを企画し、動物園を世代間のきずなづくりの場としてもさらに活用していく。また、ウチダザリガニやアメリカザリガニといった外来性ザリガニの増殖の問題を市民に訴えていく。

自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関と連携して行い、自然河川の生態系の調和や復元作業自体を市民に普及する。

事業の展開にあたっては、すでに活動している市民だけではなく、新たに行動しようとしている市民の参加を促すとともに、企業等の参画も含め、まさに市民ぐるみの運動へと発展させる。

<具体的な活動内容>

ニホンザリガニの園内自然繁殖支援(園内円山川流域における生息調査、個体繁殖)

スケジュール

2007年度(平成19年度) ビオトープ協議会設立、基本設計、ニホンザリガニ生態調査、ザリガニ展示

2008年度(平成20年度) ザリガニ関係会議、ニホンザリガニ増殖計画策定

2009～2011年度(平成21～23年度) ニホンザリガニ増殖

2012年度(平成24年度～) ニホンザリガニ放流

参考図表等



ニホンザリガニ



外来種ウチダザリガニ



外来種アメリカザリガニ

項目名	役割	行動指針	実施時期
生物多様性を身近に感じるための特別展・体験プログラムの実施	1	2	18年度

概要

豊かな自然と整然とした都会の中間地点にある優位性を活かし、円山原始林、円山川と動物園の有機的連携を図り、園内で地元の動物の生態を学んだあと、そのまま原始林に入って自然の動植物を観察したり、園内を流れる円山川で自然の昆虫やザリガニなどに触れたりできる自然を生かした施設整備を行い、園内各所にビオトープを設置して「自然体験ゾーン」として自然体験学習の拠点とする。体験プログラムの実施は、市民・企業・NPO・大学・研究者と共同で行う。

＜展開事例＞

- ・昆虫学覧会(2005年度/平成17年度)
北海道新聞社、JTBの主催による昆虫展。昆虫クイズラリーで円山公園の森を探検
- ・円山自然塾(2006年度/平成18年度)
NPO法人ねおすによる円山登山道の散策と円山に生息する生き物を学ぶセミナー。
- ・円山昆虫研究所(2007年度/平成19年度)
JTB北海道との共催による昆虫展。昆虫調査隊で園内の昆虫を探索・解説

スケジュール

2006年度(平成18年度)～実施済

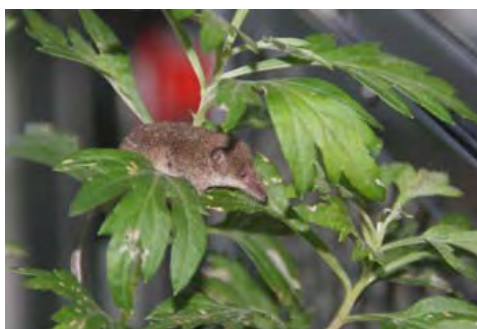
＜主な開催日＞

- ・円山自然塾 2007年(平成19年)3月4日(日)・18日(土)・25日(土)
- ・円山昆虫研究所 2007年(平成19年)7月20日(金)～8月19日(日)
- ・オオムラサキの特別公開 2007年(平成19年)7月20日(金)～8月19日(日)
- ・園内樹木マップの整備 2007年(平成19年)10月12日(金)
- ・ビオトープ協議会主催による観察会 2007年(平成19年)10月27日(土)
- ・北海道の野生ネズミ展 2007年(平成19年)12月15日(土)～2008年1月27日(日)

参考図表等



円山自然塾 散策の様



道内に生息するトウキョウトガリネズミ

6. 3つの柱（行動指針3） 自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動

円山エリアには、住民約4万人が居住する円山・宮の森・円山西町地区の住宅街をはじめ円山公園、円山原始林、北海道神宮、円山球場、大倉山シャンツェ、彫刻美術館など多くの人が集う施設が集積している。この豊かな自然と都会との中間地点にある利点を生かして、エリア内での回遊性を高め相乗効果を生み出すとともに、まちづくりの観点からも地域と連携した取り組みを行う。

<計画概要>

(1) 円山エリアの総合的な交通対策の検討

動物園周辺には、円山公園、円山球場、陸上運動競技場などがあり、花見などの行楽時期や各施設のイベント時などは道路の渋滞や駐車場の混雑を招いているため、ピーク時の渋滞緩和や地下鉄から動物園までのアクセス整備や歩行者天国、周遊バス・タクシー等の新たな交通手段の確保等を検討する。(22年度～)

(2) 円山川の自然を取り戻すための取り組み

園内を流れる円山川に生息するニホンザリガニの保護繁殖に取り組むとともに、円山川そのものの水質を回復させ、動物園内のビオトープとの一体化を図る河川改修に取り組む。上流における不法投棄の防止や生活排水による汚染の抑制など市民参加によりまちづくりの一環として取り組む。(19年度～)

(3) 円山エリアの総合的な自然エネルギー活用の検討

自然エネルギーの利用にあたっては、円山動物園単独だけではなく、周辺施設を含めて、まとまった規模で導入することにより、より多くの環境負荷軽減の効果が期待できることから、関係部局等と連携し自然エネルギー活用の検討を行う。(22年度～)

(4) 円山エリア活性化のための街歩きイベントの実施

円山動物園を核として、円山エリアのさまざまなレストランやカフェ、雑貨店などを結ぶ街歩きのイベントを民間企業と地元商店街及び参加店の協力により開催し、円山エリア全体の活性化を行う。(19年度～)

(5) 地元地域への感謝イベントの実施

円山動物園の再生には地元である地域の理解と協力が欠かせないため、日頃の感謝をこめて「円山地区」「南円山地区」「宮の森地区」の住民を対象に無料入園券を配布し、園内で園長の特別講演を開催する。(19年度～)

(6) 大倉山シャンツェ・彫刻美術館との連携

円山動物園・大倉山シャンツェ・彫刻美術館はいずれも市民の教育文化施設、観光施設であり、地理的にも非常に近いことから、これら 3 施設が連携し一体となって集客を行うため、「3 園館長会議」を設置しその方策を検討する。(18 年度～)

(7) エリア周遊イベントへの積極的な参画

札幌市内を周遊する街歩きイベントや旅行商品に積極的に参画することにより、円山動物園の集客に結びつけるとともに、円山エリア内の集客に貢献する。(18 年度～)

項目名	役割	行動指針	実施時期
円山エリアの総合的な交通対策の検討	-	3	22年度

概要

円山動物園の来園者の65%が自家用車で来園しているが、動物園周辺には、円山公園、円山球場、陸上運動競技場などがあり、花見などの行楽時期や各施設のイベント時などは、道路の渋滞や駐車場の混雑を招いている。この対策としては、単施設だけでは解決できないことから、円山エリアについて、総合的な交通対策を実施する必要がある。
 具体的には、ピーク時の渋滞緩和や公共交通の利用促進のため、地下鉄から動物園までのアクセス整備や歩行者天国、周遊バス・タクシー等の新たな交通手段の確保等の検討を行っていく。

スケジュール

当面、公共交通の利用促進のため、地下鉄から動物園までの間のアクセス整備等(歩道・サイン整備)等を実施する。

2007年度(平成19年度)

関係部局にて、検討会議の実施(道路・河川・公園所管課など)

2010年度(平成22年度)以降

調査及び基本計画(概要設計)実施予定、まちづくり交付金整備計画申請予定

参考図表等



GW中の駐車場入場待ちの例



歩道整備イメージ図

項目名	役割	行動指針	実施時期
円山川の自然を取り戻すための取り組み	2	3	19年度

概要

北海道の生物多様性確保の基地となることを目指し「北海道の野生動物復元プロジェクト」の一環として、園内を流れる円山川に生息するニホンザリガニの保護繁殖に取り組むとともに、円山川そのものの水質を回復させ、動物園内のビオトープとの一体化を図る河川改修に取り組む。
 取り組みにあたっては、上流における不法投棄の防止や生活排水による汚染の抑制など札幌市民、地域住民の協力が必要なことから、取り組みの重要性をアピールしながら市民参加によりまちづくりの一環として取り組む。
 最終的には、昔の札幌の原風景を取り戻し、親子でザリガニ観察ができるようになることを目指し実施していく。

<取組内容>

- ・ニホンザリガニの生息調査
- ・ビオトープの整備と河川改修
- ・地域住民による河川清掃などの運動展開
- ・ニホンザリガニの繁殖・放流

スケジュール

2007年度（平成19年度） 円山川（園内調査区域）における生息数調査
 2008年度（平成20年度） 水質調査、汚染物質流入調査、不法投棄状況調査、運動展開
 ザリガニの展示、ザリガニの個体採取・繁殖計画の策定
 2009～2011年度（平成21～23年度） 飼育個体の増殖
 2012年度（平成24年度）以降 繁殖個体の放流（毎年継続）、河川改修設計

参考図表等



年々生息数が減少するニホンザリガニ



項目名	役割	行動指針	実施時期
円山エリアの総合的な自然エネルギー活用の検討	-	3	22年度

概要

地球温暖化などの環境問題や限りある資源の有効利用のため、今後、ますます自然エネルギーの導入が必要とされている。いろいろな自然エネルギーの利用を検討するにあたっては、円山動物園単独だけではなく、周辺施設を含めて、まとまった規模で導入することにより、より多くの環境負荷軽減の効果が期待できることから、関係部局等と連携し自然エネルギー活用の検討を行う。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

次世代エネルギーパーク構想策定(環境都市推進部)

有識者の意見を聞きながら、太陽光発電や太陽熱、雪冷熱、地中熱ヒートポンプ、バイオマスなどの自然エネルギーの導入について検討

2008年度(平成20年度)以降

次世代エネルギーパーク構想に基づき、実際の導入方法、導入時期等について検討を行う。

その際には、周辺施設での導入の可否についても、協議・検討を行っていく。

参考図表等



動物科学館に設置している太陽光発電(出力5kw)
(特定非営利活動法人 ひまわり種の会設置・所有)



サル山展望レストハウスに設置している
風力と太陽光発電設備

項目名	役割	行動指針	実施時期
円山エリア活性化のための街歩きイベントの実施	-	3	19年度

概要

円山動物園を核として、円山エリアのさまざまなレストランやカフェ、雑貨店などを結ぶ街歩きのイベントを民間企業と地元商店街及び参加店の協力により開催し、円山エリア全体の活性化を行う。動物園の来客と円山エリアの各店舗への来客を相互に送りあい、その情報をブログを通じて口コミで広げることにより集客の相乗効果を狙う。(スタンプラリーイベントとブログマーケティングの融合)

イベント名「円山歩記(まるやまあるき)」

第1回開催 2007年(平成19年)6月18日～9月18日

参加店舗数 15店舗(レストラン、カフェ、スイーツ、雑貨店等)

【共催】 円山動物園、札幌100マイル(札幌のロコミブログサイト)

スケジュール

2007年度(平成19年度)実施済

<第2回> 2008年(平成20年)6月23日～9月23日

おサイフ携帯を活用した「かざしてスタンプ」を導入し、参加店舗数を拡大して実施

参加店舗数 65店舗

※今後も継続予定

参考図表等

<企画内容>

- ・ブログサイト「札幌100マイル」にブログを作成(<http://sapporo.100miles.jp/>)
- ・スタンプカードを持って参加店及び円山動物園を回ると特典あり(ドリンクサービス等)
- ・感想をブログに書くとプレゼントに応募できる
- ・3か所回るとプレゼント当選確率アップ
- ・プレゼントは動物園年間パスポートやお食事券等

※主に円山動物園内での体験イベント「みんなのドキドキ体験」のPRを狙いとしました。

<http://sapporo.100miles.jp/editors/article/50/>

※「札幌100マイル」は飼育員ブログを連載しているサイト



項目名	役割	行動指針	実施時期
地元地域への感謝イベントの実施	-	3	19年度

概要

円山動物園の再生には地元である地域の理解と協力が欠かせないため、日頃の感謝をこめて「円山地区」「南円山地区」「宮の森地区」の住民を対象に無料入園券を配布し、園内で園長の特別講演を開催する。

イベント名「地元感謝デー」

第1回 2007年(平成19年)10月6日～8日

特別講演「円山動物園の歴史とこれから」 札幌市円山動物園長 金澤信治

スケジュール

2007年度(平成19年度)実施済

今後継続開催予定

参考図表等

<19年度実績>

円山地区 126人
南円山地区 72人
宮の森地区 144人
(合計 342人参加)

<園長からのメッセージ>

日頃より地元の円山動物園の運営にご理解ご協力いただきありがとうございます。

円山動物園は今年3月に基本構想を策定し、現在、環境教育の場、家族との思い出をつくる場として再生に向けた努力をしているところです。そのためには、これからも地元の皆さんと一緒に地域ぐるみでまちづくりや活性化に取り組んでいきたいと考えています。

日頃のご協力に感謝し「地元感謝デー」を設けましたので、ぜひこの機会に円

項目名	役割	行動指針	実施時期
大倉山シャンツェ・彫刻美術館との連携	-	3	18年度

概要

円山動物園・大倉山シャンツェ・彫刻美術館はいずれも市民の教育文化施設、観光施設であり、非常に地理的にも近いことから、これら3施設が連携し一体となって集客を行うため、「3園館長会議」を設置しその方策を検討する。

<連携内容>

- ・3施設をつなぐウォーキングコース、循環バスの検討
- ・イベントでの協力、相互PR、相互展示 など

スケジュール

2007年(平成19年)1月 札幌の地域サイト「Webシティさっぽろ」の呼びかけにより3園館長会議スタート
その後、定期的に会議を開催。随時実現予定。

参考図表等

Webシティさっぽろ 市民がつくる札幌の地域サイト
Prize of Sapporo

ジャンプ台、美術館、動物園のトップ会議 三施設の連携でもう一歩踏み出したい

すでに地域の小学校などと連携はしているが、観光だけでなく、もっと、市民に利用してもらいたいと語る 札幌ウィンドスポーツミュージアム館長の佐々木一樹さん。

自然や環境や命、札幌の文化や国際交流、芸術に絡めて連携を育てるなど、子どもに体験させたい三点がそううすばらしい地域と語る 本郷新記念札幌彫刻美術館館長の川倉雅一さん。

円山動物園の再スタートと、この地域の森の豊かさやレストランやカフェなどの質の高さ、都心との距離など優位性を一緒に活かしましょうと語る札幌市円山動物園館長の金澤雄治さん。

項目名	役割	行動指針	実施時期
エリア周遊イベントへの積極的な参画	-	3	18年度

概要

札幌市内を周遊する街歩きイベントや旅行商品に積極的に参画することにより、円山動物園の露出を高め集客に結びつけるとともに、円山エリア内の集客に貢献する。

＜これまでの参画実績＞

- ・札幌まちめぐりパス(観光旅行商品、2005年度/17年度～)
観光スポット20か所で使えるポイント券、クイズラリー
- ・さっぽろタパス(街歩きイベント、2007年度/19年度～)
市内79店舗と観光施設で使えるチケット、来園プレゼント
- ・さっぽろヒルズパス(周遊イベント、2007年度/19年度～)
藻岩山、大倉山、円山の各施設を周遊するバスと施設利用券

スケジュール

随時実施

参考図表等



Ⅱ. 「経営戦略とソフト事業」編



7. 持続可能な経営の考え方（経営戦略）

円山動物園は、1951年（昭和26年）に無料施設として開園し、翌年7月から有料化したが、当初は赤字経営が続いていた。その後、1955年（昭和30年）から4回にわたる入園料の値上げを行い、1972年度（昭和47年度）までは職員人件費を除く経常的収支の黒字が続いたが、1973年度（昭和48年度）から中学生以下の無料化を行ったことにより、その後は経常的収支の黒字を出せたのは4度の決算のみで、1979年度（昭和54年度）以降は、常に経常的収支は赤字となっている。

そもそも円山動物園は設立当初から、あらかじめ入園料のみで収支を賄うべき施設として設計されたものではなく、その社会的存在意義（情操教育、環境教育、種の保存等）のため税金を投入して運営する社会教育施設として運営されてきた側面からも入園料は民間の動物園や水族館に比べ低価格に設定され、中学生以下、65歳以上、障がい者等への入園料無料化を行ってきた。

2005年度（平成17年度）決算の臨時的経費（新規施設整備）を除いた経常的収支は、経常収入約1億6千万円、経常支出約4億7千万円（ただし職員の人件費約3億円を除く）という大幅な赤字経営となっている。

◆円山動物園の経常的収支状況（17年度決算）

（単位：千円）

経常収入		経常支出	
入園料	134,894	光熱水費	
売店土地使用料	17,132	上下水道代	91,722
諸収入	6,506	重油・灯油代	61,627
		電気代	24,689
		維持管理・委託費	188,996
		エサ・薬品代	55,000
		イベント経費・事務費	49,132
収入合計	158,532	支出合計	471,166
		本市職員給与（43人分）	297,077

（参考）
17年度
総入園者数
490,914人

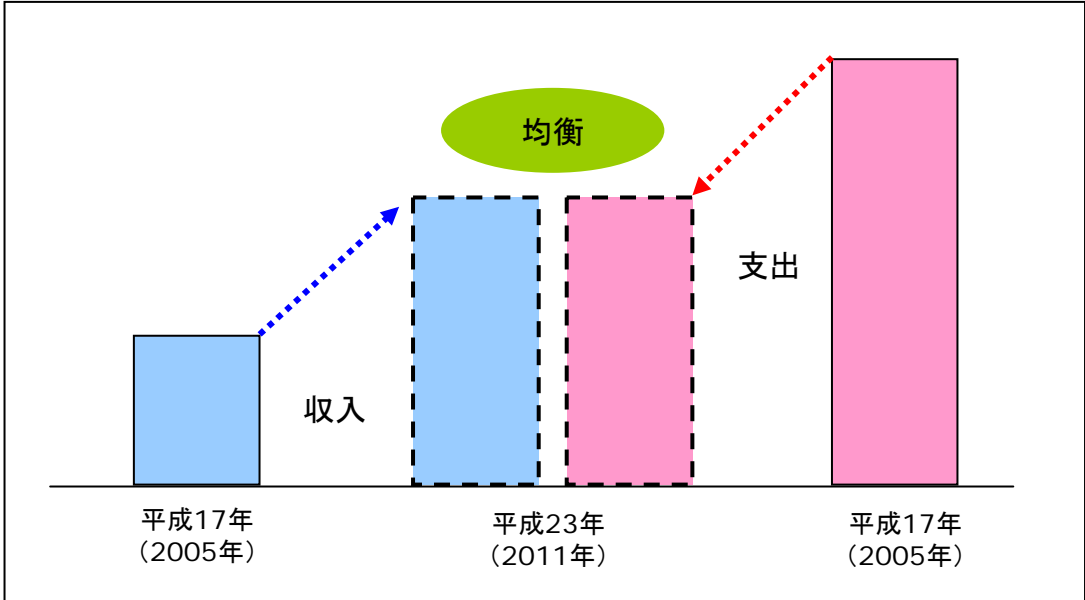
しかし、札幌市の財政状況そのものが厳しい中、これまで通り税金を投入することは困難と考えるべきである。一方で、原油価格の高騰など外部経営環境の変化に対応しつつ、老朽化した施設の維持管理、更新を行っていく必要があり、このままでは新たな魅力アップのための投資はもちろん、動物園を将来にわたって維持継続していくことすら危ぶまれる状況である。

2006年（平成18年）3月に策定した基本構想においては、将来にわたって持続可能な経営ができるよう、まず現在の脆弱な経営基盤を再建し、「人と動物と環境の絆づくりの場」として世代を越えて存続させていけるよう、以下のとおり経営の方向性を示している。

● 基礎収支構造の均衡を目指して

持続可能経営の目安として、まずは職員の人件費を除いた基礎収支構造の均衡（収入と支出のバランス）を実現する。

- 【数値目標】2011年度（平成23年度）決算時までを集中取組期間とする。
- 入園者数 年間100万人を目指します
 - 経常的収入 2005年度（平成17年度）に比べ倍増を目指します
 - 経常的支出 2005年度（平成17年度）に比べ30%の削減を目指します
※ただし職員の人件費を除く。また、削減率は固定化せず収支均衡を優先する。



<計画概要>

(1) 入園者数100万人に向けた集客の取り組み

入園者数の増加は単に収益面での効果ばかりでなく、環境教育施設としての啓発効果を押し上げるうえで重要であり、以下の複合的な取り組みによってこれを実現する。

なお、入園者数は天候や施設新設の有無、人気動物の死亡等によって大きく左右されるが、仮説検証を繰り返しながら毎年10万人程度の増加を目標とする。

○ 目標とする年間入園者数（2005～2007年度は実績値）

2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
49万人	61万人	61万人	70万人	80万人	90万人	100万人

ア 新着動物や高い繁殖技術に基づく出産による集客

2006 年度（平成 18 年度）には、ホッキョクグマの赤ちゃん誕生やチンパンジーの赤ちゃんの人工哺育開始が大きな話題となり、入園者数が前年比 25%増となった。

2007 年度（平成 19 年度）は、人気動物であるアジアゾウやライオン、チンパンジーなどの死亡によるマイナス影響も大きかったが、その後のライオン導入、レッサーパンダ導入、ライオンの赤ちゃん誕生などにより集客を取り戻している。

今後についても、オランウータンやホッキョクグマ、ユキヒョウなどの希少動物の繁殖に注目が集まっており、大きな集客要因の一つとなっている。

イ 新たな展示方法や施設リニューアル（新設・改修）による集客

2006 年度（平成 18 年度）には、サル山展望レストハウスの新設により、4,5 月期だけで前年同月比 35%増となった。円山メソッドを体現したこの施設は、NPO 法人市民 ZOO ネットワークが選定する「エンリッチメント大賞 2006」を受賞している。

このように新たな展示施設による集客効果は大きく、2008 年度（平成 20 年度）にオープンしたエゾシカ・オオカミ舎、こども動物園改修、類人猿館改修などをはじめ、今後の施設整備が集客増に大きく関わってくる。（施設整備の詳細は「9. 展示・施設の考え方」参照）

ウ 新たなイベントによる集客

年間イベント数は 2005 年度（平成 17 年度）に 20 件程度であったが、2006 年度（平成 18 年度）及び 2007 年度（平成 19 年度）にはその数を 70~100 件程度まで増やしている。また、夜間開園を含む夜の時間帯を活用したイベント開催日数も 3 日間から 20 日間程度まで増やすことで集客に貢献した。2006 年度（平成 18 年度）から新たに始めた日中の体験プログラム「みんなのドキドキ体験」は年間延べ 1,500 回に達しており、毎週開催している動物病院体験プログラムと合わせて園を代表する人気プログラムとなっている。

このほか、市民や NPO との共催による「アースデイ」や市民が作品を出展する「芸術祭」などの市民参加型イベントや民間企業とのタイアップによる「夏休み特別展」、「スタンプラリー」などの開催により、低コストで高い集客効果をあげている。（イベントの詳細は「8. 事業展開の考え方」参照）

エ 新たな PR 手法による集客

新規イベントや赤ちゃん誕生など話題性の高いコンテンツを最低でも毎週 1 回は報道機関に対して積極的に情報発信するとともに、チラシ、ポスター、ホームページ、ブログパーツ、フリーペーパー、街頭メガビジョンなどあらゆるメディアを活用して

周知を図っている。

また、ホームページの充実、携帯サイトの設置、動画配信サイトの設置、飼育員ブログの設置など Web を積極的に活用し、お客様が来園前後に動物やイベントの情報を見ることによりリピーターの増加を狙っている。

あわせて環境教育や学術的価値の高い研究、社会的意義のあるプロジェクトなどを発信していくことにより、単なるレジャー施設ではなく社会的価値の高い「本物の動物園」という認知を広げるためのブランドづくりを行っている。

これらの成果の一例としては、2005 年度（平成 17 年度）までは閑散期だった冬季間（11～翌 3 月期）の入園者数が 40,000 人程度と低迷していたのに対し、「冬の動物園」を積極的に PR した結果、2007 年度（平成 19 年度）には 93,000 人と 132%アップを達成している。（PR の詳細は「8. 事業展開の考え方」参照）

オ 観光ツアー、修学旅行誘致による集客

道外からの集客に向けて、旅行会社に対する積極的な PR を行うとともに、市内を周遊する「まちめぐり系」の旅行企画にも積極的に参加することにより、2007 年度（平成 19 年度）からは東京・大阪・名古屋出発の大手旅行会社による北海道旅行商品の主要施設に採用されるなど、観光施設としての認知拡大を図っている。また、環境教育コンテンツの充実により修学旅行や総合学習などによる集客の増加を狙っている。（誘致の詳細は「8. 事業展開の考え方」参照）

(2) 経常的収入倍増に向けた取り組み

基礎収支構造の均衡を図るための目安として、2005 年度（平成 17 年度）に比べ 2011 年度（平成 23 年度）までに経常的収入の倍増を目標とするため、以下の複合的な取り組みによってこれを実現する。

○ 目標とする年間の経常的収入

収入の内容	2005 年度	2011 年度
経常的収入の目標（以下は主な内訳）	158,531 千円	320,000 千円
入園料収入の目標 ※49 万人→100 万人を想定	134,894 千円	270,000 千円
広告料収入の目標 ※園内広告含む	450 千円	10,000 千円
寄付金収入の目標 ※アニマルファミリー制度含む	0 千円	20,000 千円
公園使用料収入の目標 ※売店・食堂等	17,131 千円	20,000 千円

ア 年間パスポート料金の検討

年間パスポートは現在 1,000 円で販売しており、2006 年（平成 18 年）に実施した市民アンケート結果からも「安い」という意見が多く、展示施設の新改築や入園者の

リピート回数の増加に応じて設定金額の適正化を行う。

イ 公共交通とのセット券の販売

公共交通機関とのセット券や、入園料と交通機関料金がパックになった旅行商品などにより、来園を誘引する効果の期待できる入園券の販売促進方法を積極的に実施する。2007年度（平成19年度）には試験的に地下鉄ウイズユーカードとのセット販売商品「ウイZOOユー・パスポート」を販売している。

ウ 広告料収入の拡大

新たな収入源として、園内に広告事業を導入する。2007年度（平成19年度）から実施したパンフレット広告欄、年間パスポート裏面広告、ホームページ広告のほかにも、園内看板の設置や動物舎のネーミングライツ（命名権）など広告可能分野を開発し、安定的な収入確保を図る。

エ 寄付金収入の拡大

円山動物園のイベントやプロジェクトに対する市民・企業等からの寄付を幅広く受け付けるとともに、絶滅危惧種などの特定の動物を企業が支援する形の寄付や、動物園グッズの売上に応じたエサ代支援等の寄付、動物園を応援する動画サイトからのスポンサー寄付など多彩な寄付メニューを実施・拡大する。

オ アニマルファミリー制度

アニマルファミリー制度を2008年（平成20年）4月から導入し、市民がエサ代の一部を会費として負担することにより、その動物に関する情報を定期的に受け取ったり、誕生会などのイベントに参加したりできるようにする。順次、対象となる動物を拡大し、会員数を増やすことにより安定的な収入を目指す。

カ 基金の創設

大規模な動物舎建設に向けた寄付の窓口として基金の創設について検討する。

(3) 経常的支出30%削減に向けた取り組み

基礎収支構造の均衡を図るための目安として、2005年度（平成17年度）に比べ2011年度（平成23年度）までに経常的支出の30%削減を目標とするため、以下の複合的な取り組みによってこれを実現する。

ただし、原油価格の高騰やそれに伴う委託料・食料価格の値上げを勘案し、飼育動物の健康管理に支障のない範囲で目標値を調整する場合がある。

○ 目標とする年間の経常的支出（人件費・整備費を除く）

支出の内容	2005 年度	2011 年度
経常的支出の目標（以下は内訳）	429,760 千円	300,832 千円
上下水道代の目標（▲44,000 千円）	91,722 千円	47,722 千円
重油・灯油代の目標（▲12,300 千円）	61,627 千円	49,327 千円
電気代の目標（▲2,700 千円）	24,689 千円	21,989 千円
維持管理・委託費の目標（▲46,000 千円）	188,996 千円	142,996 千円
エサ・薬品代の目標（▲25,000 千円）	55,000 千円	30,000 千円
イベント経費・事務費（参考）	7,726 千円	8,798 千円

ア 冬季週休日等の設定

- ・来園者が少ない冬季に休園日を設定し、券売や清掃委託業務の経費を削減する。
【削減想定効果】 8,300 千円（2009 年度）**委託費**

イ 業務委託の効率化

- ・各種維持管理業務の一本化など類似する委託業務の統合等に取り組む。
【削減想定効果】 15,000 千円（2008 年度～）**委託費**
※18,19 年度 20,000 千円 削減済 **委託費**
- ・自動券売機の導入により委託経費を削減する。
【削減想定効果】 2,700 千円（2009 年度）**委託費**

ウ 光熱水費、エサ代等の節約

- ・水循環施設の導入、漏水対策、清掃時の節約により水道代を節約する。
【削減想定効果】 44,000 千円（2009 年度～）**上下水道**
- ・省エネ技術の導入、温度設定の変更・機密性向上、暖房不要な動物舎の別棟化により光熱費を節約する。
【削減想定効果】 2,800 千円（2008 年度～）**重油・灯油代**
【削減想定効果】 2,700 千円（2008 年度～）**電気代**
- ・企業協賛によるエサの寄付、大量一括購入などにより飼料購入経費を削減する。
【削減想定効果】 25,000 千円（2007 年度～）**エサ代**

エ 老朽、不用施設の廃止

- ・熱帯植物館、昆虫館、みかん温室を解体し、別施設に機能を移転することにより維持管理費・光熱費を節約する。
【削減想定効果】 9,500 千円（2009 年度～）**重油・灯油代**

(4) 基本構想を支える経営体制の確立

基本構想の理念を実現し、経営に関する数値目標を着実に達成していくには、これまで以上に強力なマネジメント体制と、積極果敢で柔軟な組織文化の醸成が必要であるため、以下の取り組みを行う。

また、経営状況を常に市民に公開し、経営主体についても一定の条件下で抜本的な改革を行う。

ア 園長のリーダーシップ

2006年度（平成18年度）から円山動物園としては初めて事務職の園長を配置し、経営強化にあたった。動物園の経営にあたっては、数値目標を公開し、園長の執行責任の下でその管理を行う。また、経営及び環境教育の強化策として2007年度（平成19年度）から経営管理課と飼育展示課に体制を改変し、顧客管理やイベント管理、サービス品質管理をより明確化した。

イ 職員参加型プロジェクト

積極果敢で柔軟な組織文化の醸成のためには、飼育員をはじめとする職員が積極的に経営企画に参加することが重要である。そこで、あらゆる機会に職員の意見やアイデアを積極的に受け入れていくほか、2006年度（平成18年度）には基本構想の実現に向けた「園内検討会議」や「冬の動物園プロジェクト」を設置し、職員参加型の取り組みを行っている。

ウ 飼育グループ制

園内における飼育技術の伝承及び展示企画の質向上と、緊急時における飼育員の支援体制確立のため、飼育員にグループ制を取り入れることとし、ガイドボランティアと一体となったチームづくりを行い、入園者サービスの向上に努める。

2007年度（平成19年度）には「こども動物園」においてボランティアと一体となった環境教育チームを試行実施し、これをモデルとして今後も拡大していく。

エ 人材育成

動物園を支える人材の育成に適正な投資を行い、産学官の交流や研究事業、研修や学会への参加など動物園に関わる多くの人を巻き込んでいくとともに、その成果を論文の発表、様々な講演会等への講師派遣、執筆活動などにより還元する。

2006年度（平成18年度）には猛禽類の保護・繁殖に取り組むサンディエゴ動物園（アメリカ）等に飼育員の派遣研修を行ったほか、2007年度（平成19年度）にはオランウータンの繁殖・飼育技術を学ぶためタマンサファリ動物園（インドネシア）に飼育員を派遣している。

また、2007年度（平成19年度）からこれまでの研究成果である学会発表抄録をホームページで公開し、市民・研究者らと共有した。

オ 市民動物園会議

基本構想の理念が守られ目標に沿った経営ができているか、計画どおりに施設整備が進んでいるかを市民の目でチェックするため経常的な外部委員会として「市民動物園会議」を2007年（平成19年）8月に設置した。

○ 市民動物園委員名簿

	氏名	所属・役職
委員長	原田 昭	札幌市立大学学長
職務代理者	服部 信吾	株式会社丸高三信堂代表取締役社長
委員	いがらし ゆみこ	漫画家
	井上 剛	野外科学株式会社・技術部(公募委員)
	太田 富士栄 (2008.7.4~)	社団法人札幌青年会議所・ 未来環境創造委員会 幹事
	鈴木 美佐子	北海学園大学法学部・教授(公募委員)
	須藤 深雪	(公募委員)
	原 はるみ	円山動物園ボランティア会
	林 健嗣	放送人の会・幹事
	森田 真未 (~2008.5.31)	社団法人札幌青年会議所・ 常任理事 地域力創造室長

※委員長及び職務代理者以下、五十音順（敬称略／所属・役職は就任当時のもの）

○ 開催概要

2007年8月23日	委員委嘱
2007年8月30日	第1回 基本構想の概要説明と質疑、委員長選出
2007年11月30日	第2回 基本計画草案の検討
2008年3月1日	第3回 基本計画（案）の審議

カ 指定管理者制度、飼育職の検討

円山動物園の経営改革を集中的に行い、健全な経営体質に近づけた時点で、特別会計制度の導入や、運営主体についても指定管理者制度の活用等の検討を行う。また、その際には、飼育スタッフについても、柔軟に大卒や獣医師、動物生態学、展示の専門家などの資格を有する者を採用できるよう雇用形態を工夫するとともに、他の動物園との人事交流を可能とする方策についても併せて検討する。

項目名	役割	行動指針	実施時期
入園者数100万人に向けた集客の取り組み	-	-	18年度

概要

基本構想の理念を実現するためには、将来にわたって持続可能な経営が必要である。現在の脆弱な経営基盤を再建し、「人と動物と環境の絆をつくる動物園」を世代を超えて存続させていくためには、まず職員の人件費を除いた基礎収支構造の均衡（経常収入と経常支出のバランス）が必要となる。このバランスを維持できる集客規模として、2011年度（平成23年度）の年間入園者数を100万人とすることを目標にする。以降、毎年100万人を維持することを目標とするが、少子化や人口減少などの経営環境の変化も踏まえ、基礎収支構造の均衡を優先する。

＜年間入園者数100万人に向けた取り組み＞

- ・新着動物や高い繁殖技術に基づく出産による集客（レッサーパンダ、ホッキョクグマなど）
- ・新たな展示方法や施設リニューアル（新設・改修）による集客（円山メソッドによる施設整備計画）
- ・新たなイベントによる集客（市民参加型や民間企業タイアップ型イベントの充実）
- ・新たなPR手法による集客（話題性の創出、Webの活用、ブランディング）
- ・観光ツアー、修学旅行誘致による集客（感動体験型ツアーの開発や学習教材の提供）

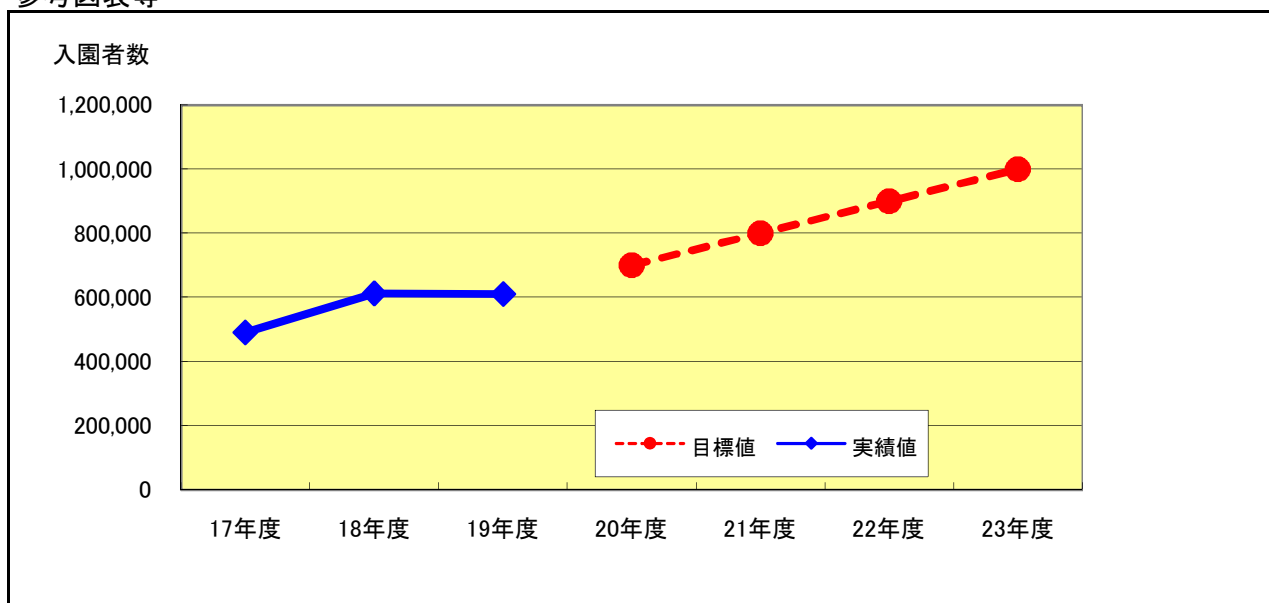
スケジュール

＜入園者数の実績と計画＞

2005年度（平成17年度）	490,914人	※昭和30年以降過去最低
2006年度（平成18年度）	611,521人	（前年度比25%増） ※実績値
2007年度（平成19年度）	609,614人	（前年度比同程度） ※実績値
2008年度（平成20年度）	700,000人	（前年度比10万人増）
2009年度（平成21年度）	800,000人	（前年度比10万人増）
2010年度（平成22年度）	900,000人	（前年度比10万人増）
2011年度（平成23年度）	1,000,000人	（前年度比10万人増） ※開園60周年

- ・過去最高入園者数 1,247,395人（昭和49年度）

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
経常的収入倍増に向けた取り組み	-	-	18年度

概要

基礎収支構造の均衡を図るための目安として、2005年度(平成17年度)に比べ2011年度(平成23年度)までに経常的収入の倍増を目標とする。

＜経常収入倍増の具体的な取り組み＞

- ・年間パスポート料金の検討(展示内容のリニューアルに合わせて引上げを行う/実施未定)
- ・公共交通とのセット券の販売(「ウィZOOユーパスポート」試験販売/2007年度実施済)
- ・広告料収入の拡大(パンフ類、ホームページ広告/2007年度実施済、園内看板・ネーミングライツ検討)
- ・寄付金収入の拡大(企業、グッズ関係、動画スポンサー寄付/2007年度実施済)
- ・アニマルファミリー制度(市民にエサ代を寄付してもらおう/2008年度正式導入)
- ・基金の創設(大規模動物舎建設に向けた寄付の窓口として検討)

スケジュール

■経常的収入の目標値

2005年度(平成17年度) 158,531千円 → 2011年度(平成23年度) 320,000千円

■うち入園料収入の目標値 ※49万人→100万人を想定

2005年度(平成17年度) 134,894千円 → 2011年度(平成23年度) 270,000千円

■うち広告料収入の目標値 ※園内広告含む

2005年度(平成17年度) 450千円 → 2011年度(平成23年度) 10,000千円

■うち寄付金収入の目標値 ※アニマルファミリー制度含む

2005年度(平成17年度) 0千円 → 2011年度(平成23年度) 20,000千円

■うち公園使用料収入の目標値 ※売店・食堂等

2005年度(平成17年度) 17,131千円 → 2011年度(平成23年度) 20,000千円

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
経常的支出30%削減に向けた取り組み	-	-	18年度

概要

基礎収支構造の均衡を図るための目安として、2005年度(平成17年度)に比べ2011年度(平成23年度)までに経常的支出の30%削減を目標とする。

＜経常支出削減の具体的な取り組み＞

- ・冬季週休日の設定
来園者が少ない冬季に休園日を設定し、券売や清掃委託業務の経費を削減する。
- ・業務委託の効率化
各種維持管理業務の一本化など類似する委託業務の統合、自動券売機の導入による経費削減など。
- ・光熱水費、エサ代等の節約
水循環施設の導入、漏水対策、清掃時の節約による水道代の節約
省エネ技術の導入、温度設定の変更・機密性向上、暖房不要な動物舎の別棟化による光熱費の節約
企業協賛によるエサの寄付、大量一括購入などによる飼料購入経費金額の節減
- ・老朽、不用施設の廃止
熱帯植物館、昆虫館、みかん温室は解体、別施設に機能を移転し維持管理費・光熱費を節約する。

スケジュール

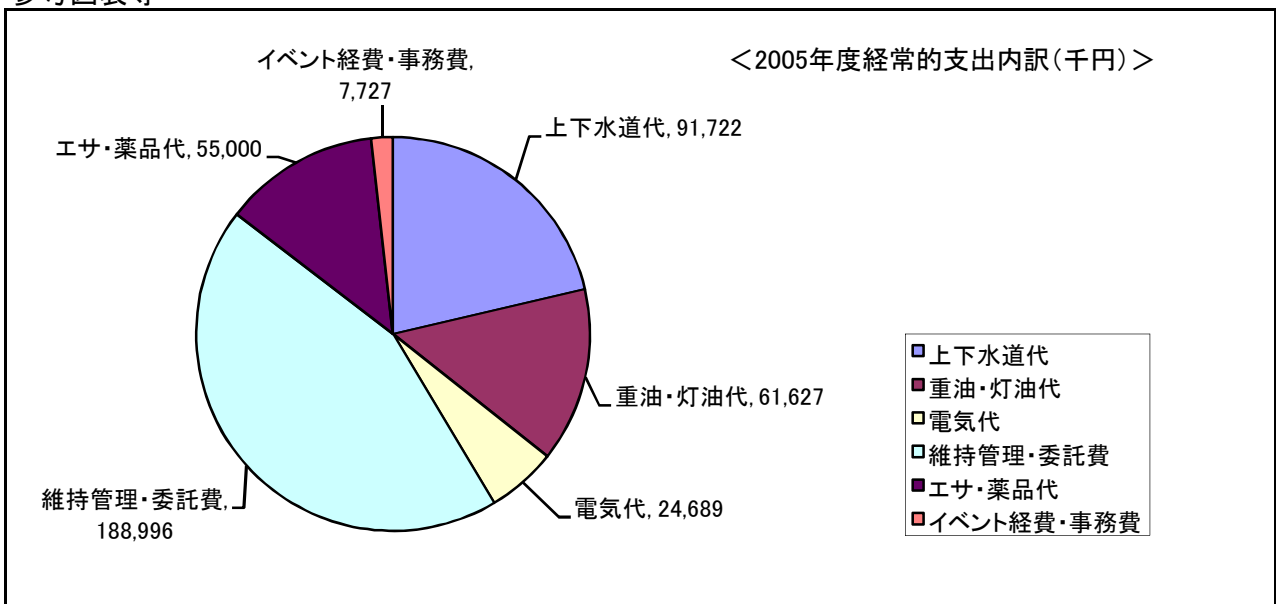
■経常的経費の削減目標値(人件費・整備費を除く)

2005年度(平成17年度) 429,760千円 → 2011年度(平成23年度) 300,832千円

＜削減目標内訳＞

- 上下水道代(▲44,000千円)
- 重油・灯油代(▲12,300千円)
- 電気代(▲2,700千円)
- 維持管理・委託費(▲46,000千円)
- エサ・薬品代(▲25,000千円)

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
基本構想を支える経営体制の確立	-	-	18年度

概要

基本構想の理念を実現し、経営に関する数値目標を着実に達成していくには、これまで以上に強力なマネジメント体制と、積極果敢で柔軟な組織文化の醸成が必要である。また、経営状況を常に市民に公開し、経営主体についても一定の条件下で抜本的な改革を行う。

＜具体的な取り組み＞

- ・園長のリーダーシップ(数値目標の公開、経営体制の強化/2006年度実施済)
- ・職員参加型プロジェクト(園内検討会議、冬の動物園プロジェクト設置/2006年度実施済)
- ・飼育グループ制(ボランティアと一体となったチーム作り/2007年度一部実施済)
- ・人材育成(人材交流、講師派遣、視察研修など/2006年度実施済)
- ・市民動物園会議(経営状況や施設整備計画の監視/2007年度設置済)
- ・特別会計制度、指定管理者制度、飼育職の検討(経営改善後、全国的な導入状況を勘案して検討)

スケジュール

2006年(平成18年) 初の事務職園長を迎え経営体制の抜本的見直しを行う
 2007年(平成19年) 従来組織を経営管理課・飼育展示課に再編、市民動物園会議設置
 2008年(平成20年) 飼育グループ制の導入

参考図表等

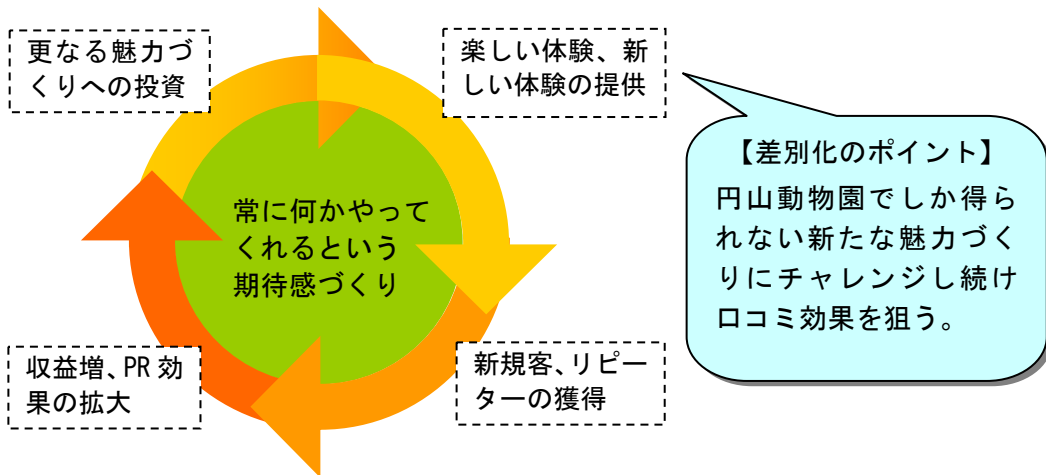
--

8. 事業展開の考え方（ソフト事業）

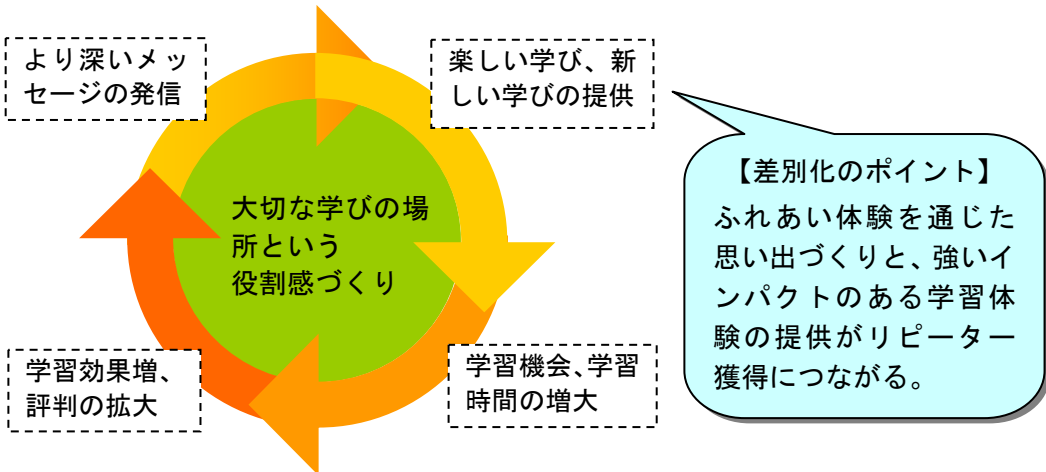
事業展開にあたっては、以下のような円山動物園ならではの差別化と好循環サイクルを意識した取り組みを行う。

「お客様を惹きつける」×「お客様にメッセージを伝える」＝効果的な事業展開

○ お客様を惹きつける好循環サイクル



○ お客様にメッセージを伝える好循環サイクル



これらの好循環サイクルを融合させながら、「惹きつけて、メッセージを伝える」ことを基調としつつ、より具体的に円山動物園の新たな魅力を発見し、新たな客層を対象とした取り組みを行う。また、これまでになかった新たなPRを進め、より深く学べる仕組みをつくることにより、お客様から「欠かせない存在」として認知されるよう、単なる集客性や目新しさに左右されない「本物の動物園」を訴求するブランドづくりを行う。

<計画概要>

(1) 季節を感じさせる積極的なプロモーション展開

一年を通じて園内で四季の移り変わりを感じながら動物園を楽しんでもらえるよう、季節に合わせたプロモーションを行う。

季節ごとの楽しみ方を提案するとともに、ホームページにおいてもバナーの変更や特集ページの掲載を行い演出する。(18年度～)

(2) 夜の動物園のプロモーション

夜行性動物の生態観察を通じて野生動物の多様性を伝える。また、普段活用してない夜の時間帯を有効活用し魅力アップ、集客につなげる。(18年度～)

(3) 冬の動物園のプロモーション

ホッキョクグマやユキヒョウなど北方圏の寒い地域に生息する動物たちが、いきいきと行動する冬の生態観察を通じて野生動物の多様性を伝える。

また、集客が低迷する冬季の魅力開発を行い、集客につなげる。(18年度～)

(4) 提案型イベントによる新たな魅力の開発

園内で行われるイベントは、職員だけで企画しているとマンネリ化を生むため、新たな視点でこれまでにないイベントを企画するべく民間企業や NPO など多様なイベント主体からの提案を受け入れ、円山動物園の新たな魅力を開発する。(18年度～)

(5) 宿泊体験型イベントの実施

夏休み、冬休みに宿泊体験型の学習イベントを実施し、通常では見ることのできない夜・早朝の動物の生態を探り知識を深め、飼育員と一緒に飼育体験をして動物と接する喜びや驚きを伝え、さらに食事に際しては動物と関連した食育を行う。(18年度～)

(6) 大人向け体験イベントの実施

「大人も子どもも楽しめる動物園」を目指して、これまで「子ども」を対象としたイベントであった「一日飼育係」について、新たに大人をターゲットとして行う。

憧れの飼育員という仕事を体験したり、動物と間近で触れ合ったりしながら、癒しを求める大人が、子どもたちに遠慮せず楽しめるプログラムとする。(18年度～)

(7) 新規イベントによる新たな客層の開発

これまで動物園にとって疎遠だった客層を対象とし、閉園後の夜の動物園を活用したイベントを開発する。特に「環境教育の拠点」「大人も楽しめる動物園」をアピールする

ため、環境に関心の高い大人で、かつ女性を中心に新しいイベントに敏感な20～30代や、趣味やレクリエーションに時間とお金をかけられる50～60代を対象に、夫婦やカップルでも楽しめるイベントを目指す。(18年度～)

(8) シニア層を対象とした市民参加型イベントの開発

地域に根ざした歴史ある動物園として幅広い年代層の市民が参加し支持される動物園を目指して、特にシニア層を対象としたイベントを開発する。

園内で活動し、その成果を発表することと、若者からシニアまで長年にわたって親しむことができる点から、アートをテーマとして行う。(18年度～)

(9) 親子向け体験イベントの実施

新規客層の開拓のため、新たに「親子での体験」をターゲットとしてイベントを行う。

職員だけでは発見できない円山動物園の魅力について市民、NPO、企業から提案を受け、協働型で開催する。世代間の交流や親子の思い出づくり、特に父子交流に着目した自然探検・昆虫探検を行う。(18年度～)

(10) 都会の癒しの場・レストスペースの創設

札幌ならではの「都会の動物園」の新たな楽しみ方として、動物好きに限らず、休日にふと立ち寄って自然の中で快適にのんびり過ごせる空間を創設することにより、子どもだけでなく大人にとっても癒しの場としてビジネスマン・OL層に客層を広げることを目標とする。施設面では、動物を眺めながら、長時間リラックスして滞在できるレストスペースを確保するとともに、園内にカフェやコンビニエンスストアを誘致し快適に長時間滞在できる環境を整える。(19年度～)

(11) 観光ツアーの誘致提案

円山動物園を札幌の観光素材として再構築し観光振興に役立てるため、「解説付き感動体験型ツアー」や「夜の動物園パーティプラン」など実験的なイベントを行い、実現可能性を検証する。旅行会社に対しては積極的に観光ツアー誘致を提案する。

特に東京・名古屋・大阪からの送客を目指し、将来的には「冬の動物園」を目玉にアジア圏からの送客を獲得することを目指す。(18年度～)

(12) Webを活用した新たなプロモーションの展開

来園前後の情報提供や告知を充実し、より動物への興味を喚起するとともに、ブログや動画などロコミ的要素の強い情報を活用することにより、新たな顧客の獲得とリピーターの定着を目指す。(18年度～)

(13) 新たなメディアを活用したプロモーションの展開

円山動物園の知名度を高めブランドを向上していくためには、動物園本来の活動の充実が最も重要であるが、これに加え多様化するメディア（媒体）に対応した取り組みが必要となるため、既存の新聞・テレビ・雑誌・広報誌・ホームページだけでなく、DVDや出版物など新たなメディアについても積極的に取り組んでいく。（18年度～）

(14) 教材ワークブック開発による小学校の総合学習誘致

動物の生態を通じて楽しみながら、命の大切さや環境メッセージを伝えるため、小学生（低学年・高学年の2種）を対象として、主に総合学習での活用を考えた教材を教員、研究者らと共同開発する。学習効果を高めるとともに「動物園＝環境教育の場」という認知を広げる。（19年度）

(15) 修学旅行誘致の拡大

環境教育の拠点であり生物多様性確保の基地でもある円山動物園を教育の場として活用するとともに、集客産業の一環として本州からの修学旅行誘致を推進する素材として積極的にプロモーションしていく。（19年度～）

(16) 市民ボランティアの活動分野の拡大

「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」を目指し、これまでも行ってきた動物園ガイドボランティアをより充実させるとともに、イベント、ふれあい指導、園芸・修繕、清掃等の活動全般に市民ボランティアを拡大させていく。（19年度～）

(17) 動物の魅力をより深く伝えるための取り組み

動物の魅力を再発見できる「動物特集」や、飼育員自らが語り手となるセミナーなどを通じて、動物の魅力をより深く伝えていくことにより、楽しみながら学べる機会を増やす。（18年度～）

項目名	役割	行動指針	実施時期
季節を感じさせる積極的なプロモーション展開	-	1	18年度

概要

一年を通じて園内で四季の移り変わりを感じながら動物園を楽しんでもらえるよう、季節に合わせたプロモーションを行う。
季節ごとの楽しみ方を提案するとともに、ホームページにおいてもバナーの変更や特集ページの掲載を行い演出する。

<季節ごとのテーマ>

春 花見・芝生でピクニックの提案

夏 納涼イベントと夜の動物園

秋 紅葉と樹木紹介

冬 北方圏動物の紹介とイルミネーション、雪遊び

スケジュール

2006年（平成18年）	5月～	花見・ピクニックの特集ホームページ掲載
2006年（平成18年）	8月～	「夜の動物園」開催日数の拡大
2006年（平成18年）	12月～	「冬の動物園」で北方圏動物の紹介、冬イベントの充実
2007年（平成19年）	2月～	スノーフェスティバル開催（氷のすべり台等）
2007年（平成19年）	8月～	「真夏の雪まつり」開催（雪30トン搬入）
2007年（平成19年）	10月～	「樹木マップ」制作、紅葉の特集ホームページ掲載

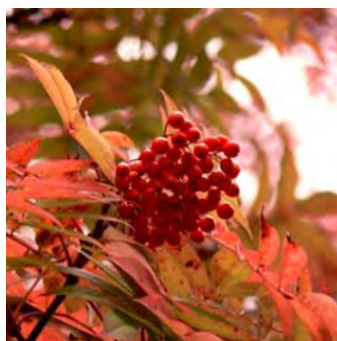
参考図表等



季節で変わるロゴマーク



春は芝生でピクニック



秋は紅葉が楽しめる



夏の定番 夜の動物園

項目名	役割	行動指針	実施時期
夜の動物園のプロモーション	1	1	18年度

概要

夜行性動物の生態観察を通じて野生動物の多様性を伝える。また、普段活用してない夜の時間帯を有効活用し魅力アップ、集客につなげる。

イベント名「夜の動物園」

開園時間を午後9時まで延長し、普段見ることのできない夜の動物園の様子や、猛獣やシロフクロウなどの夜行性の動物の行動を見学できる。

当日は、熱帯動物館やサル山の手すりの外周などをイルミネーションでライトアップし、アザラシのプールを水中照明で照らす。

飼育員による解説付きの「みんなのドキドキ体験」も多数行う。

2005年度(平成17年度)までは2日間のみの開催だったが、これを拡大した。

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

2006年(平成18年)8月11日(金)～15日(火) 5日間

2007年(平成19年)7月28日(土)・8月4日(土)・11日(土)・14日(火)・15日(水)・18日(土)・25日(土) 7日間

2008年(平成20年)7月26日(土)・8月2日(土)・9日(土)・15日(金)・16日(土)・23日(土) 6日間

参考図表等



幻想的にライトアップされたサル山



夜も人だかりのペンギン



チンパンジー館のドキドキ体験



項目名	役割	行動指針	実施時期
冬の動物園のプロモーション	1	1	18年度

概要

ホッキョクグマやユキヒョウなど北方圏の寒い地域に生息する動物たちが、生き活きと行動する冬の生態観察を通じて野生動物の多様性を伝える。
また、集客が低迷する冬季の魅力開発を行い、集客につなげる。

＜展開事例＞

- ・「冬の動物園」を盛り上げるポスター、看板の掲示
- ・冬季開園をアピールするための「広報12月号無料クーポン」
- ・「冬の動物園」期間(12～3月)のイベント群(サンデーセミナー、クリスマス、干支動物展等)
- ・雪まつりとタイアップした集客イベント「スノーフェスティバル」

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

クリスマスリースづくり(平成18年12月3日)

冬の日飼育係(12月26～28日)

干支イノシシ特別展示(12月2日～)

元旦甘酒・コーンスープ無料サービス(1月1日)

お泊り会ナイトキャンプ(1月6～7日)

年賀状コンクール(1月27日～)

環境オニ退治(2月3日)

スノーフェスティバル(2月4～12日)

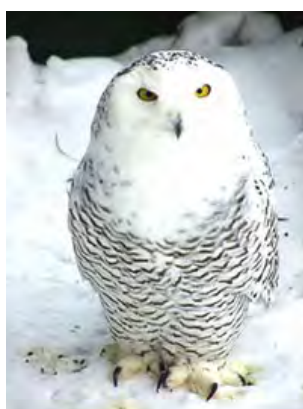
レディーウィーク(2月24日～3月4日)誕生会、ひなまつり

サンデーセミナー(1月～毎週日曜)/飼育員の動物講座、円山自然塾、大人の一日飼育係

参考図表等



幻想的な冬の園内



シロフクロウ



冬毛のオオカミ



冬の円山動物園

項目名	役割	行動指針	実施時期
提案型イベントによる新たな魅力の開発	-	1	18年度

概要

園内で行われるイベントは、職員だけで企画しているとマンネリ化を生むため、新たな視点でこれまでにないイベントを企画するべく民間企業やNPOなど多様なイベント主体からの提案を受け入れ、円山動物園の新たな魅力を開発する。

＜提案型イベントの実施例＞

「どうぶつ絵本の読み聞かせ」(2006年/18年12月実施済)

地元FM放送のアナウンサーや子育てNPOからの提案により実現

「まるまるアニマル人形劇」(2007年/19年8・9月実施済)

ブログサイトを運営する民間企業からの提案により実現

いずれも特に子育て世代を対象とし、動物を題材にした絵本や人形劇を見て、実際の動物を観察することにより親子での教育効果を高めるイベントとして初めて実現した。

スケジュール

随時実施

参考図表等



読み聞かせに夢中の子どもたち
(サル山展望レストハウス)



大人も一緒に楽しんだ人形劇
(動物科学館ホール)

項目名	役割	行動指針	実施時期
宿泊体験型イベントの実施	1	1	18年度

概要

夏休み、冬休みに行う学習イベント。サル山展望レストハウスに寝袋で宿泊するお泊り会。通常では見ることのできない、夜・早朝の動物の生態を探り知識を深め、飼育員と一緒に飼育体験をして動物と接する喜びや驚きを伝え、さらに食事に際しては動物と関連した食育(食物連鎖の話)を行う。

イベント名「ナイトキャンプ」

JTB北海道の主催による夜の動物園学習お泊り会

主な内容: フィールドワーク、食育レクチャー、ナイトツアー(夜の動物園視察)、作業場案内

対象: 小学校3年生以上(高学年の兄弟参加の場合は小学校1、2年生の参加も可能)

募集人数: 20名

参加費: 8,000円(宿泊、夕食、朝食、損害保険代含む)

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

<第1回> 2006年(平成18年)8月5日(土)～6日(日)

<第2回> 2007年(平成19年)1月6日(土)～7日(日)

<第3回> 2007年(平成19年)8月16日(金)～17日(土)

<第4回> 2008年(平成20年)1月10日(木)～11日(金)

<第5回> 2008年(平成20年)8月12日(火)～13日(水)

参考図表等



飼育体験で学ぶ子どもたち



食育「いただきます」の意味



お楽しみ夜の探検ツアー

項目名	役割	行動指針	実施時期
大人向け体験イベントの実施	1	1	18年度

概要

「大人も子どもも楽しめる動物園」を目指して、これまで「子ども」を対象としたイベントであった「一日飼育係」について、新たに大人をターゲットとして行う。
 憧れていたけどなれなかった飼育員という仕事を体験したり、動物と間近で触れ合いながら癒しを求める大人が、子どもたちに遠慮せず楽しめるプログラムとする。

イベント名「大人の一日飼育体験」

- ・飼育体験
参加者1名と飼育員1名がペアとなり、各動物舎で飼育体験を行う。
- ・飼育員との懇談会
昼食をとりながら動物園紹介ビデオを上映し、その後飼育員との懇談会を行う。
- ・動物病院体験プログラム
獣医師の仕事や動物病院の役割などをスライドで紹介し、診療体験等を行う。

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

- <第1回> 2007年(平成19年)2月18日(日)・25日(日) 各日11名
- <第2回> 2007年(平成19年)6月10日(日)・24日(日) 各日10名
- <第3回> 2007年(平成19年)11月11日(日)・18日(日) 各日10名
- <第4回> 2008年(平成20年)2月17日(日)・3月23日(日) 各日10名
- <第5回> 2008年(平成20年)6月8日(日) 10名

参考図表等



動物舎の清掃から参加



キリンへのエサやりを体験



動物病院でウサギに聴診器

項目名	役割	行動指針	実施時期
新規イベントによる新たな客層の開発	-	1	18年度

概要

これまで動物園にとって疎遠だった客層を対象とし、閉園後の夜の動物園を活用したイベントを開発する。

特に「環境教育の拠点」「大人も楽しめる動物園」をアピールするため、環境に感心の高い大人で、かつ女性を中心に新しいイベントに敏感な20～30代や趣味やレクリエーションに時間とお金をかけられる50～60代を対象に、夫婦やカップルでも楽しめるイベントを目指す。

イベント名「円山ZOO LOHASナイト」

夜の動物園で、ソムリエ厳選の北海道産ワインを傾けながら、プロの演奏家によるフルートやバイオリンをBGMに動物たちと間近でふれあい、道産食材をふんだんに使った市内一流ホテル総料理長オリジナルの地産地消オードブルプレートを楽しむ。食事後のLOHASセミナーでは飼育員からとっておきの裏話や動物たちの環境メッセージなどを紹介。人と動物と環境が共存するためのライフスタイルを考えるきっかけとなるイベント。

【主催】ZOO LOHASナイト準備委員会

イベント名「恋人たちのクリスマスナイトZOO」

ロマンチックに電飾した夜の動物園をカップルで散策し、園長サンタからトナカイの角で作ったストラップをプレゼントする。

スケジュール

「円山ZOO LOHASナイト」

2006(平成18)年度 8・11月(延べ6回)開催

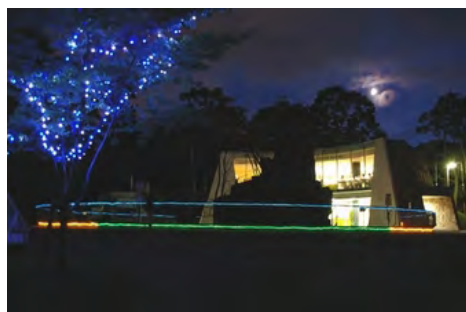
2007(平成19)年度 6・9・11月(延べ8回)開催

2008(平成20)年度 本州向け観光ツアーとして展開予定

「恋人たちのクリスマスナイトZOO」

2007年(平成19)年度 12月開催

参考図表等



ムードある幻想的な夜の空間



おしゃれして来園する大人たち



若い女性に人気のふれあい

項目名	役割	行動指針	実施時期
シニア層を対象とした市民参加型イベントの開発	-	1	18年度

概要

地域に根ざした歴史ある動物園として幅広い年代層の市民が参加し支持される動物園を目指して、特にシニア層を対象としたイベントを開発する。
園内で活動し、その成果を発表することと、若者からシニアまで長年にわたって親しむことができる点から、アートをテーマとして行う。

イベント名「円山動物園芸術祭」

園内の動物をモチーフに市民が気軽に参加でき園内でスケッチや撮影を行い、作品としての彫刻や写真、絵画、絵手紙などを展示することで、多くの来園者とリピーターが期待できる。
出展者はシニアに限定せず、多様な年代がそれぞれの表現方法で動物の魅力を伝えた。

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

<第1回> 2006年(平成18年)10月21～29日

<第2回> 2007年(平成19年)10月6～28日

参考図表等



リーフアート

絵手紙

バードカービング

絵画

項目名	役割	行動指針	実施時期
親子向け体験イベントの実施	1	1	18年度

概要

新規客層の開拓のため、新たに「親子での体験」をターゲットとして行うイベント。職員だけでは発見できない円山動物園の魅力について市民、NPO、企業から提案を受け、協働型で開催する。世代間の交流や親子の思い出づくり、特に父子交流に着目した自然探検・昆虫探検を行う。

＜展開事例＞

- ・円山自然塾(2006年度/平成18年度)
NPO法人ねおすによる円山登山道の散策と円山に生息する生き物を学ぶセミナー。動物園サンデーセミナーとして3回実施
- ・円山昆虫探検隊(2007年度/平成19年度)
学校関係者の協力により園内の昆虫を探索・解説

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

- ・円山自然塾 2007年(平成19年)3月4日(日)・18日(土)・25日(土)
- ・円山昆虫探検隊 2007年(平成19年)7月23日(月)～8月18日(土)の中の12日間

参考図表等



スノーシュー(かんじき)を履いて円山散策
円山自然塾の親子散策の様子

項目名	役割	行動指針	実施時期
都会の癒しの場・レストスペースの創設	-	1	19年度

概要

札幌ならではの「都会の動物園」の新たな楽しみ方として、動物好きに限らず、休日にふと立ち寄って自然の中で快適にのんびり過ごせる空間を創設することにより、子どもだけでなく大人にとっても癒しの場としてビジネスマン・OL層に客層を広げることを目標とする。
 既存施設では、平成17年度竣工のサル山展望レストハウスに象徴されるように動物を眺めながら、長時間リラックスして滞在できるレストスペースを確保するとともに、園内にカフェやコンビニエンスストアを誘致し快適に長時間滞在できる環境を整える。

<想定する過ごし方>

- ・休日にのんびりニホンザルを見ながら読書
- ・コーヒーを片手にウッドデッキに座ってエゾシカ観察
- ・芝生やキリンの前のベンチに座ってちょっとしたピクニック
- ・ピオトープで昆虫観察しながら森林浴を兼ねて散歩 等

スケジュール

2008年度(平成20年度)

- 4月11日 エゾシカ・オオカミ舎に、自然の中で快適にのんびり過ごせる空間を新設
- 7月29日 キッズコーナーや環境メッセージビデオを上映するカフェをオープン
- 7月30日 コンビニエンスストアをオープン

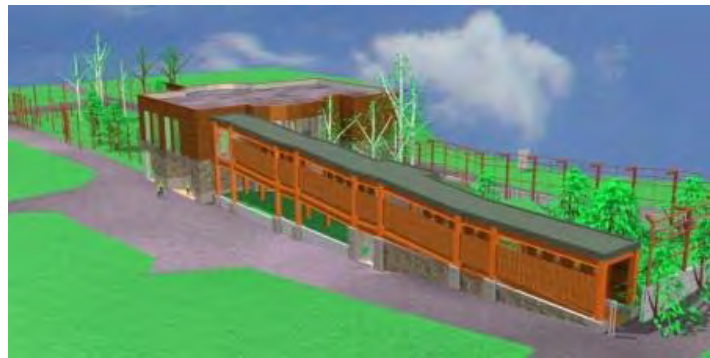
2009年度(平成21年度)以降

動物舎の建設等に合せて、可能な限り動物だけでなく、観覧者もゆったりとのんびり過ごせるスペースを創出する。また、施設の建設・改修以外でも、眺めの良い木陰(日陰)にベンチを設置すること等の実現を図っていく。

参考図表等



時間を忘れてのんびり過ごせる
 サル山展望レストハウス
 (2006年エンリッチメント大賞受賞)



来園者が快適に過ごせるよう
 空間に配慮して設計した
 新しいエゾシカ・オオカミ舎

項目名	役割	行動指針	実施時期
観光ツアーの誘致提案	3	1	18年度

概要

円山動物園を札幌の観光素材として再構築し観光振興に役立てるため、「解説付き感動体験型ツアー」や「夜の動物園パーティプラン」など実験的なイベントを行い実現可能性を検証するとともに、旅行代理店に対して積極的に営業活動を行い観光ツアー誘致を提案する。
特に東京・名古屋・大阪からの送客をターゲットとし、将来的には「冬の動物園」を目玉にアジア圏からの送客を獲得することを目指す。

＜観光素材となりうるイベント＞

- ・みんなのドキドキ体験
- ・飼育員セミナー&裏側探検
- ・円山ZOO LOHASナイト
- ・ナイトキャンプ(お泊り会)
- ・大人の日飼育係
- ・スノーフェスティバル(氷のすべり台)

スケジュール

2006年(平成18年)9月 札幌旅行商品造成会議(東京)において旅行代理店各社に提案
2007年(平成19年)8月 「親子で感動!北海道ちっぴこ動物園自然教室」商品化/地球温暖化とホッキョクグマの学習
2007年(平成19年)10月 首都圏シティPRイベント(お台場パレットタウン)出展
2007年(平成19年)11月 札幌観光セミナー「ラウンドテーブル2007」(東京・名古屋・大阪)旅行代理店関係者約200名にプレゼンテーション
※現在、「解説付き感動体験型ツアー」及び「夜の動物園パーティプラン」が商品化決定。

参考図表等



ふれあい体験メニューや夜の動物園をテーマに旅行商品を開発



項目名	役割	行動指針	実施時期
Webを活用した新たなプロモーションの展開	-	1	18年度

概要

来園前後の情報提供や告知を充実し、より動物への興味を喚起するとともに、ブログや動画などロコミ的要素の強いメディアを活用することにより新たな顧客の獲得とリピーターの定着を目指す。あわせてSEO（サーチエンジン対策）を実施し検索優位を獲得する。

＜具体的な取り組み＞

- ・公式サイトのリニューアル
より楽しく、動物園の役割やイベントスケジュール、新着動物などの情報を詳細に伝える
- ・市民サイト「Webシティさっぽろ」観光サイト「ようこそさっぽろ」との連携
相互リンクにより検索優位を保つとともに、新たな顧客開拓の窓口とする
- ・支援サイト「Maruyama Zoo Channel」
動画サイト/動画による貴重映像や飼育員解説で話題性を喚起する
携帯サイト/ふれあい体験スケジュールを毎日更新
- ・飼育員ブログ「札幌100マイル」/飼育員自ら情報発信し魅力を伝える
- ・ブログパーツ「ブログ猿」/ニホンザルをモデルにしたブログパーツで公式サイトに誘導する

スケジュール

2006年(平成18年)6月	公式サイトリニューアル
2006年(平成18年)9月	携帯サイト開始(日本初)
2007年(平成19年)2月	飼育員ブログ開始(道内初)
2007年(平成19年)7月	ブログパーツ配信開始(日本初)
2007年(平成19年)9月	動画サイト開始(スポンサー支援型としては日本初)

参考図表等

＜用語解説＞

- ・SEO(サーチエンジン最適化)
インターネットの検索エンジンで上位に表示されるようにサイトの構成を工夫しより多くの人々がサイトを訪れるようにすること。
- ・ブログ(blog)
Web logの略語。インターネット上に公開された日記形式のホームページ。
- ・ブログパーツ
ブログやホームページに貼り付けることができるアイテム。
時計やゲームなど様々な種類がある。



日本初の円山動物園オリジナル・ブログパーツ
ニホンザルがHP上を歩き回る。



項目名	役割	行動指針	実施時期
新たなメディアを活用したプロモーションの展開	-	1	18年度

概要

円山動物園の知名度を高めブランドを向上していくためには、動物園本来の活動の充実が最も重要であるが、これに加え多様化するメディアに対応した取り組みが必要となるため、既存の新聞・テレビ・雑誌・広報誌・ホームページだけでなく、新たなメディアについても積極的に取り組んでいく。円山動物園の果たしている役割や高い技術力、他の動物園にない魅力を複数のメディアを通じて継続的に発信し、エピソードを蓄積していくことによりストーリー感を持たせ再生の起爆剤としていく。

＜想定する展開＞

プロモーションDVDを制作し、市内小学校などの教育機関や旅行代理店、報道関係者に配布するとともに、絵本や写真集などの出版物についても検討を行う。

様々なフリーペーパーについてもメディアとして捉え、露出の機会を獲得する。

また、書籍化・ドラマ化・映画化なども将来的には視野に入れてプロモーション活動を行う。

スケジュール

2006年(平成18年)～ 環境フリーペーパー「HOSHI-HITO」に掲載

2007年(平成19年)～ 食育フリーペーパー「のこたべ」に掲載

2007年(平成19年)12月 プロモーションDVD制作

2008年(平成20年)1月 アジアゾウ花子のブックレット制作

2008年未定 一般販売用DVD制作(民間)

参考図表等



長年のファンからの熱い要望により
花子の一周忌にはブックレットを制作

項目名	役割	行動指針	実施時期
教材ワークブック開発による小学校の総合学習誘致	1	1	19年度

概要

動物の生態を通じて楽しみながら、命の大切さや環境メッセージを伝えるため、小学生(低学年・高学年の2種)を対象として、主に総合学習での活用を考えた教材を教員、研究者らと共同開発する。学習効果を高めるとともに小学生から「動物園＝環境教育の場」という認知を広げる。

教材は、A4版4～5ページで授業で扱える程度のボリュームとし、短時間の授業でも十分にメッセージが伝わる内容とする。

また、活用した教員が自由に改良できるように教材そのものをデータでWeb配信し、利用者の声をもとに改良を重ねていく。

スケジュール

2007年度(平成19年度) 研究者・教員・飼育員による編集チーム設置、教材開発

2008年度(平成20年度) 総合学習での活用、随時内容を更新しながらバージョンアップ

参考図表等



ホッキョクグマはどうして絶滅しそうなの？ 森林は今どんな状況にあるのだろう？

項目名	役割	行動指針	実施時期
修学旅行誘致の拡大	3	1	19年度

概要

環境教育の拠点であり生物多様性確保の基地でもある円山動物園を教育の場として活用するとともに、集客産業の一環として本州からの修学旅行誘致を推進する素材として積極的にプロモーションしていく。

園内では、動物の生態を学ぶだけでなく、地球温暖化により絶滅危惧種となったホッキョクグマなどを通じて地球環境問題について学ぶことができ、なおかつ都会にありながら円山原始林に隣接し自然豊かな環境で北海道の野生動物(エゾリスやエゾモモンガなど)について触れ合いながら体験学習が可能である。

また、園が取り組む「北海道の野生動物復元プロジェクト」のオオワシ、シマフクロウ、オオムラサキ、ニホンザリガニなどの野性復帰について学ぶことにより、全国各地においても地元の生態系を守ることの重要性を訴えることができる。

このほか、飼育員や獣医といった職業体験のメニューもあり、多様な学習機会を提供できる。

<具体的な誘致策>

修学旅行用に園内の教育プログラムをまとめ、札幌市東京事務所を通じて誘致活動を行う。

スケジュール

2007年度(平成19年度)誘致活動実施済

参考図表等

<動物園学習のメニュー例>

●来園人数40名以下(40~60分程度)

- (1) 質疑応答(動物科学館ホール・体験学習室を使用)
- (2) 裏側案内
飼料庫(餌の説明)、動物病院(日本初の公開型病院)、熱帯動物館(動物の生態説明)

●来園人数40名以上(30分程度)

- (1) 質疑応答(動物科学館ホールを使用)
- (2) ビデオ学習
- (3) ガイダンス
 - ・絶滅危惧種について(レッドデータブックの動物たち)
 - ・環境教育(地球温暖化・森林破壊・オゾン層の破壊)
 - ・種の保存
 - ・野生復帰 など

項目名	役割	行動指針	実施時期
市民ボランティアの活動分野の拡大	-	1	19年度

概要

「市民が支え、市民がつくる、市民が主役の動物園」を目指し、これまでも行ってきた動物園ガイドボランティアをより充実させるとともに、イベント、ふれあい指導、園芸・修繕、清掃等の活動全般に市民ボランティアを拡大させていく。

- ・ガイドボランティア
ポイントガイド、ガイドツアー、ニュースレター発行(19年10月時点 登録者数120名)
- ・イベントにおけるボランティア
様々なイベントに実行委員会もしくは個人として参加・協力を行う。運営スタッフ、写真撮影など。
- ・ふれあい指導におけるボランティア
大学生を中心にこども動物園でのふれあい指導や環境教育の手伝いを行う。
- ・園芸・修繕におけるボランティア
錆びた手すりの塗装ボランティアや植樹・植生調査などを行う。
- ・清掃等におけるボランティア
園内のごみ拾いや雑草抜きなどの手伝い、園内のデザインや来園者のための改善箇所の調査など。

スケジュール

- ・動物園ガイドボランティア制度(平成10年4月～継続実施)
- ・イベントボランティア(随時実施済)
- ・ふれあい指導(酪農学園大学学生により2007年度/平成19年度実施済)
- ・園芸(小学生と塗装組合により例年実施済)
- ・修繕(植生調査は札幌科学技術専門学校生徒により2007年度/平成19年度実施済)
- ・清掃(中学生、高校生等により随時実施済)
- ・園内調査(札幌市立大学生により2006年度/平成18年度実施済)

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
動物の魅力をより深く伝えるための取り組み	1	1	18年度

概要

ソフト事業の展開にあたっては、新たな魅力づくりにより「お客様を惹きつけ」て、新たな学びづくりにより「メッセージを伝える」という2つのサイクルを融合させ、円山らしさや体験を織り交ぜることにより、楽しく学べる、面白くて役に立つ「とっておきの場所」としてのブランドを構築していく。
特に動物の魅力を再発見できる「動物特集」や、飼育員自らが語り手となるセミナーなどを通じて、動物の魅力をより深く伝えていく。

<展開事例>

- ・飼育員の動物講座(サンデーセミナー)
- ・文化講座、区民講座の園内開催
- ・飼育員による出前講座
- ・飼育員のドキドキトーク
- ・チンパンジー特集「レディウィーク」
- ・は虫類特集「スネークアート展」

スケジュール

2006年度(平成18年度)実施済

2008年度(平成20年度)～ 法人向け「ドキドキ！移動動物園セミナー」実施

参考図表等



飼育員の動物講座は大人も子どもも楽しめる人気イベント



パネルやビデオで詳しく学べる「レディウィーク」の様子



アートを通じては虫類の魅力を再発見する「スネークアート展」

Ⅲ. 「施設整備と動物管理」編



9. 展示・施設の考え方（施設整備と動物管理）

展示方法や施設整備については、長期間にわたって円山動物園のスタンスを表現する重要な要素であることから、以下の方向性にしたがって、計画的に取り組む。

○ 円山エリアにおける一体的な空間創出

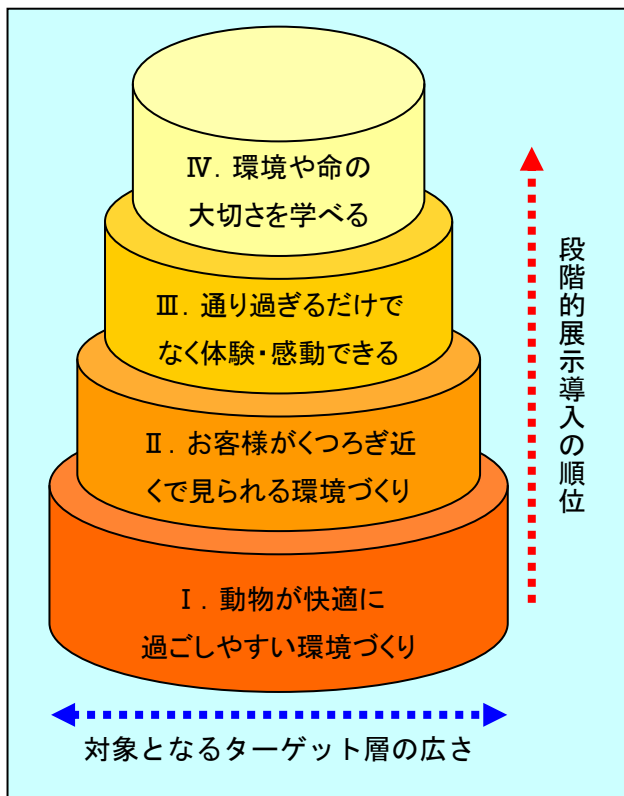
円山動物園を自然豊かな円山エリアの中核施設としてとらえ、周辺にある施設や設備、自然が相互に存在価値を高めあうような相乗効果を目指す。

このことにより、円山動物園が円山エリアの誇りとなるような施設、札幌市民をはじめ北海道民にとって「人と動物と環境をつなぐ絆づくりの場」として象徴的な存在になるよう取り組む。

○ 動物園内における展示のあり方

動物園における動物展示や環境教育展示には、様々な手法や考え方があるが、これらは時代とともに変化し、その評価も変わっていくため、円山動物園では、展示の目的とそこで提供されるべき価値により優先順位を設定し、その時代ごとに必要とされる展示手法を柔軟に取り入れながらも、着実に上位目的にたどり着けるよう、独自の「段階的展示導入方式（円山メソッド）」を実施する。

<段階的展示導入方式（円山メソッド）>



<解説>

この図では、経験の蓄積が上位に進むごとに対象となる客層は絞られてくる一方で、滞在時間は長く、関わりも深くなることを想定しています。

優先順位としては、(1)生き生きした動物を見て楽しいと感じる人を増やすことにより入園者を拡大し、(2)よりくつろぎながら、動物に近づいて見ることによって滞在時間（味わい、考える時間）を増やし、(3)様々な体験イベントを通じて感動を与え、より深く動物に関わることを通じて、(4)最終的に環境教育につなげていこうという考えです。

動物が快適でなければ、そこで行われる環境教育は本物とはいえませんし、お客様がゆっくりくつろげない動物園では、時間をかけて考えたり感動を味わったりすることもできないのです。

○ 入園者の利便性の向上

入園者にとって、気軽に訪れることができ、くつろぎながら楽しく過ごせる場所となるため、入園者の声に基づいて、現状における不快感を取り除き、入園者のニーズに合った施設づくりを最優先で行う。

<計画概要>

(1) 段階的展示導入方式（円山メソッド）の確立

環境エンリッチメントや環境教育については多くの動物園で採用されているが、これをつなぐ役割を担うものとして、入園者に配慮した施設づくり（くつろぎスペースの創出）や感動体験型展示（みんなのドキドキ体験等）を、円山動物園の大きな特徴とする。

（18年度～） ※メソッド（method）＝方法・手法のこと

(2) 環境エンリッチメントの推進

円山動物園独自の「段階的展示導入方式（円山メソッド）」の「I. 動物が快適に過ごしやすい環境づくり」は環境エンリッチメントの推進を指す。

「環境エンリッチメント」とは、動物福祉の観点から動物たちの居住生活環境を豊かにすることである。古い飼育施設が多い円山動物園では、動物にとって「せまい」「変化がない」「床がコンクリート」など暮らしやすさの面で課題があったため、今後の新築・改築において環境エンリッチメントを進める。（18年度～）

(3) 園内の総合的なデザイン

これまでの動物園は、動物の展示方法よりも展示動物数や動物舎の拡充整備に重点を置いて増築を繰り返してきたことから、全体のコンセプトやエリアごとのテーマが明確ではなく、園路はとても複雑な動線となっていた。そのため、入園者を迷わせない動線計画とそれに合わせた統一的なサイン計画を策定する必要がある。

また、園内のデザインについては統一的なルール定め、時代に即した見直しを行うとともに、段階的にバリアフリー化を進めていく。（19年度～）

(4) 園内緑化整備

園内の樹木に関しては、老木化や倒木などにより樹木の更新が必要な場合に、本来、円山原始林にある植物に植え替えを行うことにより、周辺の自然環境と一体化した緑化整備を行い、「円山動物園の森（ビオトープ）」と連携した環境教育を行う。

また、動物舎の整備に合わせて積極的な緑化計画を作成する。（20年度～）

(5) 円山地域整備

動物園を中心とした、円山地域の活性化に向けた整備を行う。

地下鉄から動物園の間は道路、公園内ともに誘導・案内サインが不足していることから、歩行者が迷わないよう判りやすく楽しいサインを充実させる。

円山裏参道については、歩行者の安全を確保するとともに冬季間の除雪を実施するため、歩道の整備（照明含む）とあわせて現在も発生している小動物の輪禍防止のための横断施設を整備する。

円山公園内には、裏参道とほぼ並行して円山川沿いに木道があるが、滑りやすく非常に傷んでいることから補修を行う。

円山川については、自然回復事業として、動物園ビオトープへの導水施設整備や、川の水質を回復させるための事業の実施を検討する。（22年度～）

(6) 北海道・北方圏ゾーン建設

地元北海道の動物にもスポットをあて、私たちにとって身近なところから環境問題を考えるきっかけにするため、「北海道・北方圏ゾーン」を設ける。同時に、観光に訪れる方々にも北海道の自然の素晴らしさを体験してもらえる場にする。エゾシカ、オオカミ、ヒグマ、アザラシなど人と野生動物との関係や歴史を解説するとともに、地元の自然を守ることを啓発し、故郷への愛着を涵養する。また、地球温暖化による北極圏の環境問題を訴えかけ、環境のための行動を呼びかける。（19年度～）

(7) 野性復帰・自然体験ゾーン建設

北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の研究・活動機関と連携しながら円山動物園の繁殖技術で復元し、鷹匠技術により飛行訓練を行い、自然界に放鳥、野生復帰させることに挑戦する。エゾリスやエゾモモンガ、オオムラサキ、オニヤンマ、ニホンザリガニなど身近な動物の繁殖や自然への復元にも取り組んでいく。（19年度～）

(8) 爬虫類・鳥類エリア

高い技術に基づく希少動物（絶滅危惧種）の繁殖を通じて、生物多様性の重要性を表現し、動物たちの生息域で起こっている環境問題を考えるきっかけとする。（21年度～）

(9) アジアゾーン建設

アジアに生息する動物を集中させ、地理や気候、食性の違いなどアジアの環境の多様性ととともに、希少種の保存や生息域の保全の大切さを伝える。（23年度～）

(10) アフリカゾーン建設

アフリカに生息する動物を集中させ、動物たちの共存や食物連鎖を伝えるとともに、ミニサファリ形式による混合飼育を行う。(24年度以降)

(11) 類人猿・モンキーエリアの整備

ヒト科の動物であるチンパンジーやオランウータンなどの類人猿は、環境エンリッチメントにより多様な行動を引き出し、群れで生活する中での家族関係や子育て風景、高い知能に基づく遊びなど興味深い行動を見て親しみを持ってもらうと同時に、一方で森林伐採や開発などにより絶滅の危機にある状況を伝え、人間の行動を考えるきっかけとする。あわせてサル仲間たちの多様な行動や生態、希少性を伝える。(19年度～)

(12) ふれあいゾーン建設

こども動物園では、動物とのふれあいを通じて「いのちの大切さ」や癒しを伝えるとともに、地元の野性小動物の展示や総合学習の飼育体験受入など環境教育の入口とする。カンガルー館では、有袋類の特異性やスローロリスなど夜行性動物の特徴などを通じ動物の進化と適応を学べるようにする。(19年度)

(13) 動物科学館改修

現在の動物科学館は、展示物や遊具を固定しているため容易に入替等ができず、故障してもそのまま放置されている遊具・展示物があり、その展示内容も陳腐化しているため、固定展示や常設遊具を撤去し、可動式展示等への転換を図る。(24年度以降)

(14) トイレ・授乳スペースの整備

園内には和式のみで老朽化した木造トイレが2か所あり、授乳室も不足している。また、動物とのふれあいにより、数多くの手洗いスペースが必要とされているため、来園者が快適に利用できるようトイレ・手洗い・授乳スペースを整備する。(19年度～)

(15) 野外ステージ建設

野外ステージはゴールデンウィークを中心にキャラクターショーなどのイベントに利用されているが、施設・設備ともに老朽化しており、利用できるイベントが限られているため、建替えを行う。新ステージは、様々なアトラクションやイベントを行うにぎわいの中心施設とし、イベント等のない時にも来園者がくつろげるスペースとして新設する。(24年度以降)

(16) コンビニエンスストア、カフェ、レストラン、ミュージアムショップの誘致

入園者数及び満足度の向上のため、新たにレストラン、コンビニエンスストア、カフェ、公式グッズ売店を誘致する。(19年度～)

(17) 園内交通の整備

円山動物園は、南北約 700 メートル、東西約 400 メートル、高低差約 40 メートルの傾斜地であり、お年寄りや障がいのある方にとって園内全てを容易に移動し観覧するのは厳しい状況にあるため、園内のリニューアルに合わせて、来園者の利便性を高めるためバリアフリー対応の周遊観覧交通を整備する。(23 年度～)

(18) 環境にやさしい施設への転換

施設そのものも環境教育の教材となるよう「環境にやさしい施設」を目指して、円山動物園における資源やエネルギーの効率的活用を行う。(19 年度～)

(19) エントランス機能の充実

動物がいそうな雰囲気を演出し、楽しさや期待感を感じさせる、より魅力あるエントランスにすべく正門・西門の整備を行う。また、新たに南側入園口機能の整備を行い、円山西町住宅街からのアクセスを向上させる。(22 年度～)

(20) 臨時駐車場の確保

円山動物園は近隣に大規模な民間駐車場がないため、繁忙期には最大 3 時間待ちの渋滞を招いている。今後、入園者数 100 万人を達成するにあたり、公共交通の利用促進のほか、ピーク時の駐車場対策についても検討を進める。(23 年度～)

(21) 飼育動物の考え方

円山動物園では園内をゾーン・エリアに分け、各ゾーン・エリアにテーマと伝えるべきメッセージを設定する。飼育動物については、コレクション的に種類を増やすのではなく、このテーマとメッセージを担うべき動物の「選択と集中」を行う。このことにより、単に珍しい動物を展示する動物園ではなく、社会的な役割を担いメッセージを伝える「本物の動物園」を目指す。(18 年度～)

なお、アジアゾウの新規導入については、繁殖可能なゾウ舎を建設する必要がある、建設費や人件費を含め多額な経費がかかることから、市民議論を行い導入の可否を検討していく。(19 年度～)

項目名	役割	行動指針	実施時期
段階的展示導入方式(円山メソッド)の確立	1	1	18年度

概要

○段階的展示導入方式とは

動物園における動物展示や環境教育展示には、様々な手法や考え方があるが、これらは時代とともに変化し、その評価も変わるものである。

円山動物園では、展示の目的とそこで提供されるべき価値により優先順序を設定し、その時代ごとに必要とされる展示手法を柔軟に取り入れながらも、着実に上位目的にたどり着けるよう、独自の「段階的展示導入方式(円山メソッド)」を実施する。

これは今後の施設整備の基本的な考えとなるものであり、次のような段階で実施する。

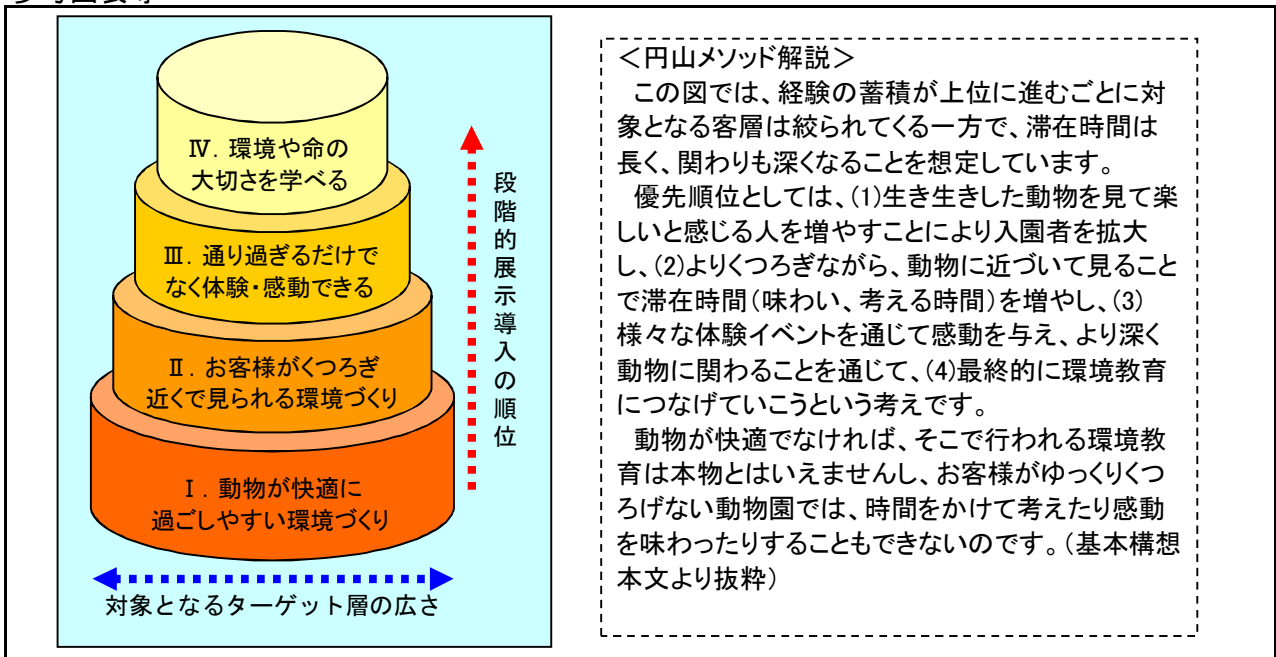
- I. 動物が快適に過ごしやすい環境づくり
- II. お客様がくつろぎ近くで見られる環境づくり
- III. 通り過ぎるだけでなく体験・感動できる
- IV. 環境や命の大切さを学べる

I の環境エンリッチメントやIVの環境教育については多くの動物園で採用されているが、これをつなぐ役割を担うものとして、IIの来園者に配慮した施設づくり(くつろぎスペースの創出)やIIIの感動体験型動物園(みんなのドキドキ体験等)は、円山動物園の大きな特徴といえる。

スケジュール

2007年(平成19年)3月 基本構想の中で「円山メソッド」を規定
 2007年度(平成19年度)～ 動物舎における展示、動物舎の設計に適用

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
環境エンリッチメントの推進	-	-	18年度

概要

円山動物園独自の「段階的展示導入方式(円山メソッド)」の「I. 動物が快適に過ごしやすい環境づくり」は環境エンリッチメントの推進を指す。
「環境エンリッチメント」とは、動物福祉の観点から動物たちの居住生活環境を豊かにすることである。古い飼育施設が多い円山動物園では、動物にとって「せまい」「変化がない」「床がコンクリート」など暮らしやすさの面で課題があったため、今後の新築・改築においては、以下の観点で環境エンリッチメントを進める。

<環境エンリッチメントのポイント>

- ・可能な限り本来の生息環境に近い生活様式を再現する
- ・床をコンクリートから土へ
- ・草や木を生やして自然に近づける
- ・動物たちが退屈しないようエサを隠したり遊び道具を与える
- ・群れで生活する動物はペア以上で群れ飼いする
- ・観覧ストレスを軽減するため隠れられるスポットを設ける

スケジュール

施設の新設・改修に伴い順次実施

○ニホンザル

2006年度(平成18年度) サル山改修時にエサを探しながら過ごせる給餌スペースを設置(2006年度エンリッチメント大賞受賞)

○オランウータン

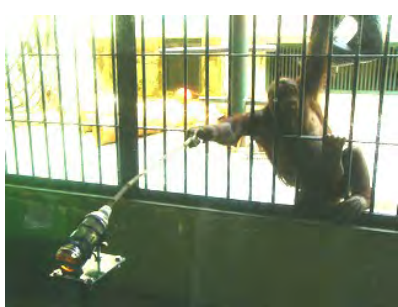
エサを1日数回に分けて与える、麻袋に隠す、木の枝でペットボトル内の蜂蜜をとらせる などオランウータンを退屈させない取り組みを実施(2003年度エンリッチメント大賞受賞)

2007年度(平成19年度) 類人猿館改修時に床を土に変更

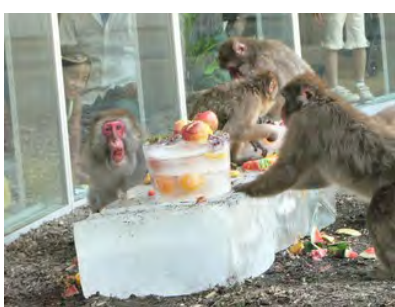
○は虫類

給餌のコントロールと飼育環境整備の徹底により国内初のカンボジアモエギハコガメ、屋内施設では世界初のヨウスコウワニの繁殖に成功(2007年度エンリッチメント大賞受賞)

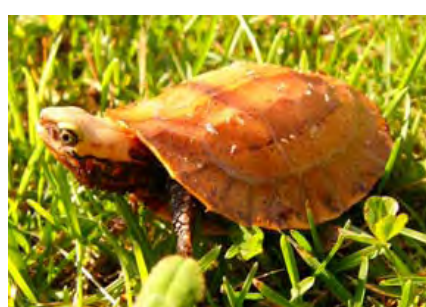
参考図表等



頭を使って蜂蜜を取る
行動を引き出す仕掛け



給餌スペースで時間を
かけてエサ探しするニホンザル



飼育環境の工夫の結果
日本初の繁殖に成功

※「エンリッチメント大賞」とはNPO法人「市民ZOOネットワーク」が全国の動物園の取り組みから審査・決定している賞のこと。円山動物園はこれまでに3回受賞しています。

項目名	役割	行動指針	実施時期
園内の総合的なデザイン	-	-	19年度

概要

これまでの動物園は、動物の展示方法よりも展示動物数や動物舎の拡充整備に重点を置いて増築を繰り返してきたことから、全体のコンセプトやエリアごとのテーマが明確ではなく、園路はとても複雑な動線となっていた。

そのため、入園者を迷わせない動線計画とそれに合わせた統一的なサイン計画を策定することが必要である。また、園内のデザインについては統一的なルール定めるとともに、時代に即した見直しができるようにする。

なお、園内は南北の高低差が約40メートルもあり、既に多数の動物舎が配置されていることから、短期間において、園内全てのバリアフリー化は困難であるが、メイン園路を中心に、各施設においても可能な限り、段階的にバリアフリー化を進めていく。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

・動物園基本計画の策定において、委託業者だけでなく、札幌市立大学と連携し、統一的なデザイン計画を策定していく。また、デザインのインデックス化を進める。

2008年度(平成20年度)

・エゾシカ・オオカミ舎及びこども動物園改修時に、車椅子や高齢者のためのスロープや多目的トイレを設置した。

・平成21年度以降 動物舎などの施設の建設・改修に合わせて、園路の整備、サイン充実、バリアフリー化等を進める。

参考図表等

●緑と木質をサインデザインに反映させる：
 広い園内に点在する分岐点の誘導サインには、機能性と適度な存在感が必要。
 古材、廃材利用を利用したオブジェのようなバックボードは
 広い園内の目印として機能する。
 また、環境保全に向けたメッセージと言える。



札幌市立大学サイン計画検討資料より抜粋

項目名	役割	行動指針	実施時期
園内緑化整備	2	2	20年度

概要

動物園を含む円山公園は、明治初期の「養樹園」として様々な種類の樹木が植栽され、円山地区の歴史的な遺産となり豊かな景観を形成してきた。これらの樹木の健康診断、保全、管理を実施していきながらも、倒木などにより更新が必要となった際には、円山原始林などの植物を基準にして円山地域本来の植物への植え替えを進めていく。

当面は、現存している樹木の管理を計画的に実施し、動物舎や園路整備が進んだ際には、積極的な緑化計画を作成する。

なお、動物園は多くの市民に利用される場であるため、花壇や植木などの園芸的な植物も活かしつつ、園内の植物環境を充実させていく。

- ・園内樹木の種類や数の調査を行う。
- ・高齢化し衰弱してきた樹木の倒木事故が頻繁に起きているため、樹木の診断と管理更新を行う。
- ・クマ館裏や円山川周辺など園内に現存している自然林の保全をする。
- ・獣舎の改修及び新築時には、全体の緑化計画を念頭において植栽をする。
- ・円山原始林を代表とする周辺の自然環境とのつながりを形成する。
- ・「円山動物園の森(ビオトープ)」と連携した植物をテーマとする環境教育を実施する。
- ・熱帯植物館解体に伴い、植物を鳥類館や熱帯動物館への移植や鉢植展示を行う。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

8月 円山公園と円山動物園の外周部分の植物調査実施

2008年度(平成20年度)～

「円山動物園の森(ビオトープ)」整備、園内の植物調査および新獣舎への植栽実施
植物館解体に伴う熱帯系植物の移植

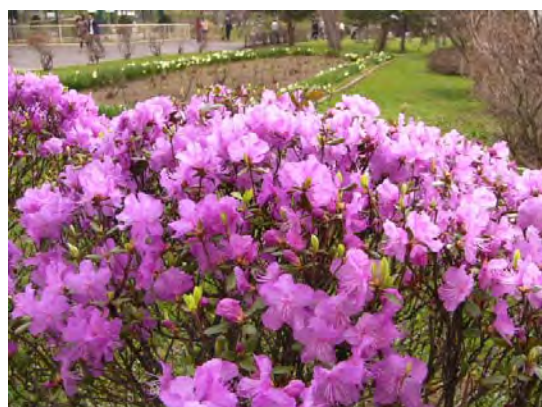
2009年度(平成21年度)～

「円山動物園の森(ビオトープ)」に苗圃を開設、管理及び植栽実施

参考図表等



産業樹木 (スギ林)



園芸植物と花壇

項目名	役割	行動指針	実施時期
円山地域整備	-	-	22年度

概要

動物園を中心とした、円山地域の活性化のため、下記の整備について検討を行う。

- ・アクセスサインの拡充として、地下鉄から動物園の間のアクセスについて、道路、公園内ともに誘導・案内サインが不足していることから、歩行者が迷わないよう判りやすく楽しいサインを充実させることを検討する。
- ・円山裏参道については、現在も歩道はあるが、途中で切れており、また、歩道幅も狭いことから冬季の除雪が不十分である。そのため、歩行者の安全確保や冬季間の除雪を実施するため、歩道の整備（照明含む）や現在も発生している小動物の輪禍防止のための横断施設の建設を検討する。
- ・円山公園内には、裏参道とほぼ並行して円山川沿いに木道があるが、とても滑りやすく、また非常に傷んでいることから、補修を行うことを検討する。
- ・円山川については、自然回復事業として、動物園ビオトープへの導水施設整備や、川の水質を回復させるための事業の実施を検討する。

スケジュール

2007年度(平成19年度)
 関係部局にて、検討会議の実施(道路・河川・公園所管課など)
 2010年度(平成22年度)以降
 調査及び基本計画(概要設計)実施予定

参考図表等

円山公園内の小さく・数も少ない動物園への誘導標識

絵も薄くなっている。(拡大)

狭い歩道の一例

3面の護岸のため自然復元が困難(円山川)

項目名	役割	行動指針	実施時期
北海道・北方圏ゾーン建設	2	2	19年度

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

地元である札幌、北海道の動物、円山の自然に生息する動物にもスポットをあて、私たちにとって身近なところから環境問題を考えるきっかけにするため、「北海道・北方圏ゾーン」を設ける。同時に、観光に訪れる方々にも北海道の自然の素晴らしさを体験してもらえる場にする。

エゾシカ、オオカミ、ヒグマ、アザラシなど人と野生動物との関係や歴史を解説するとともに、地元の自然を守ることを啓発し、故郷への愛着を涵養する。

また、地球温暖化による北極圏の環境問題を訴えかけ、環境のための行動を呼びかける。

○展示方法の工夫

動物だけでなく入園者にも動物園内で快適にゆったりと過ごしてもらい、動物たちをより近くで見てもらえるよう、入園者本位の施設づくりを実施する。

○飼育展示動物

エゾシカ、オオカミ、アザラシ、ヒグマ、ホッキョクグマなど

スケジュール

2007年度(平成19年度) 旧オオカミ舎解体、旧シカ・トナカイ舎解体、エゾシカ・オオカミ舎新設

2009年度(平成21年度) エゾヒグマ館新設

2011年度(平成23年度)以降

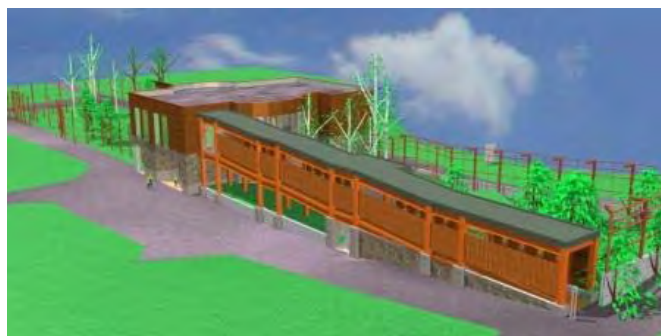
世界の熊館改修

第2ホッキョクグマ舎建設

海獣ペンギン館建設

旧海獣舎解体

参考図表等



新しいエゾシカ・オオカミ舎は、絶滅したエゾオオカミと人間、増えすぎたエゾシカとの関係を考える場として設計。オオカミの走り回る姿を間近で観察できる。

項目名	役割	行動指針	実施時期
野性復帰・自然体験ゾーン建設	2	2	19年度

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の研究・活動機関と連携しながら円山動物園の繁殖技術で復元し、鷹匠技術により飛行訓練を行い、自然界に放鳥、野生復帰させることに挑戦する。

北海道の中でも開発が進んだ札幌市においては特に野生動物の減少が著しい状況にあり、動物園敷地に隣接する円山原始林や円山川、円山公園との連続性の中で、エゾリスやエゾモモンガ、オオムラサキ、オニヤンマ、ニホンザリガニなど身近な動物の繁殖や自然への復元に取り組んでいく。

○展示方法の工夫

自然観察ができるビオトープを設置するとともに、猛禽類の野生復帰のための飛行訓練風景も見学可能な訓練用バードケージを設置。

自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関と連携して行い、生態系の調和や復元作業自体を市民に普及する。

スケジュール

2007年度(平成19年度) 基本計画策定

2008年度(平成20年度) ビオトープ、ガイドセンター、周遊木道建設、野性復帰ゾーン(繁殖用・訓練用ケージ)建設

参考図表等



ガイドセンター(イメージ)

項目名	役割	行動指針	実施時期
爬虫類・鳥類エリア	1	2	21年度

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

高い技術に基づく希少動物(絶滅危惧種)の繁殖を通じて、生物多様性の重要性を表現し、動物たちの生息域で起こっている環境問題を考えるきっかけを与える。

○展示方法の工夫

爬虫類の世界最高水準の飼育・繁殖技術を背景に、国内での爬虫類・両生類の繁殖センターとしての役割を担うべく世界最高レベル、国内トップクラスの飼育展示施設を建設する。

○飼育展示動物

は虫類、鳥類

スケジュール

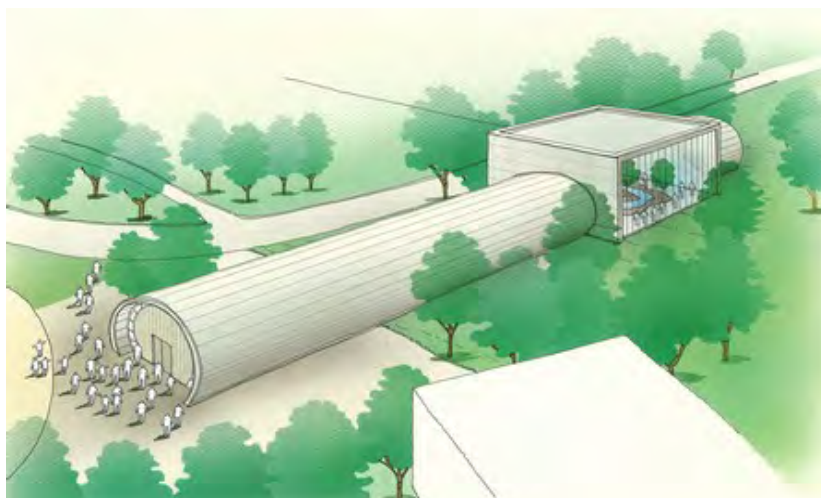
2008年度(平成20年度) 熱帯植物館解体、一部機能を熱帯鳥類館へ移転

2010年度(平成22年度) 新爬虫類館建設、旧爬虫類館・昆虫館解体

2011年度(平成23年度)以降

タンチョウ館建設、総合水鳥舎解体

参考図表等



新は虫類館イメージ図

項目名	役割	行動指針	実施時期
アジアゾーン建設	1	2	24以降

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

アジアに生息する動物を集中させ、地理的、気候的及び食性の違いなどアジアの環境の多様性ととも
に、希少種の保存や生息域の保全の大切さを伝える。

○展示方法の工夫

飼育環境をより自然に近づけたり動物の多様な行動を引き出す展示方法や動物が快適に過ごしやす
いエンリッチメントを工夫する。また、来園者がゆっくりとくつろぎながら間近で観察できるようにする
とともに、看板やハンズオンなどの掲示物を充実させる。

○飼育展示動物

マレーバク、アムールトラ、ユキヒョウ、レッサーパンダなど

スケジュール

2010年度(平成22年度) 白鳥池解体

2011年度(平成23年度)以降

アジア館建設

ゾウ舎建設 ※ゾウ導入が決定した場合

参考図表等



アジアカンイメージ図

項目名	役割	行動指針	実施時期
アフリカゾーン建設	1	2	24以降

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

アフリカに生息する動物を集中させ、動物たちの共存や食物連鎖を伝える。

○展示方法の工夫

飼育環境をより自然に近づけ、キリンやシマウマなどの草食動物は屋外放飼場をミニサファリ形式にし混合飼育を行う。

カバはペリカンと混合飼育し共存の様子を表現する。

○飼育展示

キリン、シマウマ、カバ、ダチョウ、ライオンなど

スケジュール

2011年度(平成23年度)以降 アフリカ館建設

参考図表等



アフリカ館イメージ図

項目名	役割	行動指針	実施時期
類人猿・モンキーエリアの整備	1	2	19年度

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

ヒト科の動物であるチンパンジーやオランウータンなどの類人猿は、環境エンリッチメントにより多様な行動を引き出し、群れで生活する中での家族関係や子育て風景、高い知能に基づく遊びなど興味深い行動を見て親しみを持ってもらうと同時に、一方で森林伐採や開発などにより絶滅の危機にある状況を伝え、人間の行動を考えるきっかけとする。

あわせてサル仲間たちの多様な行動や生態、希少性を伝える。

○展示方法の工夫

飼育環境をより自然に近づけたり、動物の多様な行動を引き出す展示方法や動物が快適に過ごしやすいエンリッチメントを工夫する。

また、来園者がゆっくりとくつろぎながら間近で観察できるようにするとともに、看板やハンズオンなどの掲示物を充実させる。

○飼育展示動物

オランウータン、チンパンジー、ニホンザル、マンドリル、シシオザル、ワオキツネザルなど

スケジュール

2007年度(平成19年度) 類人猿館改修

2011年度(平成23年度)以降 サル山改築

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
ふれあいゾーン建設	1	2	19年度

概要

○展示の目的 伝えたいメッセージ

・こども動物園／動物とのふれあいを通じて「いのちの大切さ」や癒しを伝えるとともに、地元の野性小動物の展示や総合学習の飼育体験受入など環境教育の入口とする。
 ・カンガルー館／カンガルーなど有袋類の特異性やスローリスなど夜行性動物の特徴など通じ動物の進化と適応を学ぶ。

○展示方法の工夫

「ドサンコの森」:ウオークスルー方式にし森を再現し道内産小型野生動物を放し飼いするとともに、ケージや水槽での展示も実施する。

「ビーバーの森」:ビーバーの巣作りやアライグマをガラス越しに間近に観察でき、プレーリードッグの国内初の巣穴展示を実施する。

「ウサギ・ニワトリ牧場」:ウサギやニワトリと自由にふれあうことのできる広いスペースを設置する。

「カンガルー館」:夜行性動物の行動を活かす展示を行う。

○飼育展示動物

・こども動物園／トカラヤギ、ヒツジ、ニワトリ、モルモット、ビーバー、プレーリードッグ、エゾタヌキ、エゾユキウサギ、エゾリス、エゾシマリス、エゾモモンガ、リスザル
 ・カンガルー館／ハイイロカンガルー、ベネットアカカンガルー、フクロギツネ、モモイロインコ、スローリス

スケジュール

2007年度(平成19年度) こども動物園改修、カンガルー館改修

2008年4月18日 こども動物園リニューアルオープン

参考図表等



こども動物園 完成イメージ
ふれあいを通じ命の大切さを学ぶ場



ドサンコの森 完成イメージ
森の中へ観察しに行くような展示

項目名	役割	行動指針	実施時期
動物科学館改修	1	2	24以降

概要

現在の動物科学館は、平成2年度に竣工した建物で竣工の際に展示物や遊具を固定しているため容易に入替等ができず、故障してもそのまま放置されている遊具・展示物があり、その展示内容も陳腐化している。

今後は、固定展示や常設遊具を撤去し、可動式展示等への転換を図る。

なお、当面の展示として平成18年1月に死亡したアジアゾウ「花子」の骨格標本の展示等を進めていく。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

平成20年1月にアジアゾウ「花子」の骨格標本展示のため、一部の固定展示を撤去
今後、新たな展示品の導入に合わせて、暫時、可動式展示に切り替えていく。

2011年度(平成23年度)以降

動物科学館の大幅な改修

参考図表等



動物科学館 外観



老朽化し壊れた固定式遊具の

項目名	役割	行動指針	実施時期
トイレ・授乳スペースの整備	-	-	19年度

概要

動物園では昭和55～56年に建設し、和式大便器のみの老朽化した木造トイレが2か所ある。また、今まで授乳室の積極的な整備をあまりしてこなかったことから、授乳室不足が生じている。更に、動物とのふれあいにより、数多くの手洗いスペースが必要とされている。そのため、来園者が快適に利用できるようトイレ・手洗い・授乳スペースを整備する。なお、既存施設については、清掃の徹底を行い快適な環境を確保する。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

5月 第一レストハウス授乳室を増設(1室→4室)

3月 エゾシカ・オオカミ舎に男女トイレ、多目的トイレ、授乳室3室を設置(旧式トイレ解体)

3月 こども動物園に男女トイレ、多目的トイレ、授乳室2室を設置

2010年度(平成22年度)

新は虫類館横に多目的トイレ、授乳室を設置(旧式トイレ解体)

2011年度(平成23年度)～

モンキーハウス横にトイレ建設

参考図表等



和式便器の旧式トイレ

項目名	役割	行動指針	実施時期
野外ステージ建設	-	-	24以降

概要

野外ステージは昭和46年に木造で建設され、ゴールデンウィークを中心にキャラクターショーなどのイベントに利用されているが、施設・設備ともに老朽化しており、利用できるイベントが限られている。また、照明等も無く日没が早い時期は使用できないなどの問題も抱えているため、建替を行う。新ステージは、様々なアトラクションやイベントを行い園内のにぎわいの中心となるとともに、イベントのない時にも来園者がくつろげるスペースとして新設する。

スケジュール

2007～2008年度(平成19～20年度)

現在、使用に耐えないスピーカー、アンプ等の音響装置を更新

2011年度(平成23年度)以降

新野外ステージ建設

参考図表等



現在の野外ステージ

項目名	役割	行動指針	実施時期
コンビニエンスストア、カフェ、レストラン、ミュージアムショップの誘致	-	-	19年度

概要

入園者サービスの一環(アメニティ施設)として既存の食堂・売店が7店舗あるが、景観を損ねる外観や価格・味・接客態度における苦情が多いこと、お土産についても円山動物園らしい特徴がない状況にあるため、今後の入園者数及び満足度の向上のため、新たにレストラン、コンビニエンスストア、カフェ、ミュージアムショップ(公式グッズ販売店)を整備する。

店舗の新規参入にあたっては、広く提案を公募し、環境への配慮、動物園らしさ、時代ニーズとの適合性、円山動物園への支援策などを考慮し、具体的な導入時期等を判断する。

<期待する効果>

- ・食環境の充実によるリピーターの定着(レストラン)
- ・都会における休日の過ごし方の提案(カフェ)
- ・ATMや生活必需品販売による滞在時間の拡大と客単価の向上(コンビニ)
- ・公式グッズ展開によるブランド化とライセンスビジネスの成立(ミュージアムショップ)

スケジュール

2007年(平成19年)10～11月 新規参入店舗の提案募集(第一次)

2008年(平成20年)4月 ミュージアムショップオープン

2008年(平成20年)7月 カフェ、コンビニオープン

参考図表等

--

項目名	役割	行動指針	実施時期
園内交通の整備	-	-	23年度

概要

円山動物園は、南北約700メートル、東西約400メートル、高低差約40メートルの傾斜地であるため、お年寄りや障がいがある方が、園内全てを容易に移動し観覧するのは厳しい状況にある。一方、園内の遊具施設(キッドランド)は、老朽化が著しく更新には多額の費用を要することから、これを運営する民間会社も新規投資と存続について否定的である。そのため、園内のリニューアルに合わせて、園内の遊具施設を廃止し、来園者の利便性を高めるためバリアフリー対応の周遊観覧交通へと転換する。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

遊具施設の運営会社によるバリアフリー対応周遊観覧交通への転換検討
実現可能な周遊ルート等の検討

参考図表等



子供の国キッドランド
(平成7年に中島公園から移転)



老朽化した遊具
平日は一部しか営業していない

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境にやさしい施設への転換	1	1	19年度

概要

施設そのものも環境教育の教材となるよう「環境にやさしい施設」を目指して、円山動物園における資源やエネルギーの効率的活用を行う。

＜具体的な取り組み＞

- ・水や熱の循環設備の導入による省エネ・水資源節約
- ・新エネルギー・自然エネルギーの積極的な活用(次世代エネルギーパーク構想)
- ・園内で排出されるフンやごみの再資源化(次世代エネルギーパーク構想)
- ・環境教育のため園内のごみ分別を家庭ごみ分別方式へ転換、ごみ箱を増設

スケジュール

2007年度(平成19年度)

- ・自然エネルギーについて札幌市の次世代エネルギーパーク構想で導入検討
- ・省エネルギーのための熱源転換や水の循環、再利用化の計画
- ・ごみ分別方式変更の準備としてごみ箱購入、段階的に分別実施

2008年度(平成20年度)以降

- ・次世代エネルギーパーク構想に基づき自然エネルギーの導入方法、時期等を決定
- ・熱源転換・水循環等の設計、ルート・設置位置の決定、排水管整備等

参考図表等



動物科学館に設置している太陽光発電(出力5kw)
(特定非営利活動法人 ひまわり種の会設置・所有)



現在は事業所方式の3分別
(燃やせる・プラスチック・ビンカン)

項目名	役割	行動指針	実施時期
エントランス機能の充実	-	-	22年度

概要

円山動物園のエントランスは、動物がいそうな雰囲気演出したり、楽しさや期待感を感じさせるものが相応しい。

外観を見ただけでも入りたくなるエントランスは、多くの来園者を誘引し動物園の顔としての機能を果たすものである。

よって、現在の門を改修し、より魅力あるエントランスにすべく正門・西門の整備を行う。

また、新たに南側入園口機能の整備(レストラン機能を兼ねる)を行い、円山西町住宅街からのアクセスを利便化する。

これに合わせて業務の効率化のため、券売の自動化を行う。

スケジュール

2007年度(平成19年度)～

券売の自動化検討・券売機の導入

2010年度(平成22年度)

レストラン機能を兼ねた南側入場口を整備

2011年度(平成23年度)以降

2階建て食堂・売店・園内交通駅機能を兼ねた西門(宮の森ゲート)を整備

正門(円山ゲート)を整備

参考図表等



現在の正門



現在の西門

項目名	役割	行動指針	実施時期
臨時駐車場の確保	-	-	23年度

概要

円山動物園は隣接する円山公園駐車場として833台分の駐車場を保有しているが、近隣に大規模な民間駐車場がないため、ゴールデンウィークなど繁忙期には最大3時間待ちの渋滞を招いている。今後、入園者数100万人を達成するにあたっては、公共交通の利用促進はもちろん、ピーク時の駐車場対策についても検討が必要である。

＜駐車場対策の具体例＞

少し離れた場所にある民間駐車場との契約や、近隣公共施設の駐車場と提携し、そこからピストンバスを運行する。

歩道アクセスや遊歩道表示の改善、地下鉄とのセット券の販売により公共交通機関の利用を促進する。

スケジュール

2008年度(平成20年度) 民間駐車場との調整・検討開始

参考図表等

項目名	役割	行動指針	実施時期
飼育動物の考え方	1	2	18年度

概要

円山動物園では園内をゾーン・エリアに分け、各ゾーン・エリアごとにテーマと伝えるべきメッセージを設定する。

飼育動物については、コレクション的に種類を増やすのではなく、このテーマとメッセージを担うべき動物に「選択と集中」を行う。このことにより、単に珍しい動物を展示する動物園ではなく、社会的な役割を担いメッセージを伝える「本物の動物園」を目指す。

<各ゾーン・動物舎の役割とメッセージ>

【北海道・北方圏ゾーン】

テーマ:人と自然の関係／メッセージ:「自然と地球環境を守ろう」

【野生復帰・自然体験ゾーン】

テーマ:希少動物の野生復帰／メッセージ:「生態系を守る行動をしよう」

【は虫類・鳥類エリア】

テーマ:高い技術に基づく希少動物の繁殖／メッセージ:「生物多様性の重要性」

【アジアゾーン】

テーマ:アジアの環境の多様性／メッセージ:「希少動物とその生息域を守ろう」

【アフリカゾーン】

テーマ:いのちの共存と食物連鎖／メッセージ:「命はつながっている」

【類人猿・モンキーエリア】

テーマ1:エンリッチメント／メッセージ:「動物の行動の面白さ」

テーマ2:開発に伴う自然破壊／メッセージ:「森を守ろう」

【ふれあいゾーン】

テーマ1:いのちの大切さと環境教育／メッセージ:「いのちに触れよう」

テーマ2:動物の進化と適応／メッセージ:「有袋類・夜行性動物の不思議」

スケジュール

各動物舎において逐次実施

参考図表等

<アジアゾウの新規導入について>

2007年1月にアジアゾウ「花子」が60歳で亡くなったため、“ゾウのいない動物園”となったが、今後、新たにゾウを導入するためには、繁殖を目的としてオスとメス複数等の「群れ」で飼うことが国際的なルールとなっている。

そのためには、新たなゾウ舎を建設する費用や、ゾウ担当飼育員の人件費など多額の投資が必要となることから、動物園だけの判断ではなく、市民議論を行ったうえで導入の可否について検討していくこととする。

2008年(平成20年)1月

「アジアゾウ花子を振り返る」開催、骨格標本展示、アンケート実施

2008年(平成20年)2月

「市長とおしゃべりしませんか」学生討論会 テーマ「円山動物園にゾウは必要か？」

	19 [2007]	20 [2008]	21 [2009]	22 [2010]	23 [2011]	24 [2012]以降
基本構想	第2次札幌新まちづくり計画			次期中期計画		
	先行取組期間	集中取組期間			[60周年/100万人]	
基本計画等	基本計画策定 環境教育プログラムの充実 サイン計画作成 円山エリアの取組			基本計画見直し		円山周辺地域整備
北海道北方圏	エゾシカ・オオカミ舎建設 旧施設解体	検討期間	エゾヒグマ館建設		検討期間	世界のクマ館改修 検討期間 海獣・ペンギン・ 第2ホッキョククマ館建設 旧海獣舎解体
野生復帰	検討期間	検討期間 野生復帰ゾーン新設 自然体験ゾーン新設				
は虫類鳥類		熱帯植物館解体	検討期間	新は虫類館建設 は虫類館解体(昆虫館・みかん温室含む)	検討期間	タンチョウ館建設 総合水鳥舎解体
アジア アフリカ	類人猿館改修		検討期間	検討期間 白鳥池解体	アジア館建設	検討期間 アフリカ館建設 ソウ館建設 検討期間 カ山増設・改築
ふれあい	子ども動物園改修					
便益施設 管理施設 エコパーク事業 バリアフリー	ラクダ舎横WC解体		検討期間	は虫類館横WC建設 クマ館横WC解体	検討期間	モンキーハウス横WC建設 旧施設解体 検討期間 西門建設 検討期間 正門建設 検討期間 野外ステージ建設 園内交通建設 検討期間 エコパーク事業 検討期間 バリアフリー等 (園路・サイン等...)

※この計画は、札幌市の財政状況や社会経済状況に応じて計画年次等を変更する場合があります。

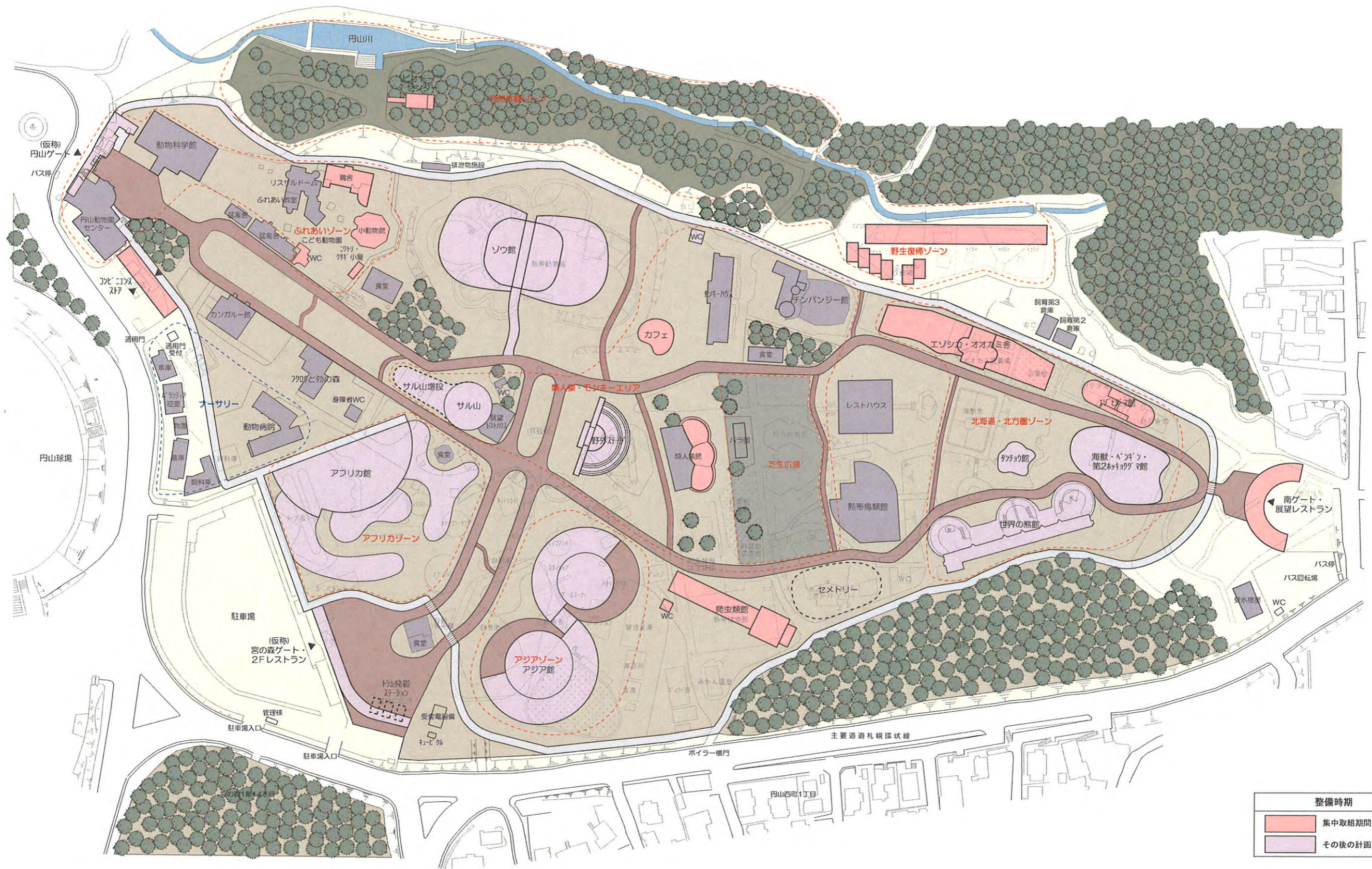
整備区分

- 撤去
- 新設
- 改修
- 民間

施設整備区分	
	新設
	改修

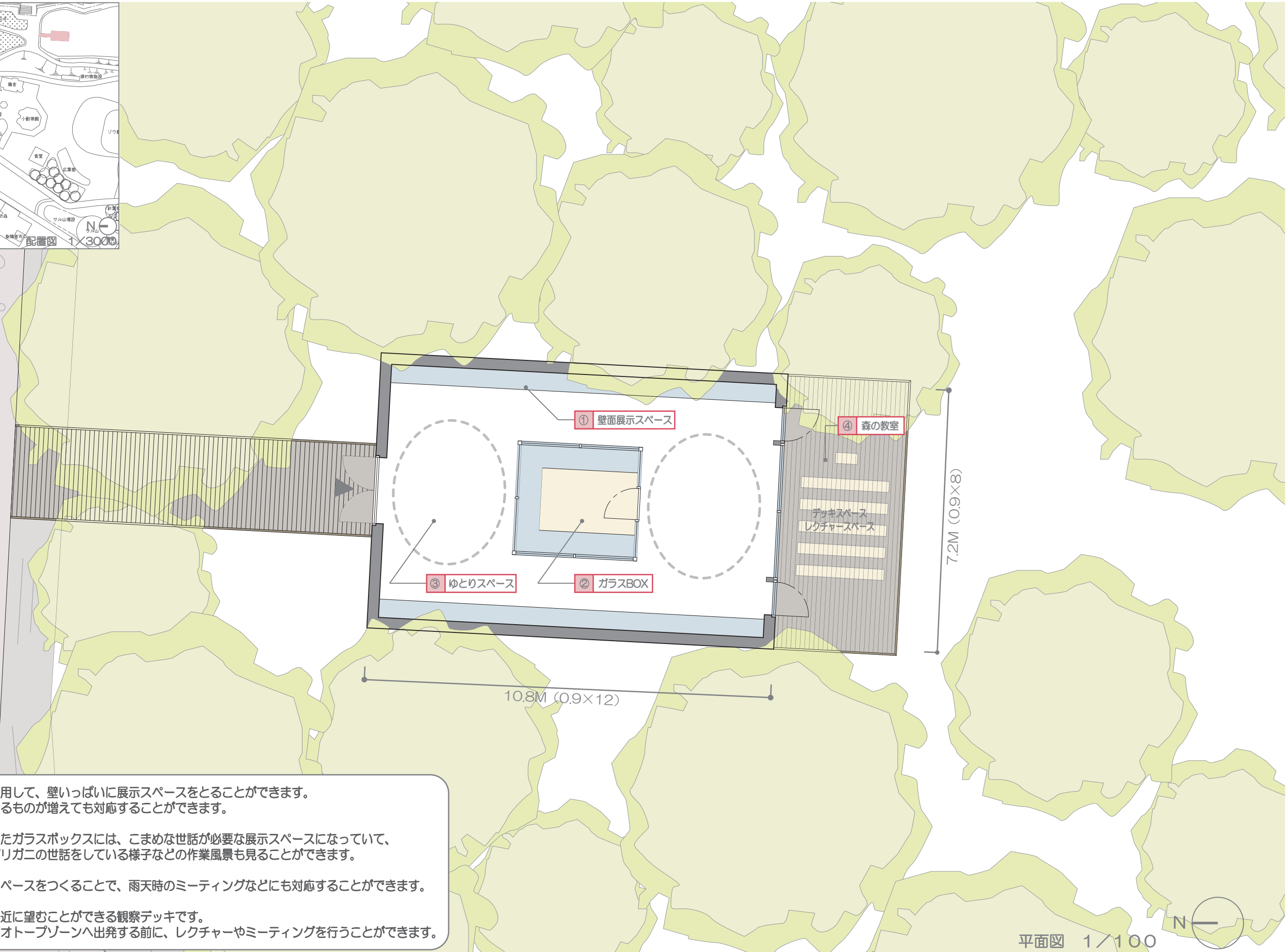
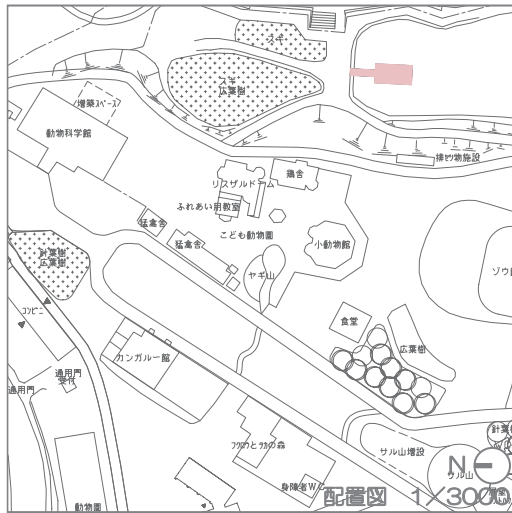


N
 A1: 1/1000
 A3: 1/2000



整備時期	
	集中取組期間
	その後の計画対象期間

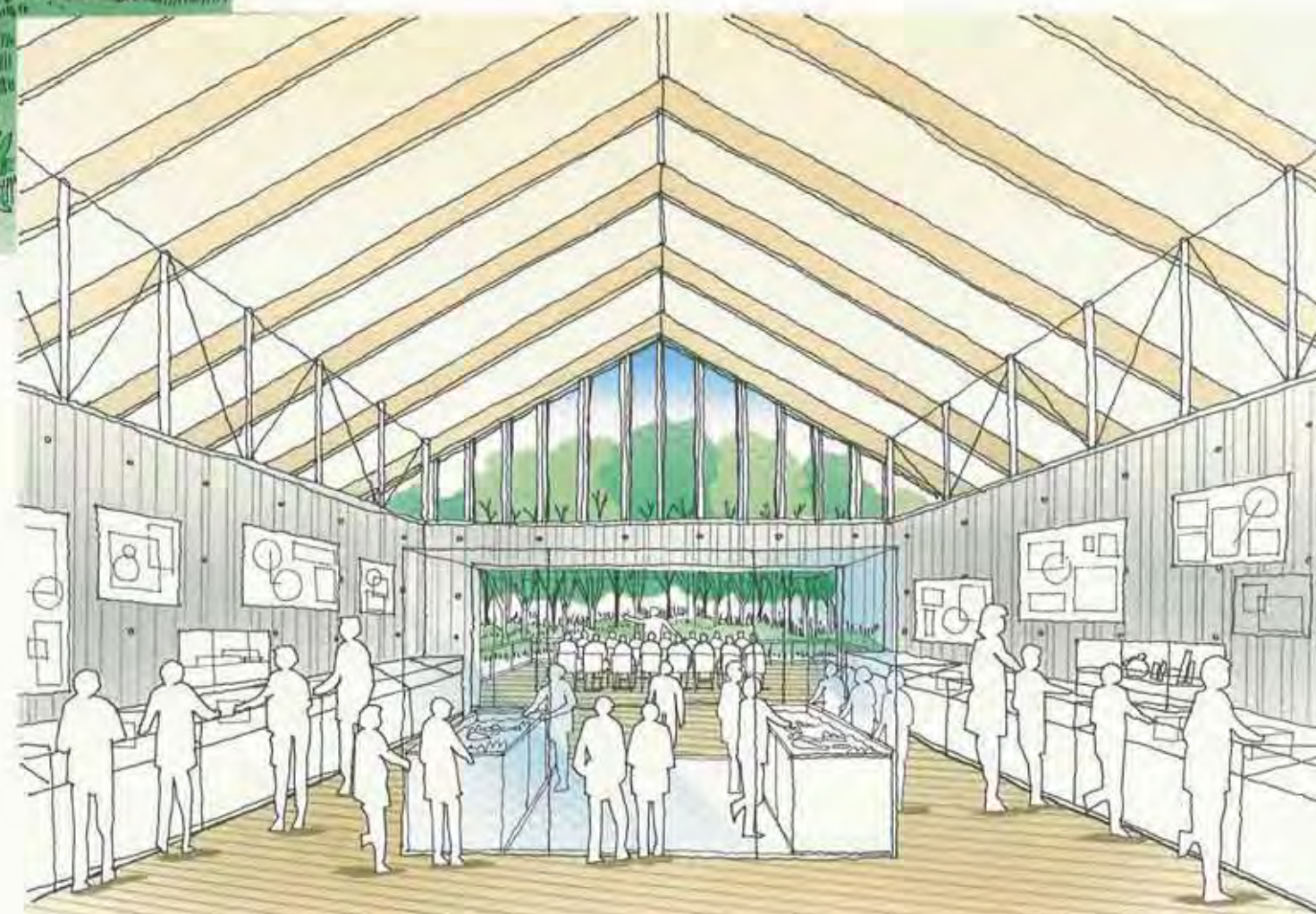




- ① 大きな壁面を利用して、壁いっぱいに展示スペースをとることができます。将来的に展示するものが増えても対応することができます。
- ② 中央に配置されたガラスボックスには、こまめな世話がが必要な展示スペースになっていて、飼育員さんがザリガニの世話をしている様子などの作業風景も見るすることができます。
- ③ ゆとりのあるスペースをつくることで、雨天時のミーティングなどにも対応することができます。
- ④ ビオトープを間近に望むことができる観察デッキです。晴れていればビオトープゾーンへ出発する前に、レクチャーやミーティングを行うことができます。

平面図 1/100





施設条件

- 1.冬眠できる仕組みを考慮する。
- 2.四季を伝える仕組みを考慮する。
- 3.常動行動を少なくするための、エンリッチメントの仕掛けを考慮する。
- 4.地面は土とする。
- 5.多目的に使える別飼スペースを計画する。

施設規模・性能	内訳	数	面積(m ²)		構造	環境調整			
			屋内/屋外						
エゾヒグマ館	ヒグマ	2	100/400	RC造	採光 + 蛍光灯	5℃ ~ 15℃	加湿器は不必要。 ただし、暖房による 極端な乾燥は避ける。	強制 + 自然	

方策集

- 目立たぬ建築 目立つ動物
- 水場と樹木は動物オアシス
- 動物の特性や表情を引き出す仕掛け
- 自然光の導入
- 貫入路やニッチ
- 来園者をひきつける工夫
- 檻や柵の工夫
- 身近な所から環境問題を考えるきっかけをつくる
- 野生動物、身近な動物の繁殖と、自然復元に向けた事業展開を行う
- 地勢を活かす

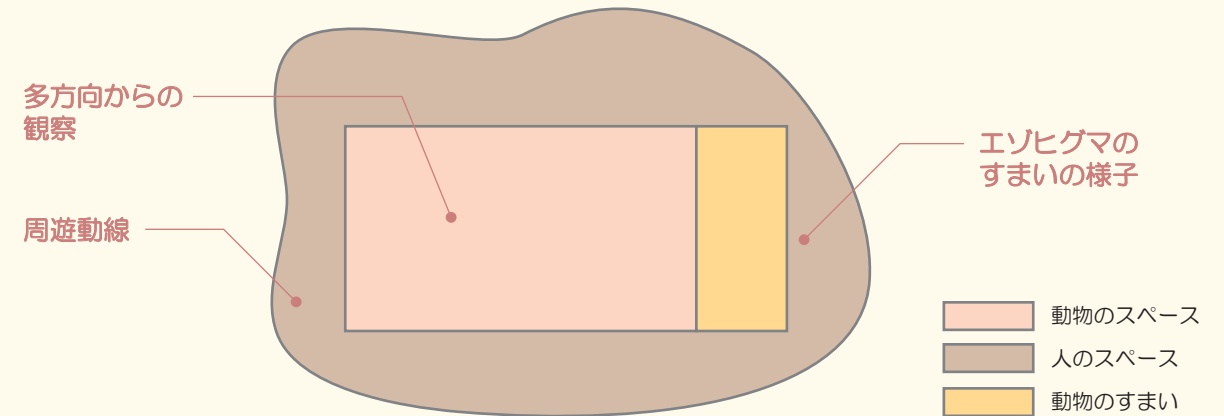
- 動物に対する方策
- 人に対する方策
- 自然環境に対する方策

動物基礎データ

1.円山における動物の歴史	開園当初からの飼育動物。
2.国内外の情勢・動向	20園館で飼育されている。繁殖は制限している園館が多い。
3.話題等	北海道の動物園として無くてはならない飼育動物。来園者にもメッセージが伝えやすいと考えられる。
4.メッセージ	ヒグマは北海道に昔から住む最大の肉食動物です。少し山に入れば出会う可能性はゼロではありません。そういう生活環境で私たちはルールを守ってヒグマと上手く付き合っていくことが大切です。
5.今後の展開	北海道を代表する動物として、展示は不可欠と思われます。メッセージを伝えられる単独獣舎を造ることが必要と考えられます。
6.将来構想	単独獣舎を造り、冬眠できる仕組み、四季を伝える仕組み等、北海道を伝えられる要素を多く入れ、エンリッチメントを仕掛け、地面は土に変更し、多目的に使える別飼スペースを用意し、熊の自然な動きを見せる。

ダイアグラム

動物ゾーンの外側を周遊するように見せることで、エゾヒグマの色々なシーンを楽しむことができる。



コスト削減の方策

- 幾何学的形状とし、出来るだけ直線を多く使い曲線を少なくする。



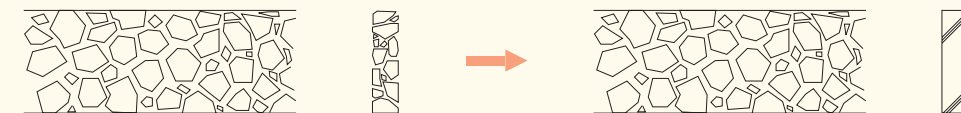
- 出来るだけ掘削をしない。



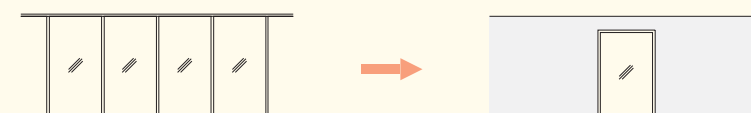
- 屋外展示場の床面は、コンクリートではなく土とする。



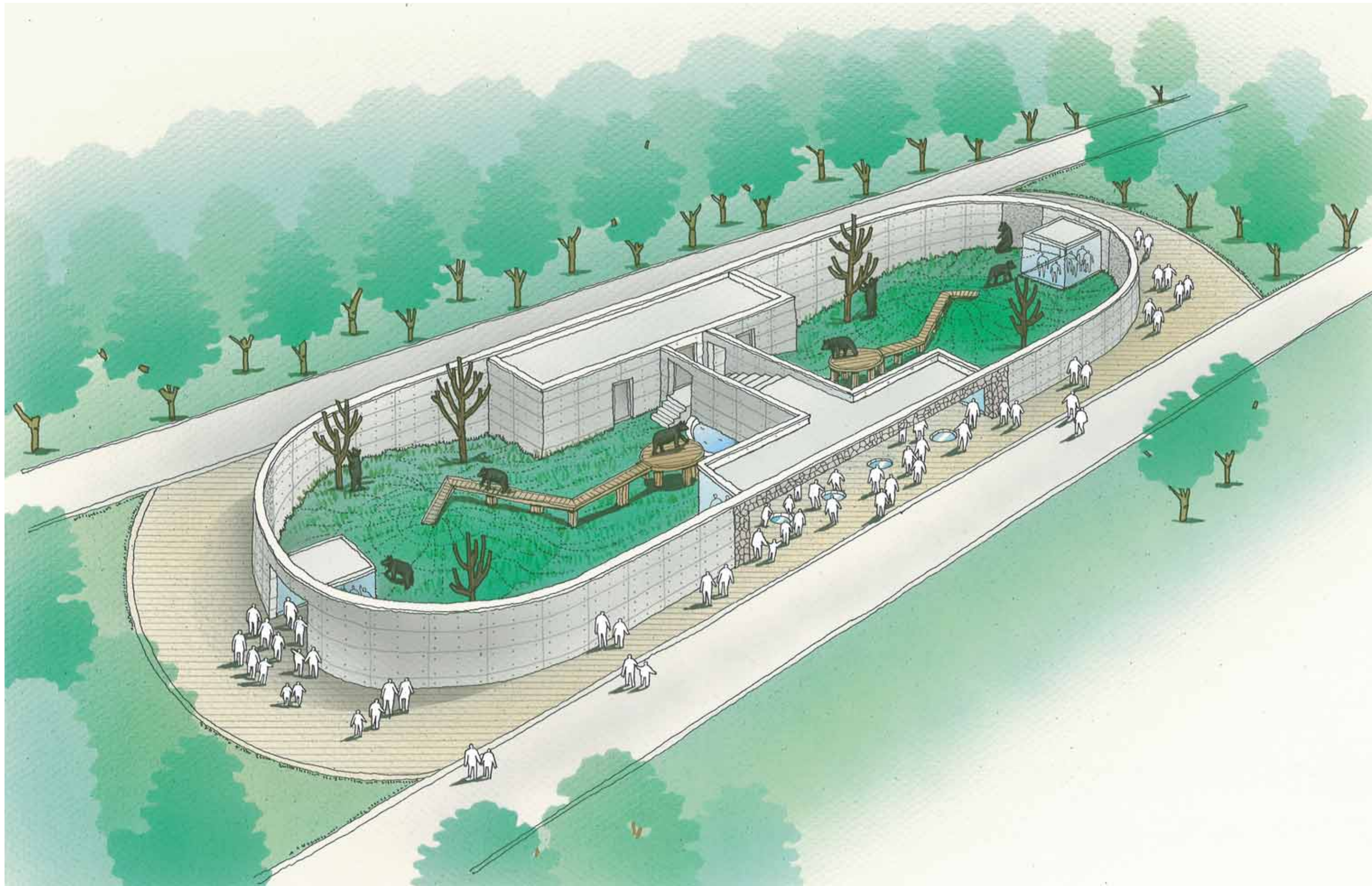
- 自然石を積むのではなく、コンクリートに切石を貼る。



- 動物の多様な見せ方を損なわずに、ガラス部分を最小にする。







施設条件

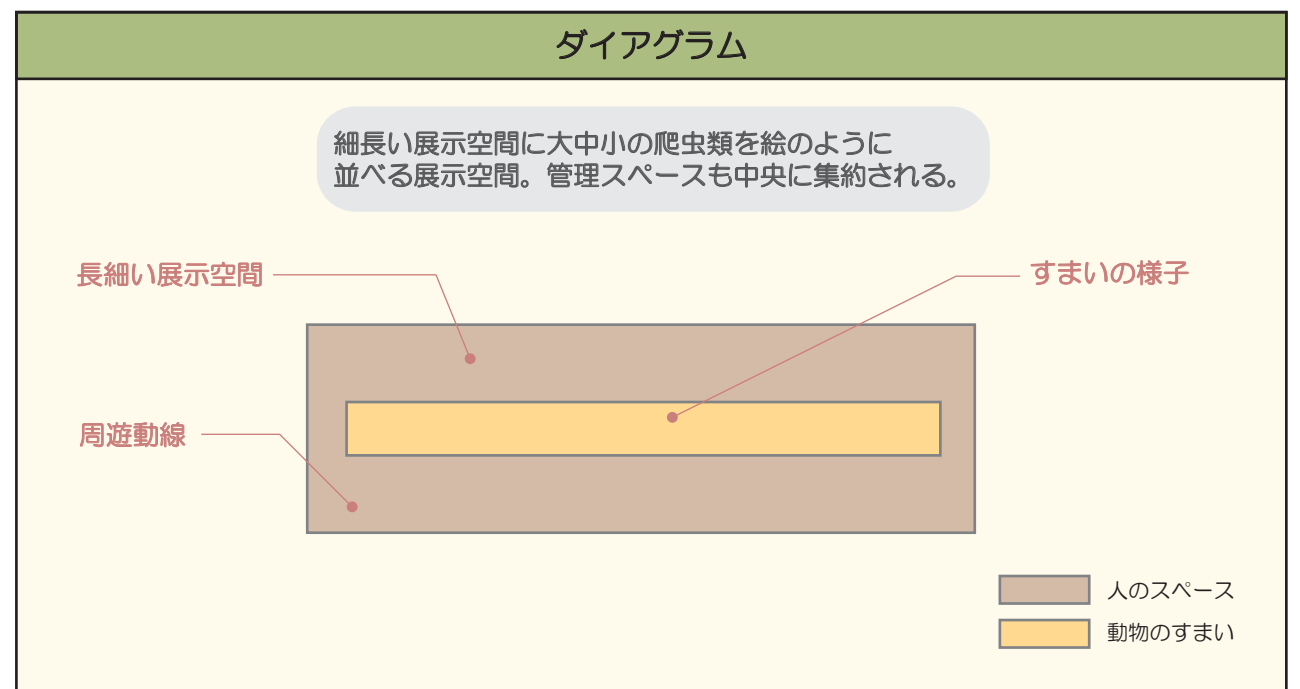
- 1.爬虫類の持つ形態的な特徴・美しさを近くで見られる展示とする。
- 2.種ごとの温湿度管理をしやすい計画とする。
- 3.水生種や立体行動をとる種など様々いるため、それぞれに適した見せ方を考慮する。
- 4.小型種から大型種までの様々な大きさの展示マスが必要なので、ある程度の自由度を兼ね備えた計画とする。

施設規模・性能	内訳	数	面積(m ²)		構造	環境調整			
			屋内/屋外			光	熱	湿度	換気
温帯産小型種	-	-	-		S造	採光 + 蛍光灯 + 温度調整用 スポット ライト	10℃ 30℃ 冬は冬眠	75%	強制 + 自然
温帯産大型種	-	-	-	30℃ 年中維持			75%ミスト設備		
熱帯産小型種	-	-	-	間欠自動散水					
熱帯産大型種	-	-	-						
その他	-	-	-						

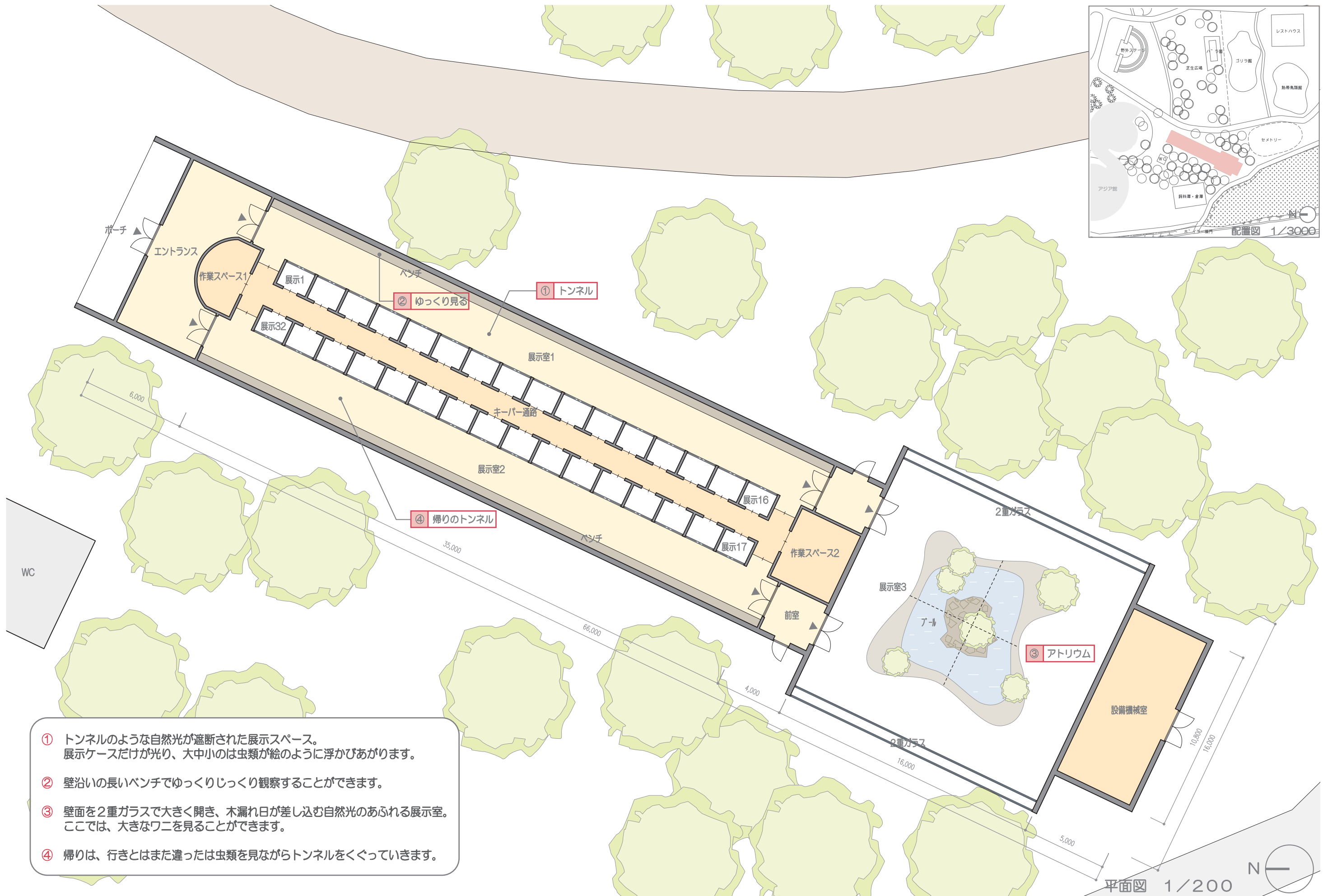
- ### 方策集
- 目立たぬ建築 目立つ動物
 - だれも見やすく 歩きやすい動物舎
 - 水場と樹木は動物オアシス
 - 季節ごとの魅力アピール
 - 動物の特性や表情を引き出す仕掛け
 - 親自然的な材料の選択と統一
 - 動物とゆったりじっくり向合う空間
 - 本来の生息地に近い環境づくり
 - 動物に会える わくわくドキドキ演出
 - “私のお気に入りの場所” づくり
- 動物に対する方策
● 人に対する方策
● 自然環境に対する方策

動物基礎データ

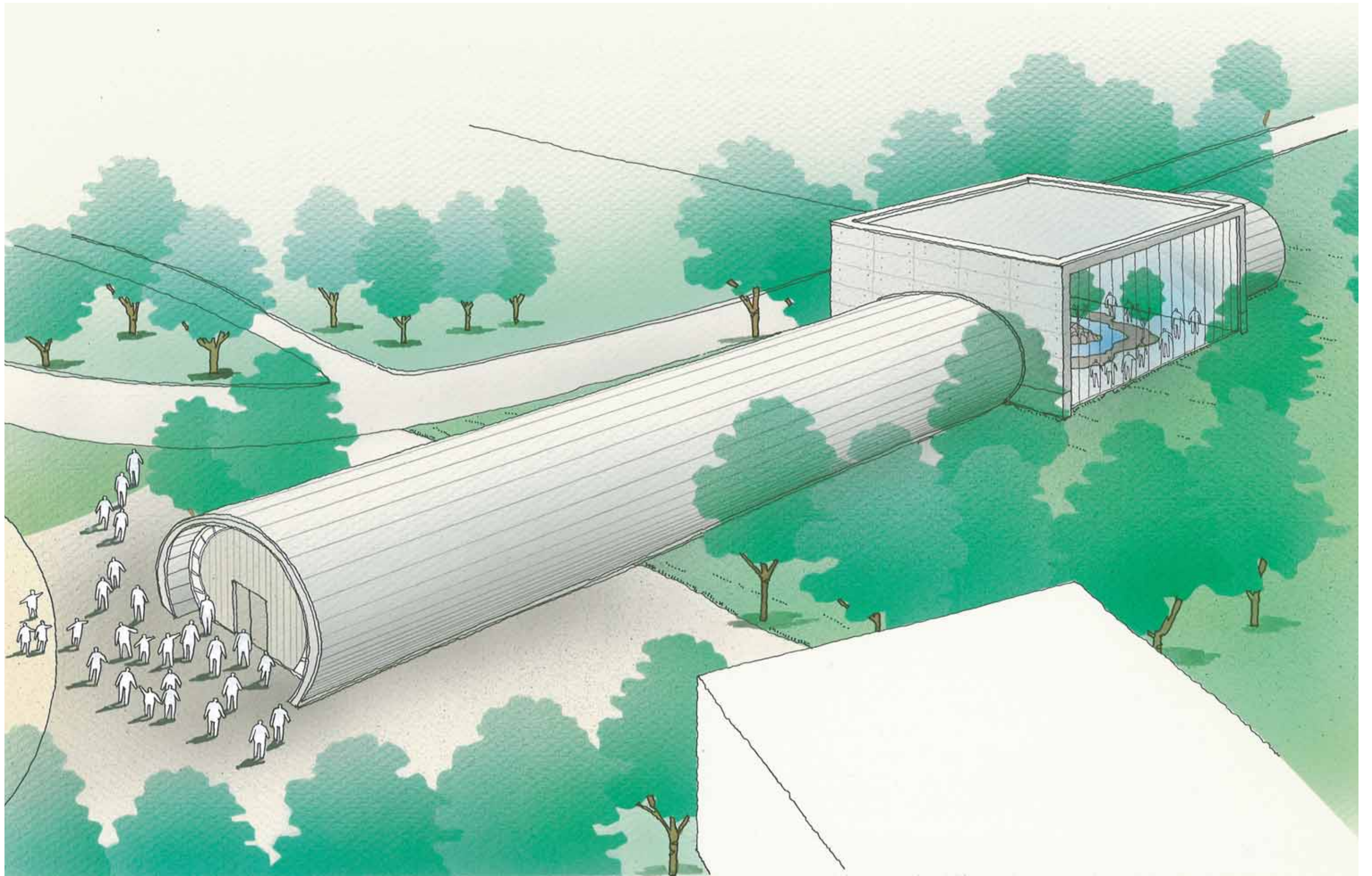
1.円山における動物の歴史	クモノス、ホシガメ、ホウシャ、ヒラオは密輸摘発個体。ミシシッピー、カンボジアモエギは保護、寄贈。
2.国内外の情勢・動向	・国内の動物園は爬虫類飼育技術レベルは非常に低い反面、一般飼育者のレベルは世界標準に達している。今後は重要展示物のひとつとして発展していく動向にある。 ・海外ではレベルの高い専門家が在籍し、一般人と技術協力を積極的に行い、共同で飼育繁殖事業を行っている。
3.話題等	希少種、飼育困難種の繁殖に成功しており、国内のは虫類分野をリードしていく立場にあると認識している。
4.メッセージ	・は虫類の魅力と形態、それを取り巻く生態系と現状 ・飼育下における希少種の保存と研究（特に国産種）
5.今後の展開	日本は世界でもアメリカに次ぐは虫類輸入王国で、世界最大の爬虫類消費国としても、日本の動物園は希少な個体たちを積極的に集め、魅力的な展示と積極的な繁殖を行うことが義務であると考えている。
6.将来構想	・温湿度管理を本来の生息地に近づけることで、冬眠や休眠状態の個体も展示することにより、本来の生態についてのメッセージを発信することが可能となる。



- ### コスト削減の方策
- 幾何学的形状とし、出来るだけ直線を多く使い曲線を少なくする。
 - 出来るだけ掘削をしない。
 - 屋外展示場の床面は、コンクリートではなく土とする。
 - 自然石を積むのではなく、コンクリートに切石を貼る。
 - 複数の展示ブースを集約する。



- ① トンネルのような自然光が遮断された展示スペース。展示ケースだけが光り、大中小のは虫類が絵のように浮かびあがります。
- ② 壁沿いの長いベンチでゆっくりじっくり観察することができます。
- ③ 壁面を2重ガラスで大きく開き、木漏れ日が差し込む自然光のあふれる展示室。ここでは、大きなワニを見ることができます。
- ④ 帰りは、行きとはまた違った虫類を見ながらトンネルをくぐっていきます。



施設条件

- 1.アジアの環境の多様さを体験できる空間。
- 2.屋内を充実させ、寝室ではなく展示場として考える。
- 3.冬季に屋外で映える動物の見せ方を考慮する。
- 4.地面は土とする。
- 5.動物と人間との距離を近くする。

施設規模・性能	内訳	数	面積(m ²)		構造	環境調整			
			屋内	屋外		光	熱	湿度	換気
トラ館	アムールトラ	2	150	1,400	RC造	窓 + 蛍光灯	20℃	なし	強制
ヒマラヤ館	ユキヒョウ	1	100	400			なし		
	ヒマラヤグマ レッサーパンダ	2 1	150 60	600 100					
温熱帯館	ペルシャヒョウ	2	100	400		蛍光灯	20℃		
	マレーバク	2	200	600					

方策集

- 目立たぬ建築 目立つ動物
- 水場と樹木は動物のオアシス
- 動物の特性や表情を引き出す仕掛け
- 本来の生息地に近い環境づくり
- 動物に大接近！間近で見れる工夫
- テーマ・ストーリー性のあるゾーン構成
- 檻や柵の工夫
- 身近な所から環境問題を考えるきっかけをつくる
- 野生動物、身近な動物の繁殖と、自然復元に向けた事業展開を行う
- 季節ごとの魅力アピール

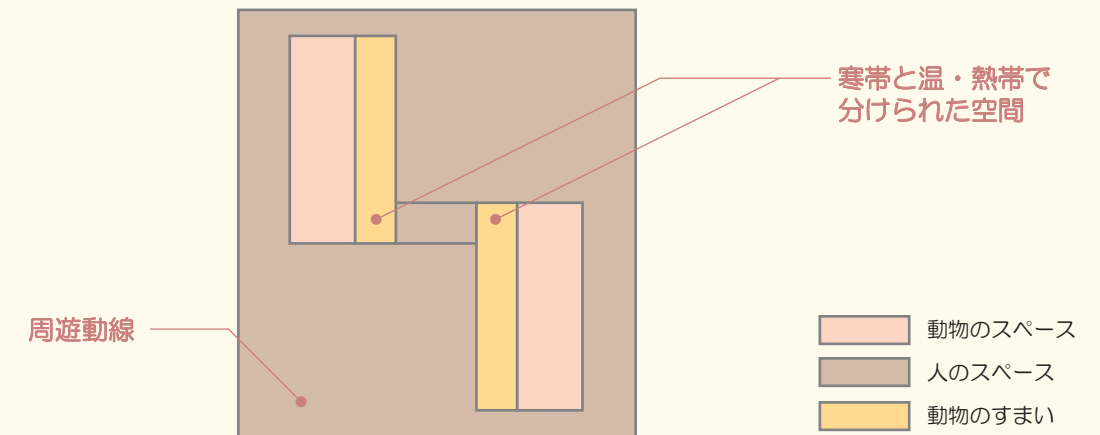
- 動物に対する方策
- 人に対する方策
- 自然環境に対する方策

動物基礎データ

1.円山における動物の歴史	S60年～(アムールトラ)・S50年～(ヒマラヤグマ)・S59年～(ユキヒョウ：国内初)
2.国内外の情勢・動向	・ペルシャヒョウは、現在国内5園館で♂5頭・♀3頭で飼育されていると思われ、円山の血統が個体の半数以上を占めている。 ・マレーバクは、IUCNで絶滅の恐れのある危急種にランクされている。
3.話題等	希少性・集客力のある動物が集まっているゾーン。
4.メッセージ	・アジアの環境の多様さ ・希少種の保存 ・生息地域の保全 ・本来の生息地とは全く異なる食べ物・環境を、如何に工夫して飼育しているか
5.今後の展開	繁殖チームを編成し、繁殖の見直し・環境の見直しが必要。(アムールトラ) 繁殖のためのペアリングの実施。(マレーバク) 国内外の動物園と連携して、種の保存に努める。(ユキヒョウ)
6.将来構想	・現猛獣舎では、寒帯に生息する種と、温帯・熱帯に生息する種が混在しているのは問題。繁殖のためには温度管理が必要で、屋外などにも岩山や産室を整備し、個体の好む場所を設置する。

ダイアグラム

アジアゾーンの広い気候帯（寒帯～熱帯）に生息する多様な動物と環境を体験できる施設。



コスト削減の方策

- 幾何学的形状とし、出来るだけ直線を多く使い、自由曲線を少なくする。



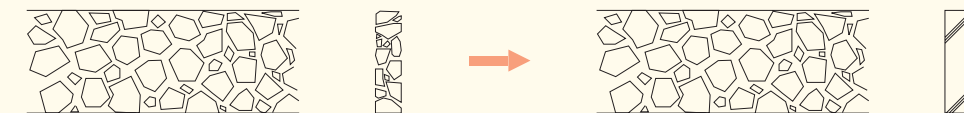
- 出来るだけ掘削をしない。



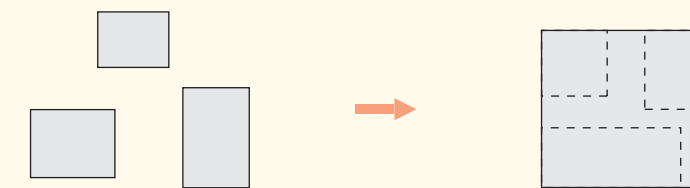
- 屋外展示場の床面は、コンクリートではなく土とする。



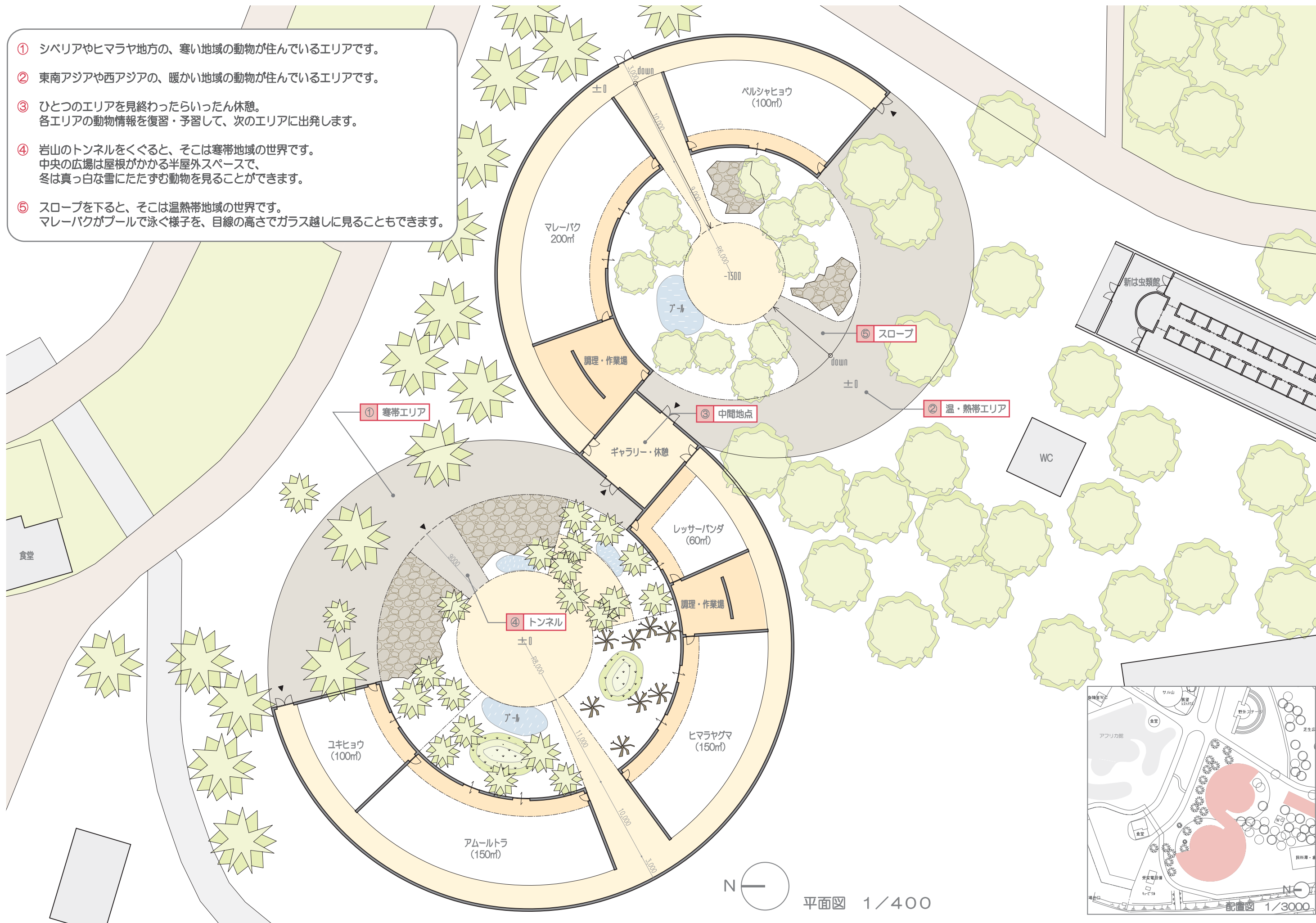
- 自然石を積むのではなく、コンクリートに切石を貼る。



- 複数の獣舎を合築する。



- ① シベリアやヒマラヤ地方の、寒い地域の動物が住んでいるエリアです。
- ② 東南アジアや西アジアの、暖かい地域の動物が住んでいるエリアです。
- ③ ひとつのエリアを見終わったらいったん休憩。各エリアの動物情報を復習・予習して、次のエリアに出発します。
- ④ 岩山のトンネルをくぐると、そこは寒帯地域の世界です。中央の広場は屋根がかかる半屋外スペースで、冬は真っ白な雪にたたずむ動物を見ることができます。
- ⑤ スロープを下ると、そこは温熱帯地域の世界です。マレーバクがプールで泳ぐ様子を、目線の高さでガラス越しに見ることができます。





施設条件

- 1.混合飼育風の見せ方とする。
- 2.屋内を充実させ、寝室ではなく展示場として考える。
- 3.駐車場からキリンが見えるような配置計画。
- 4.地面は土とする。
- 5.動物と人間との距離を近くする。

施設規模・性能	内訳	数	面積(m ²)		構造	環境調整			
			屋内/屋外	光		熱	湿度	換気	
草食動物サファリ	キリン	3	300/1,000	RC造	採光 + 電灯	5℃ ~ 15℃	加湿器は不必要。 ただし、暖房による 極端な乾燥は避ける。	強制 + 自然	
	シマウマ	3	200/300						
	ダチョウ	2	100/200						
	エランド	2	150/300						
ライオン館	ライオン	4	200/350						
カバ・ペリカン館	カバ	2	150/600						
	ペリカン	5	50/-						

方策集

- 目立たぬ建築 目立つ動物
- 水場と樹木は動物オアシス
- 動物の特性や表情を引き出す仕掛け
- 動物とゆったりじっくり向合う空間
- 貫入路やニッチ
- 目線の変化
- 檻や柵の工夫
- 身近な所から環境問題を考えるきっかけをつくる
- 野生動物、身近な動物の繁殖と、自然復元に向けた事業展開を行う
- 地勢を活かす

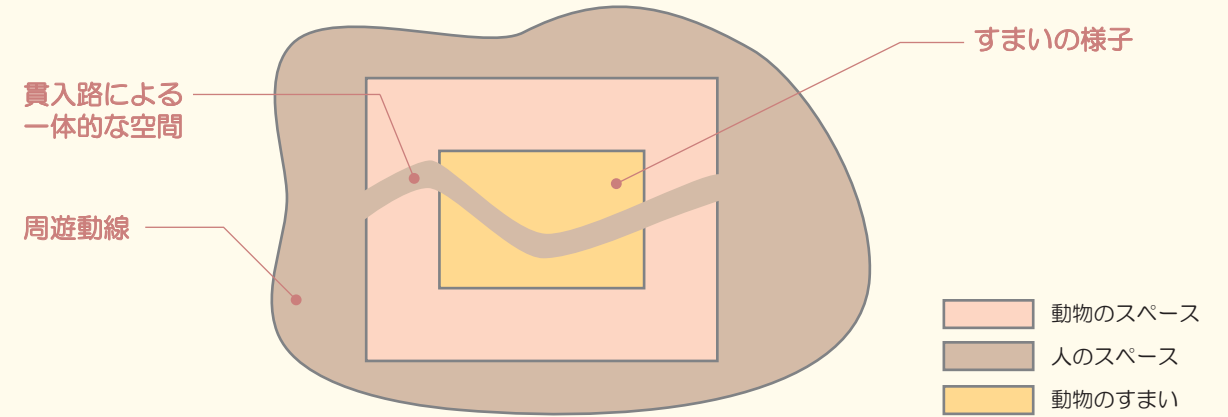
- 動物に対する方策
- 人に対する方策
- 自然環境に対する方策

動物基礎データ

1.円山における動物の歴史	S31年~(シマウマ)・S33年~(カバ)・S34年~(エランド)・S41年~(ダチョウ)
2.国内外の情勢・動向	・マサイキリンは他園に多く飼育されているアミメキリンに対して少数である。 ・ライオンは各動物園で増えすぎのため繁殖制限。
3.話題等	動物園には必須ともいえる動物が集まっているゾーン。
4.メッセージ	・共存 ・自然破壊 ・食物連鎖 ・進化の過程(キリン)
5.今後の展開	現ペアでは血統上繁殖は厳しいため、オスを導入して新ペアにする。(加)繁殖させ人工保育など若い飼育員にその技術を継承する。大型ネコ科の人工保育は30年前にあったきり。(ライオン)
6.将来構想	・サファリ式で草食動物との混合飼育。(ダチョウ・エランド・シマウマ・キリン) ・群れで飼育・雄の展示(エランド) ・水中の行動を見せる仕組み(カバ)

ダイアグラム

動物ゾーン外側の周遊路と貫入路により、ゾーンとしての一体感と、多方向からの観察が可能となる。



コスト削減の方策

- 幾何学的形状とし、出来るだけ直線を多く使い曲線を少なくする。



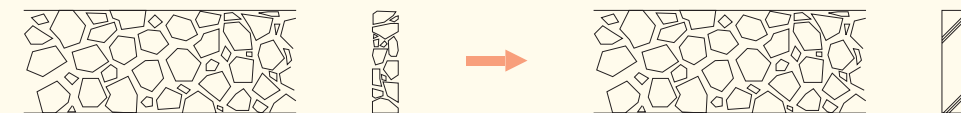
- 出来るだけ掘削をしない。



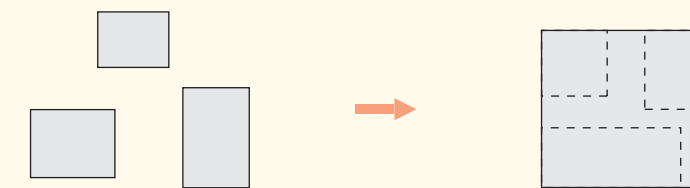
- 屋外展示場の床面は、コンクリートではなく土とする。

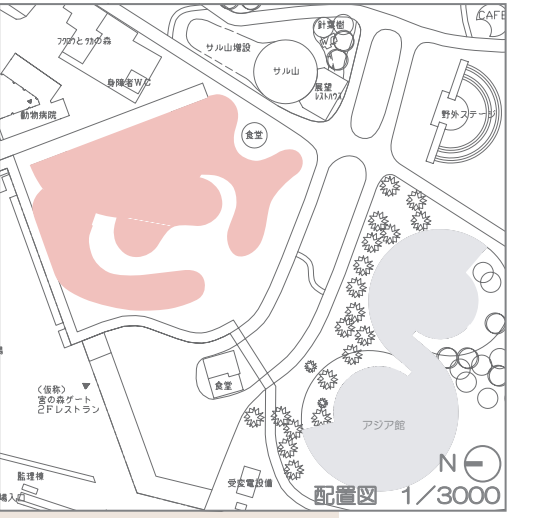
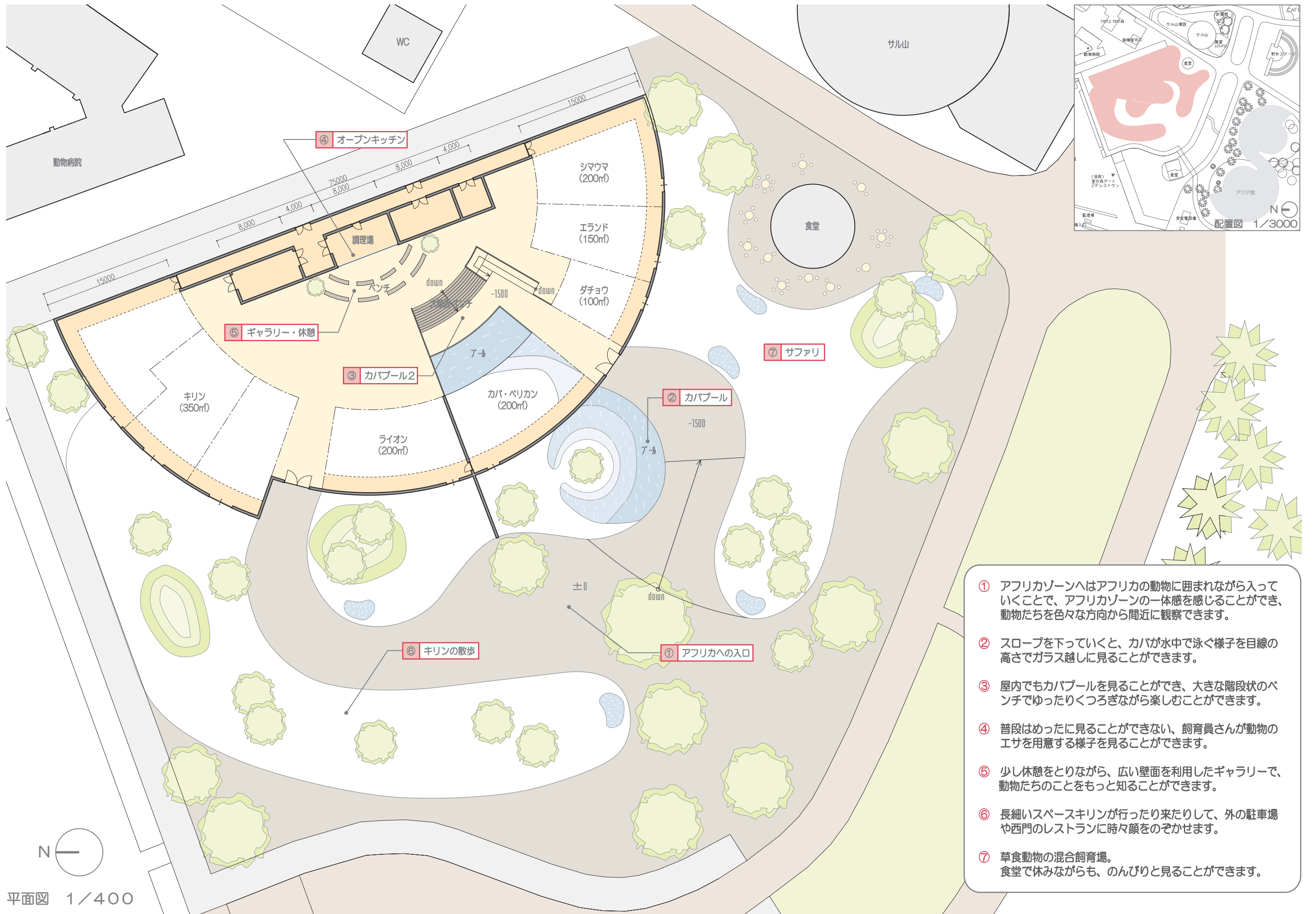


- 自然石を積むのではなく、コンクリートに切石を貼る。



- 複数の獣舎を合築する。





- ① アフリカゾーンへはアフリカの動物に囲まれながら歩いていくことで、アフリカゾーンの一体感を感じることができ、動物たちを色々な方向から間近に観察できます。
- ② スロープを下っていくと、カバが水中で泳ぐ様子を目線の高さでガラス越しに見ることができます。
- ③ 屋内でもカバプールを見ることができ、大きな階段状のベンチでゆったりくつろぎながら楽しむことができます。
- ④ 普段はめったに見ることができない、飼育員さんが動物の工サを用意する様子を見ることができます。
- ⑤ 少し休憩をとりながら、広い壁面を利用したギャラリーで、動物たちのことをもっと知ることができます。
- ⑥ 長細いスペースキリンが行ったり来たりして、外の駐車場や西門のレストランに時々顔をのぞかせます。
- ⑦ 草食動物の混合飼育場。食堂で休みながらも、のんびりと見ることができます。



平面図 1/400



札幌市円山動物園基本計画

編集・発行 平成 20 年 8 月

札幌市環境局円山動物園経営管理課
〒064-0959

札幌市中央区宮ヶ丘 3 番地 1

電話 011-621-1426

市政等資料番号
00-J08-08-634

FAX 011-621-1428

<http://www.city.sapporo.jp/zoo/>